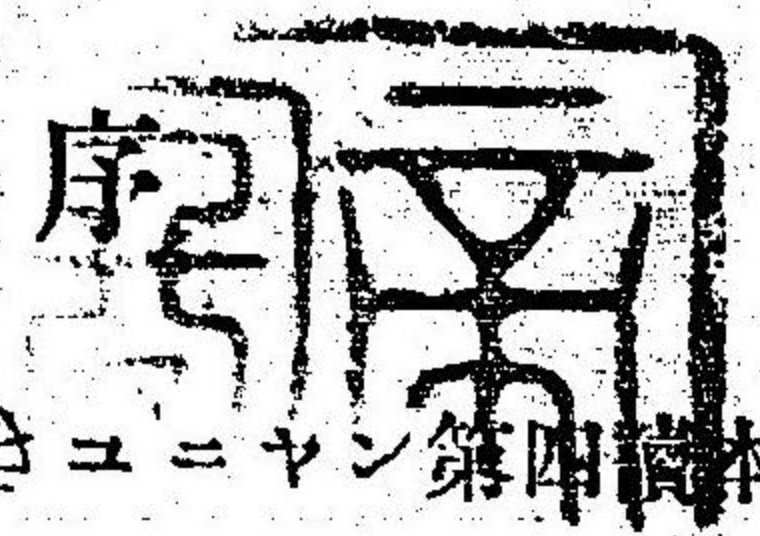


181-173



本書は續いて發刊すべきユニヤン第四讀本詳解講義の第一篇なり。

ユニヤン第四讀本の世に行はるゝや既に久しく、從つて之が註釋等も亦甚からず。然れども其多くは「こと程左様に」「するべく」的の所謂舊式の直譯體かさなくば散漫蕪雜原文と相異なる極めて遠き所謂極端なる意譯體にして徒に讀む者をして五里霧中に彷徨せしめ、一として其原意を了得せしむるに足るものなきが如し。

譯者の不敏、敢て本書を以て如上の缺點を悉く補ひ得たるものなりとせず、然れども其譯文をして能ふ限り原文に忠ならしめ其註解をして紙數の許す限り詳密にし、以て讀者の了解に便ならんことを勉めたるの點に於ては、聊か在來の物に比し一日の長あるを信す。

唯憾むらくば譯者の淺學非才なる、識者の眼より見れば或は隨所に誤謬釋散亂し、讀者をして却つて邪路に迷はしむることなきを保せず。冀くば博雅の士、譯者の微意のある所を諒とし、叱正に吝ならざらんことを。

明治四十三年五月

仙臺にて



譯者識す

凡 例

1. 本書はユニヤン第四讀本中諸種の抜萃に最も多く引用せられ居るもの十章を撰み、以て其何れにも適用し得るようにしたるを以て、各章の順序必ずしも原本と一致せず。
2. 讀者は先づ【註】の部に於てよく語句の意味を會得し、然る後原文を讀み、しかも猶全文の意を捕捉し得ざる時始めて譯文を視るを可とす。
3. 譯文中、原文其儘の句讀點を用ひ、以て一層讀者の彼此對照に便ならしめたり。而して文中()内の文句は文意を明晰ならしめんがために、譯者が殊更に敷衍せしものなり。
4. 引例は概ね内外大家の名著より取りしも、間々譯者の改作せしものなきにあらず。
5. 書中 *Italic* となれる部分は特に注意すべきものなるを示す。

CONTENTS.



1. ✓ True Heroism. 1—58
2. ✓ The Truthful King. 59—89
3. ✓ My Mother's Last Kiss. 90—123
4. ✓ Faithfulness in Little Things. 124—155
5. The Young Captives. 156—187
6. ✓ Chase of the Pet Fawn. 188—214
7. ✓ Webster and the Woodchuck. 215—248
8. Do it Yourself. 249—264
9. The Old Eagle Tree. 265—284
10. Whang, the Miller. 285—319



True Heroism

眞 勇

1. 私が少年時代、まだ中學校へ通つて居た頃受けた教訓は何時までも、はもや忘る様なことはあまい。(事のおこりは訂まづ、かうしたものです) 私の學友(の中)にハートリー(と云ふ者)とヴィンセント(と云ふ者)とありました、二人共私よりは年上で、(就中)ヴィンセントは何か相談事とか、遊戯の事などきめる様な場合には大將株みたいに崇められて居たんです。

【註】 I shall never forget.....

比較:— 「.....をばよもや忘る様なことはあまい、 (=忘れられない)」

I will never forget your kindness.

「御親切は決して忘れは致ませぬ」

to receive a lesson.

「教訓を得る」「大に悟る所がある」

when quite a young lad

=when (I was) quite a young boy. 「少年の時」

while attending an Academy

=while (I was) attending an Academy

「中學校時代に」

Academy=a school holding a rank between a college

and a common school. 「中學校」

Among my schoolmates were Hartly and Vincent.

「私の學友(の中)にハートリと云ふ者とヴィンセントと云ふ者があつた」。

【類例】 The captain sent out a party of men, among whom were your brother and I.

「船長は一組の人々を遣つたが御前の兄弟も私も其一人だつた」。
Among the places which he frequently visited as a merchant, was the city of Tunis.

「彼が商人として屢やつて行つた處の中にチュニスと云ふ町があつた」。

They were both older than myself=Both of them were.....

「二人共私よりは年上であつた」。
to look up to 「崇める」「敬ふ」 to look down upon 「賤しむ」に對す。

【例】 The child should look up to his parents.
「子たるものは其親を敬ふべきものだ」

由て
to look up to.....as.....

「.....を——として崇める」「.....を——として敬ふ」「.....を——として仰ぐ」

【例】 We look up to Mr. Saito as an authority on English Grammar.
「吾々は齋藤氏を以て英文典のオーソリチとして(=と仰いで)居る」。

【参考】 They look down upon me as a sort of dependent.
「僕は何か食客みた様に見下げられて居る」

as.....「.....として」「.....と」

【例】 I look upon him as my benefactor.
「僕はあの人を恩人と思つて居る」。
He regards me as his enemy.

「あの男は僕を敵視して居る」。

They speak of him as a good teacher.

「世間ではあの人を良教師だと云つて居る」。

He described her as a beautiful woman.

「あいつはその女をば美人だつて云つた」。

a sort of leader 「一種の主導者」「大將みた様な者」「大將株」。

leader の前に冠詞のなきに注意せよ:—

【参考】 A gig is a kind of carriage.

「ギグとは馬車の類である」。

I don't care for that sort of thing.

「おりや、そんなものはほしくない」。

I was a sort of champion among the boys of my own age.

「僕は云はば餓鬼大將だつたのさ」。

In..... 「.....に就て」「.....に當つて」。

matters of opinion 「相談事」。

【参考】 matter of course 「勿論の事」 matter of choice 「取捨自在の事」
matter of fact 「事實」 matter of importance 「重大事件」 matter of surprise 「意外な事」 matter of taste 「趣味に関する事」。

in directing our sports.

「遊戯の指圖をする際に」「遊戯を如何するとか、かうするとか極める場合に」。

【参考】 He directed me to the left-hand road.

「彼は僕に左の方へ行けと云つて呉れた」。

He can hardly direct the affairs of a nation.

「彼では一國の政事を左右することは覺束ない」。

He directed them to leave the room at once.

「彼は其人々に早速出て行けと命じた」。

Have you directed the letter?

「其手紙に宛名を書きましたか」。

2. 彼は心は何も悪い子ではなかつたが；頓智がある人にイヤミを云ふが上手だと思はれたいと云ふ馬鹿な考をいだいて居た；だから平生何事によらず馬鹿にしてしまふので皆のものに恐がられて居た。で何だか何時でも何が戯談いつにしてしまへる様なことが起つてくれれば良いがとそればかりを探して居る様に思はれた。

【註】 at heart (=at bottom) 「衷心は」 「(外面は兎も角) 心底は」

【例】 His manners are very cold, but he is at heart a kind man.

「彼は態度は至つて冷淡だけれど心は親切な男だ」

malicious 「悪意のある」 「意地のわるい」

a foolish ambition of being thought.....

「.....と思はれたいと云ふ馬鹿げた望」

sarcastic 「皮肉な」 「いやみを云ふ」

he made himself feared by.....

「.....あるがために人におぢられて居た=(おぢらるゝ様にした)」

【類例】 The king made himself feared by his cruelty.

「其王様は残酷なので恐がられて居た」

I could not make myself understood.

「僕の云ふ事をよう分らさなかつた(=人によつて合點させなかつた)」

I could not make myself heard on account of the noise.

「かやかや騒ぐものだから私の云ふ事が聞えなかつた」

You must make yourself respected.

「人に敬ばれるようにせなくてはいけない」

a habit of..... 「.....する癖」 「.....するのが得手」

turning things into ridicule.

「凡て物事をチヤにしてしまふ」

凡て此句形は 'into' の前なるものを變じて 'into' の後にあるものとなす意なり。

【例】 Heat turns water into steam.

「熱は水を變じて蒸氣となす」

Kiyohime turned herself into a serpent.

「清姫は蛇になつた」

The caterpillar turns into a butterfly.

「蛾は變じて蝶となる」

The temple was turned into a school.

「御寺が變つて學校となつた」

to look out for 「探す」 「今か今かと待つて居る」

【例】 He is looking out for something he wants.

「彼は何か要るものがあつて探して居る」

looked for something to occur.

「何か事の起るのを探して居る」 「何か事起れがしに鶉の目鷹の目で探して居る」

【注意】 'for' の次にあるものが下に來る 'to-' なる infinitive の意味上の主語なり。

【参考】 I watched for an opportunity to occur.

「機會のあるのを待つて居た」

I waited for him to come.

「彼の來るのを待つて居ました」

I waited for the sun to go down.

「日の入るのを待つて居た」

How I long for that time to come!

「早く其時が來ればよいかな」

which 上の 'something' を受く。

turn into derision 「馬鹿にしてしまふ」「二行目参照」。

3. ハートリは新入生で、生徒間には(まだ)餘り知られて居なかつた。處が或朝私共が登校の途中で、彼が往來をば牛を驅り立てて牧場の方へ行くのを見受けました。が丁度彼が通つて居る處へ一群の生徒がやつて参りまして之へ出くはしたんです、中には(例の) ヴィンセントも居ました。

【註】

little=not much 「たんとない」「少ない」。

'little' と 'a little' との區別をよく明にし置くべし。

- | | | |
|-----|--|-----------------------------|
| 比較: | I have <i>little</i> money.
「僕は金は少 <u>しか</u> ない」。 | 別に金額に差あるにあらず、其見方を異にしたるのみなり。 |
| | (...澤山あるのか?)。 | |
| 比較: | I have <i>a little</i> money.
「僕は金は少 <u>し</u> はある」。 | |
| | (...あるのか、ないのか?) | |
| 比較: | He has much learning, but <i>little</i> experience.
「彼の人は學問は随分あるけれど、 <u>経験は少ない</u> 」。 | |
| | He has much learning, besides <i>a little</i> experience.
「彼の人は學問も随分あるし、 <u>経験も少しはある</u> 」。 | |
| 比較: | He is <i>little</i> better this morning.
「今朝もさしてか は りはない、(別に よい こともない)」。 | |
| | He is <i>a little</i> better this morning.
「今朝は少々 は よい 方 だ」。 | |

【参考】 'few' と 'a few' との関係も上の 'little' と 'a little' との関係に同じ、唯 'few' 又は 'a few' は數を表すに用ひ 'little' 又は 'a little' は量を表すに用ふるの差のみ。

- | | | |
|-----|--|------|
| 比較: | The book has <i>few</i> faults.
「此本には缺點は少 <u>ない</u> 」。 | (稱賛) |
| | The book has <i>a few</i> faults.
「此本には缺點が少 <u>し</u> ある」。 | (非難) |

Among the boys 「生徒間に」。

【例】 This newspaper has a large circulation *among* students.

「此新聞は學生間に大變賣れる」。

One morning = *on a certain* morning 「或朝」。

【参考】 One day 「或日」(過去). One of these days 「其中何時か」(未來)。

As we were on our way to school

= As we were going to school.

「學行へ行て居る途中で」。

【注意】 行先を示さざる時は 'way' の前の持格代名詞に變ふるに 'the' を以てす、次の文を比較せよ。

{ When I was going to school, I met a friend *on the way*.

{ I met a friend *on my way to school*.

「上校の途中で友人に出會つた」。

{ He must have lost it *on the way*.

{ He must have lost it *on his way here*.

「(此處へ來る)途中で落したに違ひない」。

along the road

「大道に沿うて」「大道を通つて」。

【例】 We walked *along* the shore.

「海岸に沿うて歩行いた」。

The army *marched along* the highway.

「軍隊は大道を通つて行進した」。

toward the pasture.

「牧場の方へ」。

【注意】 'toward' と 'to' との區別は、'to' は「到着く考で動く」時に用ひ 'toward' は「到着く考なくして動く」時に用ふ。

{He went to the door. 「彼は戸口へ行つた」。

{He moved toward the door. 「彼は戸口の方へ寄つた」。

A group of boys.

「生徒の一群」と譯するは拙なり、宜しく「一群の生徒」などとして譯すべし。

【参考】 'a party of travellers.' 「一隊の旅人」 a herd of horses 「一群の馬」 'a pack of wolves' 「一群の狼」等。

met him as he was passing.

「丁度ハートリが通つて居る處へ出くはした」。

4. ヴィセントが言ふのに『さー、あの田舎漢殿をチヨットばかり嘲弄つてやらうではないか』。かく言つて置いて大きな聲して：『オイ、サヨナザン公！牛乳は何程かえ？牛は何を食はして飼ふんだ？角の上な金悉皆を何程に賣るんだえ？から、諸君、パリの最新形が見度いなら、あの長靴を見給へ！』と云ひました。

【註】

Now,.....「今」の意にあらず「サー」「イザ」の意なり。

Now, let us go. 「サー、行かう」。

Let us have a little sport with.....

「...をチトばかり、からかつてやらうではないか」。

Let us + infinitive without "to".....

「.....しようではないか」。

即通常事を協議する時に用ふる語法なり。

【例】 Come, let us have a good run, and that will make us warm.

「サー、ウント走らうではないか、そしたら身體が暖る」。

Where shall we go? Let us go up the hill.

「何處へ行かう？ 小山に登らうではないか」。

【参考】 let me は許可を請ふに用ふ。

【例】 Mother, let me make the tea this time.

「御母様、今度は私に茶をたてさして頂戴」。

Let me see the place.

「どんな所か僕に一つ見せ給へ」。

have a little sport with.....

a little は實は much とあるべきを ironical (反語的)

に云へるにて其眞の意は「タンと」なり。

to have a sport with..... (=to sport with.....) 「.....

をなぶる」 「.....を馬鹿にする」。

【類例】 He is not in earnest; he intends only to have a sport with us.

「あの人は本氣で言つて居るんぢやない、私共を馬鹿にする氣だ」。

【類句】 'to jest with!' 'to trifle with' 'to make a fool of' 'to make fun of' 'to make a mock of' 等。

Our country rustic 「田舎漢先生」 'our' は嘲弄の意を含む。

So saying 「かく云つてから」。

Halloo 「オイ」。

Jonathan 外人は往々合衆國人を呼ぶに此名を以てすることあり。侮蔑の意を含めり。故に Vincent も其言ひ方に倣ひかく云うてハートリを罵れるなり。

What is the price of milk?

「牛乳の代は何程?」

What do you feed her on?

「(牝)牛には何を食はして飼うんだ?」

【注意】前置詞の目的語が疑問詞なる時は本文の如く其前置詞は往々文の終りに廻さる事あり、注意すべし。

【例】 *Whom is this letter for?*

「此手紙は誰にやるのですか?」

What are you looking at?

「君は何を見て居るのか?」

What are you thinking of?

「君は何を考へて居るんだ?」

On..... 「.....を食はして(飼ふ)」 「.....を食つて(生きて居る)」

【例】 *I feed my canary on miller.*

「私はカナリヤには粟を食はして飼つて居ます。」

Sheep feed on grass.

「羊は草を食つて生きて居る。」

He lives on his father.

「親の腰を帯つて居る。」

I don't care for much wealth; I am contented with a sufficiency to live upon.

「僕はさして金も欲しくはない、食つていかれる丈けあれば澤山だ。」

The hawk preys on small birds.

「鷹は小鳥を捕へて食ふ。」

The Japanese thrive on vegetable diet.

「日本人は菜食だ。」

What will you take for.....?

「.....を何程に賣るか?」

‘what’ = ‘how much’ 「何程」、かゝる場合に ‘how much’ と云ふ代りに ‘what’ を用ふることは注意すべし。

【例】 *What did you give for this knife?*

「君、此ナイフに何程出した?」

What did it cost you?

「それは何程したのか?」

‘Will you’ 先方の意志を問ふ

【例】 *Will you go, or shall I?*

「あなたが御出になりますか、たゞしは私が参りませうか?」

Which will you take, this or that?

「こちらのですか、そちらのですか、どちらになさる?」

Will you (or won't you) come with me?

「一緒に行かないの?」

Will you please lend me your knife?

「どうか、ナイフを貸して呉れ給へ。」

Will you be more careful in future?

「以後はもつと注意するの?」

What will you do then?

「そうしたら如何なさる?」

take..... for = sell for..... 「.....で賣る」 ‘For’ は代價を示す。

【例】 *What will you take for the house?*

= *What will you sell the house for?*

「此家は何程で御賣りになりますか?」

I will take 150 yen for it.

= *I will sell it for 150 yen.*

「百五十圓なら賣ります。」

I won't take a cent less than 150 yen for it.

「それから一文きれても賣りませぬ」

【参考】 to give.....for=to buy for.....「.....で買ふ」

I gave 50 yen for the watch.

=I bought the watch for 50 y.m.

「其時計を五十圓で買った」

He is not the man to sell his honour for money.

「名譽を金錢づくで賣る様な男ではない」

All the gold on her horns

=all the gold which is on the horns of the cow.

「牛の角の上にある金すつかり」

實は金にはあらずして眞鍮を用ひてありたるなれど故意と金と云ひてヒヤカせるなり。かく角の上に眞鍮を附けたるはかくして牛が角を以て人々に危害を加ふることなからしめんが爲めなり。

Boys 「君方」「諸君」「子供等よ」などと譯すべからず。

the latest 「最近の」「最新の」

最上級の形容詞には通常定冠詞を冠することは記憶すべきとなり。而して latest と last とは共に late なる形容詞の最上級なれど其意は大に異なれり。

late { later latest (時に就て云ふ)。
latter last (通常順序に就て云ふ)。

【例】 This is the latest news.

「之は最近の報だ」

He is the last boy in the class.

「彼はクラスでビリだ」

Paris style = Paris style of boots パリ流行(の長靴)。

【備考】 Paris は世界流行の源泉なるに、しかも其地最近流行風と云へば餘程氣の利きたるものなるべきなり。是ハートリの靴の餘りに不恰好なるより、しか、ironical に云へるものにてヴィンセン

トの例の嘲弄なりと知るべし。

look at..... 「.....を見る」

比較: { What are you looking at? (意識的)
「オオ何を見て居るんだ」
What do you see? (無意識的)
「何が目へるのか」

【類句】 'stare at' 「シロシロ見る」 'gaze at' 「ツクヅク視る」 'glare at' 「睨んで見る」 'peep at' 「窺ひ見る」 'gape at' 「見とれて口アングリ」 'leer at' 「イヤナ眼付で見る」 'glance at' 「一寸見る」等。

these 「あの」即「ハートリが穿いて居る」

5. ハートリはさも機嫌よくニッコと笑つて此方向いて手を振つて挨拶して、右の牛をば野へ連れていつて、柵の門をば外し、牛をば無事に牧場へ連れ着けて置いて、それからその門をば(また元の通り)さして、来て、餘の者と一所に學校へはいつた。午後學校が済むで後に彼はまた例の牛を出して、何處だか知らぬ所へ連れて行つた。(その後)二三週間(といふもの)は、彼は毎日々々こんなことをやつて居ました。

【註】

wave 「振る」「廻す」

【例】 He took his cap off and waved it above his head.

「彼は帽子を脱いで頭の上でまわした」

waved his hand. 手を振つた。

人に相圖し又は指圖する時にもかく手を振れど此所の場合に於ける如く手を振り乃至帽、布切を廻して人と別れの挨拶をなすこと

なきにあらず、猶ほ擧手の禮の如きか。
 at us 「私共に」
 with a pleasant smile 「(少しも立腹の様子なく) さも
 機嫌よく = ツコと笑つて」莞爾として」
 to the field 「例の野へ」
 took down 「外す」「下す」
 saw her safely in the pasture.

「無事に牧場にはいつたを見届けた」「無事に牧場へ
 連れてきてはいらした」

【類例】 I will see you to the station.

「私が停車場まで御見送り致しませう」

I saw the girl safely home.

「其娘を無事に自宅へ連れ着けた」

putting up the bars = after he put up the bars.

「その門を元の通り始末して置いて」「元の通りさし
 て置いて」

【参考】 When you have read the book, put it up.

「本を讀んで済むなら、片附けて置きなさい」

entered the school 「學校(の校舎)へ入つた」

with the rest of us 「外の者と一緒に」

【例】 Several went, myself among the rest.

「だんだん行つたか、僕も其一人」

After school 「放課後」 冠詞なきに注意せよ。

【類例】 'At or in school' 「學校で」「go to school」 「通學する」

'Come home from school' 「學校から歸る」「leave school」 「退
 學する」

The boys are going to school.

「あの生徒共は學校へ通つて居る所だ」(「習ひに」)。

比較:— I am going to the school to see the principal.

「私は校長に面會に學校へ行く處だ」(外の要向で——單
 に校舎へ)。

In the afternoon 「午後に」

Morning, evening, day, night, afternoon 等の語は一般の意味に用ふれ

ば "in" を用ひ "定まれる時" を云ふ場合には通常 on を用ふ。

I go to school in the morning.

「僕は朝は學校へ行く」

But I did not go to school (on) that morning.

「けれども其朝は學校へ行かなかつた」

I am generally at home in the evening.

「僕は通例夕方には宅に居る」

But I was not at home (on) that evening.

「けれども其晩には居なかつた」

The owl does not come out in the daytime.

「梟は日中は出て來ぬ」

I was absent from school (on) that day.

「僕は其日は學校を休むだ」

I arrive! at ten in the night.

「僕は夜の十時に着いた」

He arrived on the night of the 10th.

「あれは十日の夜着いた」

I generally take a walk in the afternoon.

「僕は午後には大概散歩する」

But I stayed at home on the afternoon of that day.

「けれども其日の午後には宅に居た」

由て同一の日時に就き次の二様の語法あるに注意すべし。

He started early in the morning on the 10th.

「彼は十日に朝早く出發つた」。

He started early on the morning of the 10th.

「彼は十日の朝早く出發つた」。

He came here in the afternoon on the 15th.

「彼は十五日に午後に来た」。

He came here on the afternoon of the 15th.

「彼は十五日の午後に来た」。

let out = let.....go out 「.....を出す」。

【参考】 'let down' 「下す」 'let in or into' 「はいらす」 'let off' 「はなす」等。

drove her away 「連れて行つた」。

none of us....「私共の中誰も.....して居るものがない」。

【参考】 I know none of them.

「僕はあの人々の中誰も知つて居る者がいない」。

None of my friends went there.

「僕の朋友の中誰も其處へ行つた者がいない」。

none of us knew where

=none of us knew where he drove her away.

「彼は何處へ其牛を連れて行つたか、私共の中誰も知る者がない所へ」「何處だか私共は知らぬ所へ」。

【参考】 I lent the book to some one, I know not (to) whom.

「僕は誰だか知らぬ人に其本を貸した」。

Every day 「日々」「毎日々々」。

【類例】 'every week' 「毎週」 'every year' 「年々」。

【参考】 'every other day' 「隔日」。

for two or three weeks 「二三週間」。

【参考】 I have studied English only for five years.

「僕は英語はたった五ヶ年間やつたのみだ」。

went through 「成し就げた」「やつた」。

【例】 The boy went through his recitation creditably.

「其生徒は暗誦を立派にやつてのけた」。

the same task. (朝牛を牧場へ連れて行つては、また午後に連れ出して來ると云ふ)同じ仕事(を反覆したるなり)。

6. 中學校に通つて居る子供は大抵良家の子で、中には牛を牧場へ連れて行かんけりやならぬ様な生徒をば何だか下目に見ると云ふ様な馬鹿な者もあつた；で、かのヴィンセントの例の嘲弄は一度や二度ではなかつたのです。

【註】

nearly all = mostly 「大概」。

the sons of wealthy parents 「金満家の息子」。

some of them..... 「中には.....な者もあつた」。

【類例】 Some of you have seen a whale, I'm sure.

「君等の中には此度鯨を見たことがある者があるだらう」。

Some of the men understand French.

「この中には佛蘭西語の解る人がある」。

Some books need not be read twice.

「二度と讀むに及ばぬ本もある」。

were foolish enough to look down——upon.....

=were so foolish as to look down——upon.....

=foolishly looked down——upon.....

「愚にも……」を蔑視する」。

【参考】 Will you be good enough (or so good as) to lend me the book?

「どうぞ此本を貸して下さいませ」。

He was kind enough to show me the way.

「其人は親切にも道を教へて呉れた」。

He was imprudent enough to run into debt.

「其男不考にも借金した」。

He was bold enough to call at the official residence of the governor.

「闕々敷も知事の官舎へやつていつた」。

The Jinrikisha-man was impudent enough to ask me for something extra.

「其の車屋は厚顔しくも酒代を強請りやがつた」。

to look down upon 「見下す」「見くびる」「蔑視する」

「賤しむ」 (二頁末行参照)。

【例】 Sometimes rich and titled persons look down upon the humble classes.

「富貴の人は往々卑賤の者を蔑視することがある」。

with a sort of disdain 「何だか輕蔑する様な風に」。

(三頁六行目以下参照)。

a scholar who had to…… 「……せねば事の足らぬ生徒」。

ぬ生徒」。

【注意】 'must' は未來及び過去の形を缺くを以て通常 'have to' の形を以て之を補ふ。

He had to go. 「彼は行かんけりやならなかつた」。

I shall have to go. 「僕も行かんけりやなるまい」。

to pasture. 'go to school' 'to go to church' 等の語法に準じ冠

詞を省けるなり。 (十四頁末行参照)

the sneers and jeers of Vincent were often repeated

.= Vincent often sneered and jeered Hartly.

「ヴァインセントはよくハートリを嘲弄つた」。

7. (ある日(の事)、ヴァインセントは牛の小便臭いからと云ふので學校でハートリの隣りへ坐ることはいやだと云つた。(それから又)時によるとハートリに『牛は此頃如何だ』などと訊く、(しかも)「カウ」と云ふのをば一部の人の模倣をして(わざと)「キョウ」と云つたりなんかして。

One day = on a certain day 「或日」。(七頁八行目参照)

he refused to sit……

= he said "I will not sit……"

「……へ座るはいやだと云つた」。

【例】 He refused to go with me.

「彼は僕と一所に行くのはいやだと云つた」。

I cannot refuse to do as my lord says……

「君の仰の辭みかたく……」。

next (to) …… 「……の次」「……の隣」。

【例】 Who sits next you in school?

「學校で誰が君の隣へ座るの」。

My house is next-door but one to the school.

「私宅は學校の一軒置いて隣です」。

【参考】 'next to nothing' 「無い」と云はぬばかり」「next to impossible」

「殆ど出来ぬ」。

in school 「學校で(授業の時に)」。

冠詞なきに注意せ

よ。

(十四頁末行参照)

【例】 What do you learn in (or at) school?

「学校では何を習ふのか」。

【参考】 'in court' 「法廷で」 'in hospital' 「入院中」, 'in prison' 「入獄中」 'in town' 「町で」 'in bed' 「床で」

On a pretense (or pretence) that....「....と云ふ口實で」

【例】 He refused to see me *on a pretence that he was ill.*

「病と稱して僕に面會を謝絶した」。

He wished to be relieved of his office *on the pretence of ill health.*

「彼は病氣との口實で辭職を願ひ出でた」。

It is not good for you to be absent from school *on the plea of illness.*

「病氣だなどと云つて學校を休むのは宜しくない」。

he (=Vincent) did not like the odor of the barn.

「牛小屋の香が好かぬ」。「牛の小便臭いからいやだ」と云ふところをそれでは餘り露骨なるが故にかく云ひしなり。ハートリが牛を扱へるを以てかく云へること云ふまでもなし。

Sometimes 「時としては」「往々」

would (=used to; was in the habit of.....)

「よく.....したものだ」「.....するのが常であつた」。

過去の習慣を示す。

【例】 He *would* come here every day.

「彼はよく此處へ來々した」。

The man *would* come home drunk, and beat his wife.

「此男は酔つばらつて歸つて來ては妻君をなぐるのが得手だ」。

Isac was *in the habit of* going there frequently, and *would* spend whole hours in examining its various parts.

「アイザクは此處へ行つては車の各部々々を調べて幾時間も過すのが常であつた」。

【参考】 此 'would' に對し現在の習慣を表すには 'will' を用ふ。

You *will* always come when you are least expected.

「君は何時でも思ひ掛けない時に來る」。

He *will* spend hours together in studying the heavens.

「彼は天の事を研究しては(何時も)數時間過します」。

A full-grown African ostrich *will* weigh from two to three hundred pounds.

「亞非利加駝鳥が成長しつめると二百封度から三百封度もあるものだ」。

inquire of..... 「.....に訊く」

【例】 I *inquired of* him about the matter.

「其事に就て彼に訊いて見ました」。

(inquire) after..... 「.....の安否をきく」

【例】 I sent a maid-servant to *inquire after* his health.

「彼の安否をききに下女をやつた」。

He *inquired after* my father and mother.

「御兩親の御機嫌は如何だかつて尋ねた」。

【参考】 A stranger *inquired for* the way to Ueno.

「見知らぬ人が上野へ行く道を尋ねた」。

We must *inquire into* the matter.

「本件はよく々々調べて見ぬといかぬ」。

I thought it strange and *inquired the reason.*

「どうも變だと思つて理由を訊いた」。

pronouncing the word (=cow) "ke-ow"

(さう云う時に)カウ(cow)と云ふのをばキョウとなまらして。

after the manner of.....

「.....の眞似をして」「.....にならつて」

【例】 The lady was dressed *after* the European fashion.

「婦人は洋装をし居た」

He was named after his father.

「彼は父の名を取つてつけてありました」

The boy takes after his mother.

「其子は母に似て居る」

Some people 「人によつては cow を “ke-ow” と云ふ人もあるが其人(の様に)」暗に田舎者のことなり。(十七頁末行参照)

【参考】 Some people say he is a fool.

「人によつてはあれは馬鹿だといふ人もある」

Some herons are said to be black.

「黒い鷺もあるとか云ふことだ」

8. ハートリは、その感情を害し、そをおこらしてやらうとて爲したる總て之等の馬鹿な所業をば出来得る限りギツと堪へて居た。ただの一度も腹の立つた様な顔附きをしたこともなければ、物言ひをしたこともない。或時の如きはヴィンセントがこんなことを云つた：『ハートリ君、君の御父様は君を牛乳屋にする積りだらう』つて。

【註】 bore 「忍ぶ」「耐へた」

bear bore borne. (忍ぶ、又は運ぶ)

bear bore born. (生む)

all these silly attempts to wound his feelings and annoy him.

「上に云つた様な、ハートリの感情を害し彼をおこらしてやらうとて色々やつた事共皆」

【参考】 By the words he wounded his master's feelings very much.

「彼がさう云つたので主人は痛く機嫌を害れて居た」

annoy 「苦します」「イザめる」「腹を立てさす」

【例】 I was annoyed by his remarks.

「彼の言葉は僕もシヤクに障つた」

With the utmost good nature.

「成る丈け腹を立てない様にして」

(out) { outer outermost or outmost.
utter uttermost or utmost.

即ち 'utmost' は out なる副詞(但原級にては用ひず)より變ぜし最上級の形容詞なり。

【例】 The utmost limits of the land. 「國の果て」

The utmost or uttermost happiness or misery.

「此上もない幸福又は不幸」

【参考】 I have done my utmost. (名詞)

「出来るだけの事は致しました」

good nature 「温厚」「やさしい事」

【比較】 ill nature 「悪性」「姦曲」

never returned an angry look or word.

「(先方が不都合な事を云つたとて)こちらに立腹した様な顔附きをしたり言葉使ひをしたりしたことはない」

【参考】 'return borrowed money' 「借りの金を返す」

'return an answer' 「返答する」 'return the complements' 「答禮をする」

One time 「或時」

I suppose..... 「.....と思ふ」「.....だらう」

【例】 I suppose the beggar boy ate it very gladly?

「乞食の子は囁喜んでそれを食べたんだらうね」

【参考】 I think people will laugh when they hear about it.

「人が聞いたら笑ふでせう」
I fancy people have already heard about it.

「最早人が聞いたでせう」

intend to..... 「.....する積りだ」

【例】 What do you intend to do with it?

「それをば如何する積りか」

I intend to sell it.

「賣る積りだ」

to make a milkman of you. 「君を牛乳賣にする」

此形はよくある形なれば注意すべし。

一般の形式を示せば

To make B of A.

「Aを材料にしてBを造る」「AでBを造る」「AをBにする」

比較:

He made a box of wood.

「木で箱を作つた」

He made a fool of me.

「おれを馬鹿にした」

【作例】 I will make a man of you.

「御前を一人前の人間にしてやらう」

You must not make an enemy of such a man.

「あんな人を敵にしてはよくない」

He makes a mountain of a molehill.

「あの男は針程の事を棒音に云ふ」

We must make an example of the first offender we catch.

「犯人が見付つかり次第他へ見せしめに罰してやらぬといふ」

This box is made of wood.

「此箱は木で造つてある」

The house is built of brick.

「其家は煉瓦で造つてある」

9. 「それが如何したんだ?」とハートリの(すげない)返事、「イヤ、別段如何つて云ふんでもないさ、唯ネ、罐を濯いだ時餘り水を殘しておかぬ様にして御呉れ——と云ふ迄のことさ!」とヴィンセントが言つた。すると子供等はどつと笑ふ、されどハートリは少しもそれをば苦にせずに、答へて云ふには:「心配し給ふな; 僕が出世して牛乳賣にならうもんなら、量目もよくすりや牛乳もよいのをあげるよ」

【註】 Why not? = Why should my father not make a milkman of me? (=Is there any reason why my father should not make a milkman of me?) 「父が僕を牛乳賣にしちや何故悪いのか」即ち「父が僕を牛乳賣にしたとて別に悪い譯はないではないか」(=There is no reason why my father should not make a milkman of me) の意にて人の言葉に反問する時 (captious questions) に用ふ、形こそ疑問文なれ意味は直説文なり。

總て 'Why should.....?' の形は之に準じて解すべし、尙下例を参照せよ。

Do you not think I shall succeed? Why not. Others have succeeded. I see no reason why I should not (succeed).

「君は僕を成効せぬと思ふのか、とはまた何故、外の人が成効したのに何も僕だつて(成効)しない道理はない(ではないか)」

Why should we do it? (=There is no reason (or necessity) why we should do it). 「それをせねばならぬ理由が何處にあるか (何もないではないか)」

A man can die but once, and *why should* we fear to leave this life in the way of our duty?

「人は唯一度しか死ぬるものだ、さすれば義務を盡して命を捨てるに何の恐れる必要があらう。」

I can not understand *why* the woman *should* dislike her husband so much.

「あの妻君はなんであんなに亭主を嫌ふのか僕には解せぬ(何もあんなに嫌ふ譯はなさそうだが)。」

I do not see *why* you *should* make another man's concern your own.

「何も人の痴氣を頭痛に病まなくともよきさうなもの。」

nothing = there in *no reason* (=nothing) *why*.....

「.....といふ理由は何もない」即「別に何と云ふんでもない」との意。

only = only I should like to say. 「たい云つて置き度いことは」。

leave much water.....after rinsing them = leave much water.....after you have cleansed the cans.

「罐を濯いだ後へ水を多量残して置く」即ち「水を混ぜた牛乳を賣る」の意。

that's all = (that is all (that) I should like to say)。

「云つて置きたいことはそれだけ」「と云ふまでのことさ」「これだけさ」亦例のヴァンセントの嘲弄的の言振と知るべし。

注意 all は「だけ」と譯すべき場合あるに注意せよ。

【例】 This is *all* (the money) I have.

「持つて居る(金)はこれだけ。」

These are *all* (the books) I have.

「持つて居る(本)はこれだけ。」

Is that *all*? Yes, that's *all*.

「それだけですか? ハイ、それだけです。」

Is this *all* the milk there is in the can?

「罐にある牛乳はこれだけか。」

Not in the least = not at all 「少しも.....せぬ」。

not a little = much 「少なからず」「大いに」と混同すべからず。

He was *not in the least* surprised. 「少しも吃驚して居なかつた。」

He was *not a little* surprised. 「大變吃驚して居た。」

mortified = vexed 「氣にする」「惱げる」。

Never fear = do not fear at all. 「御心配なさるな」。

‘Never’ の如き ‘not’ 以外の打消の語を用ひたる時は ‘do,’ を要せざるを記しよ。

【例】 *Never* tell a lie. 「虚言を吐く勿れ。」
Do not tell a lie.

None of them went. 「誰も行かなかつた。」
They did not go.

I never smoke. 「僕は煙草は喫まぬ。」
I do not smoke.

If I ever..... 「若しや.....することがあつたら」「萬一にも.....したなら」。

【参考】 Did you *ever* go there? 「行ったことがあるか」。

Do you *ever* go there? 「行くことがあるか」。

If you *ever* go there,..... 「若しや行くことがあつたら」。

If you *ever* come to Sendai in spring, never fail to visit Tsutsuji-ga-oka.

「若しや仙臺へ春御出でになることがあつたなら是非踏躰岡を見て御出でなさい」。

rise to be..... = rise and become 「出世して.....とな」。

る」即結果を表す 'infinitive' なり。

【例】 He rose to be the principal of a certain school.

「あれは出世してさる学校の校長となつた」。

I worked hard only to fail.

「僕は精出して勉強したがどどのつまり失敗つた」。

They marched forth only to be defeated.

「負けに行つた様なものだ」。

I will..... 「.....しよう」「.....します」(約束)。

【例】 I will do my best.

「出来る丈けのことを致しませう」。

I will pay you without fail at the end of this month.

「月末には屹度御返し申します」。

I will never do such a thing again.

「もう、そんな事は二度と致しませぬ」。

good measure 「量をよくする」(good=full—量のよき事)。

good milk 「良い牛乳」「牛乳の良いの」(good=excellent—質の良き事)

同じ good なる語が二様の意味に用ひられたるに注意せよ。

—and.....too 「—おまけに.....」。

【例】 He is poor and foolish too.

「貧乏でおまけに馬鹿ときて居る」。

I was robbed of some money and a purse too.

「金を取られた上に財布まで」。

10. 此問答があつてから二三日経つと、展覧會があつて、町の紳士や淑女達が来て居られた。校長が賞品を授與した處、ハートリもヴァンセントも各々一つづつ貰つた；と云ふのは學力にかけては、兩人共まづ同じ位のものだつたから。

【註】 A few days 「二三日」「數日」。

【例】 It will be finished in a few days. 「兩三日たてば出來ます」。

this conversation. 前節にあるハートリとヴァンセント

との對話。

a public exhibition. 學校の卒業式等の際生徒の作品

を陳列して公衆の縦覽を許す展覧會。

at which(=the exhibition).....was present.

「それへは.....が来て居た」「.....が臨席して居た」。

I was present at the meeting.

「僕は集會に出席して居た」。

Were you at it. 「君も出席して居たか」。

a number of=some

【参考】 numbers of=many; great numbers of=very many.

from the city 「(其學校所在地又は其近くにある重なる)町より來れる」「町の」。

る)町より來れる」「町の」。

【例】 He comes from Tosa. 「彼は土佐(の)人だ」。

A gentleman from Sendai wants to see you.

「仙臺の御方があなたに御目にかゝりたいと申して居ます」。

A visitor from the country is staying with us.

「田舎から客が来て私共の處に滞在して居ます」。

was present.

【備考】 主語が 'a number' なる集合名詞なりとて動詞は單數 'was'

となり居るならむ、されど 'a number of' は 'some' に同じ意味

の一つの形容詞句と見、主語は矢張 'ladies and gentlemen' と見

て 'were present' と複數の動詞を用ふるも可ならむ。

Prizes were awarded by the Principal.....

=The Principal.....awarded the prizes 「校長が賞品

を授與した」。

awarded 「褒賞などを與ふる」「授與する」

each 「各々」「銘々」「それぞれ」

One=a prize.

Have you a knife? Yes, I have one. (it に非ず)

【参考】

「小刀があるのか、ある」

Have you the knife. Yes, I have it.

「あの小刀があるのか、ある」

for 「其理由は」「と云ふのは」

【備考】 一人はあれ程の悪口家で一人はあれ程の善行者であるのにそれが双方共各々賞品を貰つたとはちと變な様だがそれはかうゆう譯だとの意と知るべし。

In (or with) respect to..... 「.....に就ては」

in respect to=respecting.... 「.....に關して」「.....に就て」

in respect of=in point of..... 「.....に關しては」「.....に就ては」「.....の點に於ては」

されば此處にては寧ろ 'in respect of' とある方可ならむか、尙下例を参照せよ。

We must have a talk in respect to (=about) that subject.

「その事に就いて君と一應相談しなげりやならぬ」

The Japanese were inferior to the Russians in respect of numbers

「人数に於ては日本人は露西亞人に劣つて居た」

【参考】 'in all respects,' 「總ての點に於て」「in many respects」 「色々の

點に於て」「in every respect」 「何れの點に於ても」「in no respect」

「何れの點に於ても.....せぬ」

scholarship 「學力」

【例】 His scholarship is rather poor.

「學力は劣等の方だ」

Taro is inferior to Jiro in scholarship.

「學力に於ては太郎は次郎に劣る」

about equal 「大差なし」

11, 賞品授與が済むで後校長は、かう云はれた、『サテ、(こゝに)今一つ賞品がありますが、それは賞牌でありまして、これは減多に與へないのであります、と申しますのはその値段が別に高いと云ふのではなくして、寧ろ之を與へて然るべき場合が減多に無いからであります。(即ち)勇氣の(行に對する)賞なんです、此前これを貰つた生徒は、マナーズと申します者で、三年前、盲目の女の子があはや溺れなむとする處を助けてやつたのであります。

【註】

After the the prize was distributed

=after the Principal distributed the prizes.

「賞品を銘々に渡すことがすんで後」

remarked = said.

there was one prize 「(今)一つ賞品がある」

'There is' は單に「ある」「居る」と譯すべし。

【例】 There is a book on the table. 「机の上に本がある」

There is a bird in the cage. 「籠に鳥が居る」

There are two birds on the lake. 「湖水に鳥が二羽居る」

consisting of=which consisted of..... 「.....で出來て

居る」。

但本文にては單に which was.....の意に解し「メタルである」と譯する方便利ならむ。

比較:— { to consist of..... 「.....で成立つて居る」
to consist in..... 「.....に存する」

【参考】 Each sentence consists of two parts, the subject and the

predicate.

「各文章は主語と述語と二つの部分で成り立つて居る」。

The party consisted of the farmer, his wife, and his daughters.

「一行は右の百姓と其妻と娘とで成立つて居た(=であつた)」。

Lying consists in uttering what is false, with the intent to deceive.

「虚言を吐くとは人を欺くつもりで偽を言ふ事だ」。

rarely = not often 「めつたには……せぬ」。

【例】 Such a thing is rarely seen.

「あんな物は滅多には見られない」。

not so much……as

「此形は英文を讀むに當りよく屢出會ふ形なればよくよく會得し置くべし。以下五六の例を擧げて之を解かむ、但それに先ちて此形式に對する一般の解釋法を合點し置く必要あり。

即 not so much (A) as (B)……とは

「BほどAではない」即

「Aと云ふよりも寧ろBだ」

との意なり。

【例】 Man's worth lies not so much in what he has as in what he is.

「凡そ人の價値は其財産能力よりも寧ろ其人物如何にあり」。

The difficulty is not so great to die for a friend as to find one worth dying for.

「友の爲めに死するの難きに^{あらず}死に甲斐ある友を見出すこそ難けれ」。

The difference between one boy and another consists not so much in talent as in energy.

「甲と乙と二人の子供の相異なる所は才能の多少によると云ふよりは寧ろ根氣の多少によるものだ」。

The great use of a school education is not so much to teach you things as to teach you the art of learning.

「學校教育の大効あると云ふのは物事を教ゆると云ふよりも寧ろ學ぶの法を教ゆると云ふにあるのだ」。

It is not the greatness of a man's means that makes him independent, so much as the smallness of his wants.

「人をして獨立ならしむるものは資産の大なるにあらずして寧ろ其欲望の小なるにあり」。

由て本文の意は

「其賞品を滅多に與へぬと云ふのは、其價が高いと云ふ爲めではなく(寧ろ)之を渡す丈けの價値ある場合が滅多に無いからだ」。

on account of…… 「……の故を以て」「……の爲めに」。

【例】 I beg to inform you that I am unable to go to school on account of illness to-day.

「本日病氣の爲め出校仕難く此段及御届候也」。

On account of the rain, the athletic meeting was postponed.

「雨天の爲め運動會は日延べになつた」。

【参考】 'on that account' 「其爲めに」 'on one's account' 「誰某の爲めに」 'on any account' 「如何あつても」 'on no account' 「如何あつても……せぬ」等。

instances 「場合」「事柄」。

—merit it=—deserve to be awarded the prize.

「其賞を與へらるるだけの價値ある」。

【参考】 Your conduct merits praise. 「お前の行爲は賞むるに足る」。

His conduct merits punishment. 「彼の行爲は處分すべきものだ」。

the prize for Heroism 「義勇(な行爲)の(褒美として

與ふる)賞」。

The last boy on whom.....「此前に.....した生徒」。

confer on「—に.....を與へる」「施す」「賜

ふ」。

【例】 The title of baron was conferred upon him.

...「男爵を賜ふ」。

He conferred a great favour upon me.

「私に大層恩を施して呉れた」。

Master. 未だ Mr. を附するにはちと若過ぎる即十五六
歳位の男子に附する敬稱。

rescued the blind girl from drowning.

「盲目の女の子が水に溺れる所を助けて(溺れぬ様
にして)やつた」。

【参考】 He rescued a prisoner from the enemy

「彼は敵の捕虜となつて居るものを助けてやつた、(奪ひ還し
た)」。

12. それから校長が(語を繼いで)云はれるには、「御臨席
の方々の御免を蒙りまして、私は簡単な御話を致しま
せう。つい此頃の事でありましたが、子供が往來で紙
鳶を揚げて居りました、所が丁度其所をば一人の子が
水車へ行く途中馬に乗つて通りかゝりました。すると
馬はビックリして、(跳び上がった拍子に)乗つて居た
子供はこけまして可愛相に大變な怪我を致しました、
そこで自宅へ擔ぎ込むでそれから、何週間もビックリ床
に就いて仕舞つたのであります。

【註】 With the permission of——「—の許可を得て」

「—の御免を蒙りまして」。

【参考】 With your permission, I will tell you a story.

「諸君に御免を蒙りましていざ一條の御話を致しませう」。

I took the book home by permission of the librarian.

「僕は圖書係の許可を得て其本を持って歸つたのだ」。

the company 「列座の御方」。

【参考】 I invited company to dine.

「御客を招いて御飯の御馳走した」。

Not long since (=ago) 「遠からぬ以前=つい近頃」。

Since (or ago) 「今より前」, before 「或過去の時のその前」。

但今よりズッと前の時は ago を用ふ。

【例】 I saw it a month ago (or since). 「(今より)一ヶ月前に見た」。

A very long, long time ago (not since), there was a man who....

「昔、昔、大昔、.....と云ふ人があつた」。

It was only a lonely fishing village a century ago (not since).

「今から百年前にはこゝは淋しい一漁村に過ぎなかつた」。

A few days ago, when I showed it to him, he said that he had
seen it a week before (that time).

「(今より)二三日前に私がそれを見せたら一週間前に見たつて云
つた」。

just as 「丁度其際」。

總て comma の次ぎにある 'when' 又は 'as' などは通常 'then'

と同意に解し、(.....した時に)と上に還らざるをよしとす。

【例】 I was walking in the park, when (=then) I met Mr. A.

「公園を散歩して居たら A 君に出會つた」。

on horseback 「馬で」。

【参考】 'on foot' 「徒歩で」 'by land' 「陸路」 'by water' 「海路」 'by

train' 「瀛車で」 'in a carriage' 「馬車で」等。

rode by. (馬で)側を通つた。

【参考】 He walked by me without noticing me.

「彼は私のそばを通つたけれど知らなかつた。」

Who is the man that passed by you?

「今君を通りすぎた人は誰。」

The train flashed by us.

「汽車がすれ違ひにヒュツと通つた。」

On his way to mill 「水車へ行く途中」。(七頁中程参照)
to mill. 'to school' 'to market' 'to church' 等の語法に準じ冠詞
を略せり。(七頁参照)

took fright = was frightened 「誘いた」「物におぢた」
(注意. - took flight 「遁げた」)

【例】 The governor's horse took fright at the engine, and nearly over
turned the carriage.

「知事の馬車が機関を見て驚怖してすんでの事馬車は顛覆する處
だつた。」

threw the boy. 英文にては「小供を落した」とあれど邦
語には「小供は落ちた」と云ふを可とす。

injuring him = and injured him. 之も亦上と同じく「怪
我をした」と譯すべし。

badly = severely 「ヒドク」。

So — that..... 「大變.....したからそれで.....した」
と譯すべし。

that 以下は結果を表す句なるを以て下より「.....
した程」などゆめ譯すべからず。

【例】 He studied so hard that he made himself sick.

「あまり勉強したもだから病氣になつた。」

The lady was so frightened at that time that she was very ill
afterward.

「奥様其時あんまりビックリしたので大變病氣した。」

He spoke so eloquently that everybody was moved to tears.

「彼の演説が非常にうまかつたので誰も思はず涙を流した。」

carry home 「自宅へ擔ぎ込む」

【参考】 He went home. 「歸宅した」「歸國した」

He is at home now. 「今在宅だ」

He is not at home. 「不在だ」

I must be home by tea. 「十時迄に(宅へ)歸らんけりやなら
ぬ」

He is home for the holidays. 「休暇で歸つて居る」

was confined to his bed 「ヒツと床に就いた」「ヒツタ
リ寝込むだ」

【参考】 'go to bed' 「就床」 'get out of bed' 「起床」 'put to bed'
「寝かす」

【参考】 The people did not confine themselves to words.

「唯口と言ふばかりではなかつた」

The spirit of resistance was not confined to this place.

「反抗の精神は唯に此地方に起つて居るばかりではなかつた」

His wife was confined. 「其妻君は分娩した」

for some weeks 「數週間」 (十七頁初行参照)

13. (然るに)此災難を生ずるに至らしめたる子供の中誰
一人其怪我した子供について行き容體を見届けた者
はありませなんだ。所が、一人、一寸離れた處で此出
來事を見て居た子供がありまして、其子は何とでもし
て出来る丈けのことはしてやらうとて、すぐとやつて
參りました。(行て見ますと)なきにかう云ふ事がわ

かりました、即ち右の怪我した子は或る貧乏な寡婦の孫で、その寡婦は一匹の良い牛を持つて居まして、その牛乳を賣つてそれでやつと生計を立てて居るものであつたのです。

【註】 None of the boys....., —「.....したる子供の中一人でも——する者はなかつた」(十六頁中程参照) caused the disaster 「此不幸を惹起した」 followed to learn.....

=followed the wounded boy to know.....

「.....を見届けに(其怪我した子の)あとについてゆく」

【参考】 The dog follows me about.

「此犬は私につきまはる」

Let us go and learn the truth.

「實否を訊きに行かう」

the fate of..... 「.....の成行」「.....の容體」

There was one = there was a boy. (三十頁三行目参照)

witnessed = saw 「目撃した」

【参考】 'a witness' 「証人」

accident 「不時の出来事」「不慮の災」

from a distance = at a distance 「一寸離れた處で」と

from と混せしもの。

【参考】 'in the distance' 「遠方で」

'at the distance of.....' 「.....の距離で」

'at some distance' 「少距つて」

render.....service 「世話をする」「盡力する」

【例】 He rendered me a great service.

「僕の爲め大にいに盡力して呉れた」

I should be happy to be of any service to you.

「何なりと御易い御用です」

Rejoice, wife! Our son has proved of service to his lord.

「女房喜べ、忝が御役に立つたぞや」

what service he could = any service (which) he could render 「身にかなふ事なら何なりと」

what = 'any.....that,' 'all the... that.'

【例】 I gave what money I had.

(=I gave all the money that I had).

「持て居た金は皆呉れてしまつた」

I have sold what few books (=all the few books) I had.

「僅計り持て居た書物をば悉らす賣つてしまつた」

What money (=all the money) he gets he spends on drinking.

「とつた丈の金は皆飲むでしまふ」

Lend me what books (=any books) you can spare.

「あいて居る本があれば何でも貸して呉れ給へ」

soon learned that..... 「やがて.....と云ふことが分つた」

whose only support consisted in selling.....

= whose only support was to sell.....

「糊口の資としては.....のみであつた」「.....してやつと生計を立て、居た」

The boy, his only support, was killed in Manchuria.

「杖とも柱とも頼む子が滿洲で打死した」

consisted in..... 「.....に存す」「.....が即それだ」

(卅一頁末行参照)

of which (=a fine cow) she was the owner (持主)

=which she owned 「それを持つて居た」

14. 嗚呼(さてさて)、かうなつては何と致ませう。年は老つて居るし、それに足は不自由なところへ孫……牛を牧場へ連れて行くに就て頼りにして居た孫は今は病氣となつて、せんかたないと云ふ次第。處が右の子供の申しまするには『イヤ、御婆さん、御心配なさるな、私が牛をばつれて行つて上げませう』と。貧乏な寡婦は御禮を言つて、それでは何分か、と頼むだんです。

【註】 Alas! あゝ(悲嘆)、哀れや。

【参考】 Ah! what shall I do? 「ア、如何せうぞ」

Alas! how sad. 「嗚呼、悲しい哉」

Oh! I beg your pardon. 「ア、こりや失敬」

What could she now do?

=She could not do anything now 「何とも致方がない」 否定の強き言ひ方なり。

When you can not do it, how can I (do it).

「君にさへ出来ないならどうして僕に出来やう(とても出来ない)」

How can it be so (=it can not be so).

「そんな事はない譯だが」

on whom she depended to……

「……するに (to) 其人 (whom) を當てにして居た」 即ち「其人に……して貰つた」

【参考】 I depended upon you to do (or for doing) so.

「それに就いては君を頼にして居たよ」

Such a person can not be depended upon.

「あんな人はあてになるものか」

You should not depend on others for help.

「人に助けて貰ふ様ではいけない」

Your success will entirely depend upon your perseverance.

「君の成效不成効は偏に君の忍耐如何によるのだ」

The child is apt to depend upon his parents.

「子供は兎も親をあてにするものだ」

Depend upon it, he will some day regret his idleness.

「なまけて居るが屹度後悔する日が来る」

helpless 「(我と我身を) 詮方ない」

Never mind = Don't make yourself uneasy about it.

「御心配なさるな」「御氣遣ひ遊ばすな」

【例】 O, what shall I do? I have broken the bottle.

「アレ如何致ませう、つい罎を毀しました」

Never mind. 「大事ない」(構はぬ)。

Never mind returning the money.

「其金の事は御心配御無用」

【参考】 I do not mind losing a little.

「少し位損しても構はぬ」

I can…… 「……して上げませう」

With thanks 「御禮を云つて」 thanks は名詞の時
は常に複數の形なり。

【参考】 Many thanks 「多謝々々」

Thanks to these gloves, I did not freeze my hands.

「此手袋をはめて居た御陰で手が凍へなかつた」

accepted his offer. 「彼の申出を納得した」「其言葉に従つた」

【例】 I shall accept your kind invitation.

「仰に従ひ參上仕るべく候」

offer 「こちらが自ら進んで申し出す」

【例】 He offered to help me.

「助力をしてやらうと先方から云うて来た」
先方 むかひ

15. ですが、然し此子の親切は猶ほ之に止まりませぬ。
薬を買ふには金が要る。すると『私は靴を買ふに御
母様が送つて呉れた金がありますが、目下はナ=別に
(靴は)なくとも事が足ります(からこの金を差し上げま
せう)』と云つたのです。

【註】 did not stop here. 「之に止まらぬ」「これのみ
でない(まだある)」

to purchase = to buy.

sent me 「送つて呉れた」

a pair of boots 「長靴一足」「一足の靴」

【注意】 靴の如く二つにて成れるものは常に其形複数なるを以て之れが
数を表さんとする時は通常 “pair” を用ふ。

‘a pair of scissors’ 「鋏一つ」 ‘two pair(s) of scissors’ 「鋏二つ」

‘three pair(s) of spectacles’ 「眼鏡三つ」 ‘five pair(s) of tongs’ 「火
箸五つ」

I can do without (=dispense with).....

「.....なくても済む」「.....なくても間に合ふ」「.....な
くて事が足る」

【例】 We can not do without some help.

「助けるものがなくてはやれぬ」

I can not read it without a dictionary.

「辞書がなくては讀めない」

I can not do (=read) without spectacles.

「眼鏡がなくてはやりきれない」

I can do (=get along) very well without him.

「あんな男は居なくとも構間にあふ」

for the present 「目下は」「今の處は」「差當り」「當分」

【例】 That will do for the present. 「それで當分よろしい」

【参考】 ‘for the time being’ 「その當座は」 ‘for this time’ 「今度だけ
は」 ‘for the future’ 「以後は」

16. すると婆さんは『まあ、飛んでもない、そんなこと
して戴いてなりますものか、だが、茲に牛の皮の靴が
一足あるんです、これは、〜ンリに買つて遣つたもの
ですけれど(御覽の通りの有様ですから目下は)よう穿
きませぬ。就きましては原價だけ頂戴して買つて下さ
るなら實に好都合で御座りますが』とから申しました。
そこで右の子供は固より粗末なものには違ひないですけ
れども、その靴をば買つて、しかも今日に至るまでオ
ーツと穿いて居るのであります。

【註】 Oh, no! 先方の詞の餘りに親切なる時は思は
ず發する謝絶の言葉「どう、致しまして」「イヤ、そ
れは餘り勿體ない」程の意。

I can not consent to that. 「それには同意が出来ない」
即ち「どうしてそんなことが頼めますものか」「そり
やいませぬ」等の意。

consent 「承諾する」「同意する」

【例】 His father dose not consent to the match.

「其縁談は相手の親父が承知せぬ」

【参考】 I can not agree to such a proposal.

「そんな御相談には應ぜませぬ」

cowhide boots. 牛の皮にて造れる極めて下等の長靴な
り。

Henry. 此寡婦の孫の名なり。

bought for— 「—に買つてやつた」

【参考】 I will buy a book for you. 「本を買つて上げませう」

I will make a kite for you. 「紙鳶をこしらへてやらう」
who can not wear them.

「今はあーして寝て居る故それをば、よう穿かない」
の意。

If you will..... 「.....して下さるなら」「.....するなら」
此形は二人稱 (=you) の意志を表す形にて従て承諾
拒絶、約束等を表す。

If you will grant my request, I shall esteem it a great favour.

「私の御願ひを聞いて下さるなら實に有難いことで御座ります」

If you will not tell anyone, I will tell it.

「誰にも云はないなら云つてやらう」

If you will not pay the money, I will bring an action against you.

「金を拂はぬなら訴へるぞ」

If you will have it so, I shall have nothing to say against it.

「そうなさると仰有るなら私は別に異存はありませぬ」

giving what they cost = giving the money which they
cost. 「かゝつて居る丈け下すつて」「原價だけ御贖
ひ申して」

【注意】 cost は現在、過去、過去分詞共に同形なり。

【例】 What did it cost you? It cost me 10 yen.

「何程かゝりました、十圓かかりました」

I can get along very well.

「大層うまくやつて行けます」「好都合です」

【参考】 How is the patient getting along?

「病人は御容體は如何です」

How do you get along with your work?

「如何です、御著述は捗りますか」

clumsy as they were = *although* they were clumsy.

形容詞又は名詞(冠詞なき)が先頭に來り其次に來れ
る 'as' は 'although' の意を表すこと多し。

【例】 Big as you are, I'm not afraid of you.

「身體が大きくてもこぼくはないぞ」

Fool as he is, he can not have done such a thing.

「いくら馬鹿だつてまさかそんなことはしやしないで」

Brave as he was, he hesitated to do this.

「流石剛氣な彼も之れには少し躊躇した」

WORD. wear (穿く) wore worn.

up to this time 'till this day' の意味の稍強きもの。

【例】 Up to this time nothing has been heard from the ship.

「今日に至るまで未だ其船よりは何等の便りもない」

I came here only a month ago; *up to that time* I had been in
Tosa.

「私は此處へ参りましてからは、たつた、一月にしかありません、
それ迄は土佐に居りました」

17. 此學校の他の生徒共が此生徒の牛を牧場へ連れて行
つて居るのを見ると散々笑つたり、譏つたり致しまし
た。(その中でも)その厚い牛の皮の靴は特に笑ひ物に
なつたんです。が、當人は一向平氣で以て自分は善い
事をして居るんだ(何も恥しいことはない)とかう思つ
て心の中で満足して、外の者が何と譏らうが嘲らうが
一向そんなことには頓着しないで、元氣よく勇ましく
日々かの寡婦の牛を牧場に連れて行き、例の厚い皮の
靴をば矢張穿いて居たのであります。

【註】 saw this scholar driving.

「此生徒が牛を驅つて行つて居るのを見た」

he was assailed with laughter and ridicule

=he was laughed at and ridiculed.

「散々嘲笑はれたり、愚弄られたりした」

【参考】 The army assailed the city with artillery.

「軍は其町を砲撃した」

They assailed him with irony. 「散々あて事を云つた」

He was assailed with blows. 「散々打擲られた」

in particular = particularly 「とりわけ」「殊に」「就中」

【例】 He, in particular, was praised.

「其中でもとりわけ彼が褒められた」

I speak of English teachers in general; I do not allude to any one in particular,

「私は一般に英語教師の事を言ふので、特に誰某とさして云ふのではない」

matters of mirth 「笑ひ物」 (三頁中程参照)

【参考】 laughing stock 「笑ひ草」

kept on..... 「.....し續ける」「依然として.....する」

【参考】 The dog kept barking all night.

「犬が一夜吠え通した」

day after day = every day 「毎日毎日」

(同じ名詞を 'after' の前後に用ふる時は冠詞を略す)

【類句】 'night after night' 「夜毎々々」「week after week」 「毎週毎週」

'year after year' 「年々歳々」

contented in the thought that.....

=being contented in the thought that.....

「.....だと思つて満足して」「.....だと思つて心中愉快を感じて」

快を感じて」

do right 「正しいことをする」「善いことをする」

【例】 You did right in giving the money to the poor man.

「貧乏人に其金を呉れたとは御前は善いことをした」

【類例】 'do wrong' 「悪いことをする」「do good」 「爲めになる」「益になる」「do harm」 「害になる」

not caring for..... 「.....をば氣に懸けないで」「.....には頓着しないで」

【例】 The general seemed to care but little for their displeasure.

「將軍は人々の不興にはさまで頓着しない様だつた」

He does not care for (=care about) what he eats.

「彼は食ふものは何でも構はぬ」

【注意】 'care for' には此他種々の意味あり下例を参照せよ。

The boy was tenderly cared for (=taken care of).

「其子供は結構な待遇を^{もてら}れた」

I do not care much for milk. I like meat better.

「私は牛乳はたんと好きではありませぬ、肉がもつと好きです」

I do not care for (=wish for) much money.

「さして金も欲しくはない」

He cares little for earthly fame.

「彼は世の評判なんかはさまで念頭はない」

He does not care for that, so long as he has no potatoes.

「馬鈴薯がない間はそれもさまで嬉しいとも思ひませぬ」

all the jeers and sneers that could be uttered

=whatever jeers and sneers they might utter.

「何と云つて譏らうとも嘲らうとも」

【参考】 He has done all that could be done.

「出来る丈けのことはした」

18. 彼は(また)何故自分は牛を連れて行つて居るのか其

理由を云はうともしませなんだ、と申しますのは、彼は自分の慈悲心を誇り顔に人に示したいなと云ふ考はありませぬし、加ふるに其胸には益になる仕事をば蔑視すると云ふ様な間違つた虚榮心は甚以て快く思はなかつたからであります。で彼の行爲と其克己心とが昨日教師の知る所となつたのは全くほんの一寸した具合からでした。

【註】 undertook to..... 「.....しようとした」
to explain why..... = to explain (the reason) why.....

「如何云ふわけで.....するかと云ふ理由を云ふ」
inclined to..... 「.....したい」

【例】 I am not inclined to do so. 「別にさうしたくない」

【参考】 The student has an inclination for the study of English.
「此生徒は英語が好きだ」

to display 「人に見せびらかす」「衒ふ」

【例】 He displays (=makes a display of) his learning.
「彼は學問を衒ふ」

charitable motives 「慈善的動機」「慈善心」

besides = in addition to; moreover 「.....より外に」「加之」「且又」

【例】 Have you brought anything besides this letter?

「此手紙の外に何か持って來ましたか」

The party numbered six, besides the servants.

「下男を除いて一行六人」

Besides this we have as much more.

「之より外にまだ之丈け御座ります」

【注意】 Beside..... 「.....の傍」と區別せよ」

She sat beside her mother. 「娘は母の側に座つた」

in heart 「胸の中では」「實際の處」

比較 — at heart 「心は」 (四頁七行目参照)

had no sympathy with..... 「には同感でない」

【参考】 I sympathise with you. 「御察し申します」

false pride 「虚榮心」

【参考】 'false modesty' 「虚禮」 false imprisonment 「不法監禁」

look on 「善く思ひ又は悪しく思つて見る」「見做す」

'look at' 單に「見る」

【参考】 Everybody looked on him with pity.

「皆其人を不愜に思つて見て居た」

I look upon (=regard) him as my friend.

「僕はあれをば友人と思つて居る」

由て look with ridicule on..... 「.....を愚弄視する」

「.....を蔑視す」「輕蔑する」

any useful employment. 「苟も世に益ある仕事」

It was — that..... 「.....したのは——だ」

比較 — { It was not I that made this. 「此を作つたのは僕ではない」

{ It was not this that I made. 「僕の作つたのは此でない」

It is you that are wrong. 「間違つて居るのは君だ」

即ち意味を強むる語を 'that' の前に置くなり。

by accident = accidentally. 「偶然」「一寸したはづみ」

【例】 I discovered it by accident. 「偶然それを發見した」

【類句】 'by chance' 「[か]らす」「by mistake」 「誤つて」「つひ」

'by good luck' 「幸ひ」「by any chance」 「若しや」

mere 「ほんの」「單に」

【例】 The use of the phrase Dear Sir, in commencing a letter, is a mere form.

「手紙の始へ「ゲ-ヤ、サー」と云ふ句を用ふるのはあれはほんの形

式に過ぎぬ」。

He is a mere student. 「彼は一書生に過ぎぬ」。

course of conduct 「やり口」。

【参考】 'Course of things' 「事態」 'course of events' 「自然の勢」 'in course of time' 「月日のたつうちに」。

self-denial. 「克己心」「自制心」。

was discovered by his teacher. 「教師の耳に入つた」。

19. 就きましては、諸君私は皆様の御意見を伺ひますが。此少年の行ひには所謂真勇と云ふものはなかつたでせうか。ア、コレ、コレ、ハートリ、何も黒板の陰に隠れんでも良い。おまへは人に嘲らるゝをば恥しいと思はなかつたではないか——してみれば今人に賞められるのをいやがるなんて云ふ事があるべきものでない。サ、出て御出で、出て御出で、エドウッド、ゲームズハートリ、(早く出て来て)みんなに御まへの立派な顔を見せてお呉れ」。

【註】 And now 「して見ますればサ」。

ladies and gentlemen.

演説の初に用ふる言葉、猶「諸君」と云ふが如し、但女尊男卑の國柄として ladies を先に云ふなり。(第十節参照)

I appeal to you. 「諸君の御意見を承ります」「諸君の御判断を乞ふ」。

【参考】 'to appeal to one's feelings' 「人の感情に訴へる」, 'to appeal to force' 「腕力に訴へる」, 'to appeal to arms' 「干才に訴へる」, 'to appeal to a tribunal' 「裁判所に訴へる」, 'to appeal to a person for mercy' 「人に憐を乞ふ」, 'The Court of Appeal'.

「控訴院」。

Was there not true heroism in the boy's conduct?

「此子供の行爲には真勇と云ふべきものがなかつたでせうか(あつたでせう)」。

肯定の強き言ひ方なり。(四〇頁十三行目参照)

【参考】 Doesn't the horse run fast? 「あの馬は早く走るぢやありませんか」。

Nay 「イヤ、コレコレ」

steal (自動詞) 「こつそり行く(来る)」

out of sight 「見えない所」

It went out of sight (=disappeared) 「見えなくなつた」。

{The land came in sight (=began to appear)

{We came in sight of the land. 「陸が見へ出した」。

【参考】 out of sight, out of mind. 「去る者は日に疎し」。

{out of sight. 「見えぬ所」 {out of hearing. 「聞えぬ所」

{within sight. 「見える所」 {within hearing. 「聞える所」

{out of reach. 「達かぬ所」

{within reach. 「達く所」

behind 「後に」「陰に」(隠るる意)。

【例】 He was hiding behind the door. 「戸の後へ隠れて居た」。

The moon is behind a cloud. 「月が雲に隠れて居る」。

to be ashamed of..... 「.....を恥しがる」「.....を恥辱とする」。

【例】 You ought to be ashamed of yourself.

「自分ながら恥しくはないか」。

【参考】 'to be afraid of' 「恐れる」, 'to be fond of' 「好く」, 'to be proud of' 「誇る」, 'to be tired of' 「飽きる」。

must not..... 「.....してはならぬ」「.....してはわるい」。

【参考】 must.....「.....せねばならぬ」「.....せぬとわるい」
need not.....「.....するに及ばぬ」 may.....「.....して宜しい」

shun 「避ける」「いやがる」

故に to shun praise 「賞めらるゝを嫌ふ」「賞めらるゝをきまり悪がる」

come forth 「出て来る」

let us see=show us 「みんなに見せて御呉れ」

20. ハートリが羞し相に赤い顔して出て来ると、一同は一聲に喝采して、その勇敢なる行爲を稱めました。で、婦人連は腰掛の上へ上がつて、ハンケチを振る。老人は手を拍いたり、或は涙を拭つたりすると云ふ有様。ハートリの穿いて居るかの粗末な靴は、王冠を頭に戴いて居るよりも却つて誇りとすべき裝飾の様に思はれました。かくして一同歡呼の裡に賞牌は彼に渡つたのです。

【註】 With blushing cheeks 「頬を赤くして」即ち「きまりわるげに顔を赤くして」

made his appearance=appeared 「あらはれた」「出て来た」

【参考】 'to make one's departure' = to departure 「出發する」

the whole company 「列席の人々皆」「一同」

greeted him with..... 「.....をして迎へた」

【例】 The speaker was greeted with cheers.

「其辯士は喝采を以て迎へられた」

a round of——. 「皆一所に——する」

【注意】 喝采を一回するを a round of applause と云ふこと、葡萄酒一盞を

a glass of wine と云ふが如し。

applause for..... 「.....を稱揚する」「.....を喝采する」

for は凡て褒貶賞罰の意に用ふ。

【例】 I praised him for his diligence 「余は彼の勉強を賞めた」

He was reprimanded for the negligence of his duty.

「彼は職務怠慢の爲め請責せられた」

He was rewarded for his services.

「彼は其功を賞せられた」

He was punished for disobeying his teachers.

「教師の命に背いて罰せられた」

waved their handkerchiefs. 「ハンケチを振つた」即萬

歳を唱へたと同意なり。

【注意】 handkerchief の複数が handkerchieves とならざるに注意せよ、總じて語尾の 'f' 又は 'fe' にて終る名詞の複数は通常之を 'ves' となす、

單數	複數	單數	複數
leaf	leaves	loaf	loaves
wife	wives	thief	thieves 等

されど少數の名詞は依然其原形の儘にて s を加ふるのみ handkerchief 等其一例なり、

單數	複數	單數	複數
chief	chiefs	strife	strifes
roof	roofs	grief	griefs
gulf	gulfs	wharf	wharfs
cliff	cliffs 等。		

clapped their hands. 「拍手した」

wiped the moisture (=tears) from the corners of their eyes. 「眼より涙を拭うた」老人は兎角涙もろく喜怒哀樂共に涙を流し易きものなり、此場合にも餘りにハートリの善行に感じて落涙せしものと知るべし。

on Hartly's feet. 「ハートリーの(足に)穿いて居る」
.....seemed prouder ornaments, than a crown would
have been on his head.

此文は省略文體故之を補充すれば

.....seemed prouder ornaments than it would have been
(a proud ornament if he had had a crown) on his head.
「若し頭に冠を戴いて居たならそれが(定めし非常なる)自分の誇とする裝飾となつたんだらうが、それよりも此無恰好な靴の方が却て身の誇とする裝飾の様に思はれた」

即ち「頭に王冠を戴いたよりもいやまさりて此粗末な靴を足に穿いて居るのが身の裝飾となつて居る様に思はれた」換言すれば「頭に王冠を戴くともかく立派には思はれまじ」との意、(王冠と弊靴と比較したる所に味あるなり)。

【参考】 He seemed to be happier, than he would have been if he had been given the world.

「よしや世界をもらつても、かくまでは喜ぶまじと思ふ程喜んで居るようであつた」

seemed..... 「.....の様に思はれた」

【例】 The story seemed to be false. 「其話は何だかうそらかつた」

the medal was bestowed on him

= the Principal bestowed the medal on him (=Hartly).

to bestow = to confer. 「與ふる」

【例】 I do not deserve all the praise bestowed upon me.

「かくも御賞めに預るには當りませぬ」

amid (or amidst) = in the midst of..... 「.....の中

に」 「.....の裡に」

amid the applause of..... 「.....の歡呼の聲の裡に」

【参考】 The curtain fell amidst the cheers of the spectators.

「見物の喝采の裡に幕がしまつた」

比較: — We are among friends. (同種類)
「吾々は友の中にあり」
We are amidst enemies. (異種類)
「吾々は敵の中にあり」

21. (於茲) ヴィンセントは心より己が過去の意地くね悪い嘲弄をしたのを恥かしく思つて、學校がすむと、目に涙を浮べてハートリーの側へ行つて、今迄の不都合な舉動をば立派に謝辭云つて、和睦に握手をしました。するとハートリーは「君、も—そんなことはどうでもい—よ、休暇となつて皆が散々にならぬ内、森へ遊びに行かうではないか」と云つたんです。そこで生徒共何れも皆ヴィンセントの例に倣つて、ハートリーに詫をし、萬歳を唱へて、共々に愉快に威勢よく打連れ立つて森へと出掛けて行きました。

【註】 heartily. 「心から」「深く」

ill natured. 「意地悪い」

【参考】 good natured 「人のよい」「親切な」

the school was dismissed. 「學校が散ずる」「學校がすむ」

with tears in his eyes. 「目に涙を浮べて」「涙ぐむで」

【参考】 'with a book in one's hand' 「(手に) 本を提げて」

'with a pipe in one's mouth' 「(口に) 煙管を啣いて」

'with a gun on one's shoulder' 「(肩に) 鐵砲を擔いで」
tendered his hand = offered his hand.

握手をせんとて手を出す、伸直りをせむが爲めなり。

【参考】 to tender one's resignation. 「辭表を差出す」
making a handsome apology for.....

「丁寧に.....の詫をして」

【参考】 With an apology for my intrusion, I was about to withdraw.
「私は、之れは飛んだ處へ失禮したと云つて立ち去らうとした」
He made an apology for his lateness.

「遅れてすまなかつたと云つた」

past 「從來の」「之迄の」

manners. 「舉動」「態度」

Manner を此意味に用ふる時は常に複數なり、かくの如く單複數如何により意味を異にする名詞往々あり注意すべし。

單數	Advice	(忠告)	Force	(力)	Iron	(鐵)
	Advices	(報知)	Forces	(軍隊)	Irons	(足械)
複數	Custom	(習慣)	Letter	(文字)	Manner	(仕方)
	Customs	{ 1. (習慣) 2. (關稅)	Letters	{ 1. (文字) 2. (文學)	Manners	{ 1. (仕方) 2. (舉動)

Think no more about it. 等。

「もうその事は思つて呉れ給ふな」「そんな御心配が
いるものか」

no more 「もう.....せぬ」

【参考】 The ancient city of Troy is no more (=it exists no longer).

「古りにヒトロイの都も今や在らず」

He is no more (=he is dead).

「彼はもう此の世の人でない」(亡き人となつた)。

let us go and have a ramble.....

「ララ々々遊戯に行かうではないか」(八頁末行参照)

woods 「森」 (多く複數の形に用ふ)。

【参考】 Sands (砂原) fields (野原) (皆複數の形なり)。

before..... 「.....するより前に」「.....せぬ内に」「.....
する迄に」

【参考】 I shall call on you once more before I leave here.

「此地をたつ迄に今一度上ります」

break up for vacation.

「休暇になつて皆が別れる」

【参考】 The chairman broke up the meeting at 10.

「會長は十時に散會した」 (他動)

The meeting broke up at 10.

「十時に散會した」 (自動)

The ice of the river broke up.

「河の氷が解けた」

【参考】 'to break out' 「(戦争、火事、疾病等) 起る」「始まる」

'to break off' 「止める」「to break down」 「挫ける」

one and all (all の強き形)。

「誰も彼も残らず」

【例】 They, one and all, declare that he is very much richer than he
appears.

「皆が皆まであの男は見たより餘程金持ちだと言ふ」

【参考】 Once for all. 「之一度でもう此後ば.....せぬ」

followed Vincent's example.

=did as Vincent had done.

「ヴィンセントの例に倣つた」「ヴィンセントのした

通りした」即ち「皆ハートリに詫をして伸直りをし

た」

【参考】 'follow the dictates of.....' 「.....の命を守る」

'follow the multitude' 「流俗を追ふ」

'to set an example' 「模範を示す」

'to make an example of.....' 「.....を槍玉にあげる」

with shouts and huzzas. 「鯨波を揚げて」「萬歳を唱へて」

へて」

set forth = started. 「出掛けた」

a happy, cheerful group. 「楽しく、機嫌よき團體(として)」

此句は上の 'set forth' に係る complement にして「.....として」出掛けたの意義にて單に happily and cheerfully (楽しく面白く)(喜々然として)と云ふと同じ意味なり。



The Truthful King.

信實なる王

1. さるペルシヤの王様が、(或る時)姿を扮し、從者もほんの僅ばかり打具して、旅をして居られました所、追劔が之を待伏せして、その所持品は固より、命までも取ると云うて嚇しました。

註 A certain. 「或る」「さる」とあるなどと譯すべし。單數の普通の名詞の前にある時は "a certain" にして複數の普通名詞の前にある時は單に "certain" となる、'a certain man' 'certain men' 'a certain school' 'certain schools'.

Persian king = king of Persia.

while traveling in disguise.

= while he was *traveling incognito*.

(一頁十七行目参照)

{ *travelling* (米國式)

{ *travelling* (英國式)

「姿を扮して旅行をして居る中に」即ち「御微行をなされて居た際」

總て 服裝 (*dress*) の義には 'in' を用ふ下例を参照せよ。

'Dressed in white' 「白装束」 'in one's best' 「晴衣を着て」 'in a frockcoat' 「フロックコートを着て」 'in foreign clothes' 「洋裝をして」 'in rags' 「襤褸を下げて」

Persons doing unlawful acts *in disguise* are subject to heavy penalties.

「變装して不法の行爲を爲せし者は嚴罰に處す」

with..... 「.....と共に」「.....を連れて」

【例】 There is a beggar with a dog.

「犬を連れて乞食が居る」

Please take me with you. 「何卒私を連れて行つて下さい」

Won't you go with me? 「僕と一緒にいかないか」

but few = only a few. 「僅計りの」

attendants. 「従者」「家來」

was waylaid by robbers. 「追剽に待伏せられた」

原文は被働態 (passive voice) になり居れど邦語には被働態は稀なる上に其次の文 (who threaten I.....) が矢張授働態 (active voice) となり居る故寧ろ「追剽がそれを待伏せた」と譯するを便とす。

who..... 此關係代名詞の先行詞は無論其上の 'robbers' なり、總て

'Comma' の次の who, which 等 [I and he (she, it, they) の意味にて「.....せし所の」と下より還らぬをよしとす。

【例】 I met Mr. A, who (=and he) told me the news.

「A 君に會つたらその事を話した」

比較 { I want a man who is skilful in teaching. 「教授のうまい人が一人欲しいが」
Then you had better engage Mr. M, who is very skilful. 「では M さんを雇つたがよい、あの人ならうまいものだ」

threatened to..... 「.....すると云うて嚇した」

【例】 He threaten'd to kill me, if I did not obey him.

「云ふ事をきかぬと殺すぞと云つた」

【参考】 It threatens rain. 「今にも雨か降て來相だ」

to take his life = to kill him. 「命を取る」「殺す」

not only——, but (also)

「——のみならず.....をも」「——は勿論.....までも」

此語法は二者の中後者を強めて言ふ時に用ふる語法なり。

Not only I, but all other men declare this to be true.

「僕ばかりではない、外の人達もこれは眞實だと云つて居る」

Not only in Japan, but also in Korea.

「日本はおろか朝鮮にも」

Not only in Japan, but all over the world.

「日本のみならず否世界中到る處」

goods. 狹義にては「(賣買の)貨物」今少し廣義にては

「(一般の)財貨」從て茲にては「所持品」と意譯して宜し、而して 'good' を此意味に用ふる時には現今にては専ら複數 'goods' の形を用ふれど往時は單數に用ひられしこと少からざりき。

He hath made me spend much good. (Chaucer)

「彼は私に随分財産を費さした」

Feeling himself growing old, he resolved to divide his goods among his three sons.

「年は取るし、もういつそ資産をば三人の子に分けてやらうと思つた」

以上の如きを以て當今にては 'good' を單數名詞として用ひたる時は其意味異なり、

good (善。益) goods (動産)

かく單複其意を異にするものは少からず。 (五十六頁中程参照)

2. (もう所詮叶はぬ) とて人間業では助かる事は出来ぬ、(最早此上は神様の御力を借る外はない) と思つたので、王は内心(かくと)誓を立てた、即ち若し神様が此惡漢共の心を轉じて一遍慈悲の念を起さし、そして

無事に(本國の)家族や臣民の(居る)所へ歸らして下さつたら、(其御禮に)當時國庫に有金は残らず、之を頭割あたまわりに貧乏者へ施してやりますと(誓を立てた)。

【註】 Feeling himself..... = Feeling that he was..... = As he felt that he was..... 「自分は.....であると思つたので」。

beyond the reach of human aid. 「人間の力ではとても助けることは出来ない」(此上は神様に倚る外ない)の意。

beyond..... 「.....の力には及ばぬ」.....ではとても出来ぬ」。

- 【例】 This task is *beyond* my strength (=too difficult for me).
 「此仕事はとても僕の腕にはあはぬ(とても出来ぬ)」。
- My gratitude is *beyond* my power of expression.
 「何とも御禮の申様も御座なく候」。
- She is beautiful *beyond* description.
 「其美しいことと云つたらとても筆紙に盡しがたい」。
- Such a story is *beyond* belief. 「そんな話はとても信ぜられぬ」。
- This book is quite *beyond* me (above my comprehension).
 「此本はとても僕には解らぬ」。
- Excellence of any sort is placed *beyond* the reach of indolence.
 「何事によらず秀でると云ふ事は怠惰なまじりで居てはとても出来るものではない」。
- It is *beyond* the reach of a human being never to make a mistake.
 「誤ることなきは人間には出来ぬことだ」。

inwardly = in the mind. 「心の中で」 「口にこそ云はね心には」 「心中ひそかに」。

made a vow that..... 「.....と云ふ誓を立てた」 「.....と祈願をこめた」。

if god would..... 以下間接話法なるを以て直接話法にすれば 'if god will.....' 「神様が.....して下さるなら」。

即ち此形に於ける 'will' は未來の意味に用ひられたるに非ずして其働を其主語の意志決定に任じたるなり。(四十四頁参照)

- 【例】 If *you will* lend me the money, I shall be much obliged.
 「金を貸して下さらば實に有難い」。
- If *you will* come to my house, I will show it to you.
 「私の所へ御出で下さらば御目に掛けませう」。

incline——to..... 「——を.....へ向ける」 「——を.....へ傾ける」。

由て 'incline the hearts of these ruffians to mercy' 「此兇漢共の心を慈悲に向ける」即ち「その貪慾殘忍の心を轉じて一遍仁慈の念を生せしめ(私を助かる様にし)て下さる」の意。

- 【参考】 *Incline* your head to the right. 「頭を右に向けよ」。
- 'to incline one's ears to anything' 「何々に耳を傾ける」。

restore——to..... 「——を.....に歸す」 「——を元の通り.....にする」。

- 【参考】 'to restore a lost article to its rightful owner' 「紛失物をそのまにかへす」。
- 'to restore a man to health' 「健康に復せしむ」。
- Peace was *restored*. 「平和克復になつた」。

in safety = safely. 「無事に」。

かくの如く抽象名詞は前置詞 in, with, by 等と結合して副詞の働

をなすこと屢あり。

【例】 in haste=hastily 「急いで」 in peace=peacefully 「穏に」 in secret=secretly 「密かに」 with ease=easily 「容易く」 with fluence=fluently 「流暢に」 by luck=luckily 「幸に」 by accident=accidentally 「偶然」

to his family and people. 「一家の者や臣民の者の(居る)所へ。」

【備考】 一個人ならば故國に歸ることをば單に其家族の所 (to his family) と云ふに過ぎざるべきも一國の王たるものは家族の所に歸ると同時に其治むる臣民の許に (to) his people) 歸ると云ふを得べきなり。

he would..... 直接話法に直せば 'I will.....' (一人稱の意志を表す)。

「.....します」「.....ませう」(即ちこゝにては意志中約束を表す)。(二十八頁参照)

【例】 If you study hard, I will buy you a knife.

「精出して勉強すりや、ナイフを買つてやらう。」

I will be more careful in future.

「以後はもつと注意致します。」

He said that he would never drink wine again.

(=He said "I will never.....")

「もう二度と酒は飲みませぬと云つた。」

distribute. 「分配する。」

【例】 I distributed the food among the three beggars.

「私は其食物を右の三人の乞食に分けてやりました。」

He distributed his property to all his relations.

「彼は其財産をば親族に分ち與へた。」

all the money then in his treasury

=all the money (that was) then in his treasury.

「當時國庫にあつた金残らず。」

in alms. 「施物^{ほしこし}として。」

【注意】 'alms' は本來單數の語にして語尾の s は此語の一部にして複數の符號にはあらず、従て昔は之を單數として取扱ひしも He asked an alms. (彼は施物を乞うた) —New Testament. 年月の經る間に語尾の s は複數の符號なるが如くに思はれ今は概ね複數として用ひらる。

I gave alms to the beggar, and for these (=the alms) he thanked me.

「乞食に施物をくれてやつたら禮を云つた。」

the needy = all the needy people = the people who needed aid. 「總て衣食に窮乏せる者」即ち「貧乏者。」

【注意】 かくの如く形容詞の前に定冠詞を附したる時は其意複數名詞に同じ。

the rich = (all) rich people 「富者」

the poor = (all) poor people 「貧者」

the wise = (all) wise men 「賢者」

the foolish = (all) foolish men 「愚者」

the great = (all) great men 「偉人」

The rich are not always happy; the rich sometimes envy the happiness of the poor.

「富める者必しも幸ならず; 富める者も猶貧しき者の幸福を羨む事あり。」

A word to the wise is sufficient.

「賢者には一言にして足る。」

Young men should read the lives of the great.

「青年は須く偉人の傳記を讀むべし。」

of his realm. 「其領土内の。」

3. (すると) 追剝共は、(まさか) 神様の御力でもあるまい

が兎に角) 何か知らぬが何とか云ふ原因で、王をばゆるしてやつた、で王は自分が帯につけて持て居た金の入った小さい財布を取られたばかりで、別に身體には何の害も受けずに、間もなく無事に歸り着いた。

【註】 from. 原因 (cause) を表す。

from some unknown cause. 「何か分らぬ原因で」

「何か知らぬが兎も角何とか云ふ原因で」

He is still weak from his late illness.

「彼は此間の病氣の爲めまだよわつて居る」

比較:— { from this cause (原因)。
for this reason (理由)。

【注意】 'some' 「或る」と譯すべからず、「或る」と云へば通例其物、其場所等を知れども之を名ざすことを欲せざる時に用ふる言葉にして其意味には“(a) certain”と云ふ語を用ふ。“some”は其物、其人其場所等を知らざる時に用ふるなり。(五十九頁参照)

He is studying some foreign language.

「彼は何か外國語を學んで居る」

He attends some school in Kanda.

「彼は何處か神田の學校へ通つて居る」

Some one has come. Go and see who it is.

「誰か来た様だ、誰だか行つて見て来て御免れ」

He lives somewhere about Ushigome.

「あれは何處か牛込邊に住んで居る」

I want some book to read. 「何か讀む本が欲しい」

従てこゝにては「何か……」と譯すべし。

liberated = set at liberty. 「自由にする」「つかまへて

居たのを放す」

【参考】 'to liberate a slave' 「奴隸を解放する」

'to liberate a prisoner' 「囚人を放免する」

reached home. 「自宅へ歸り着いた」
having sustained no injury.

「身體には別に危害も蒙らずに」

【備考】 sustain 「(不利なることを)受ける」「蒙る」

He sustained loss on loss. 「損の上の損をした」

Our vessels sustained no damage.

「我船には毫も損傷なかりき」

injury. 「(身體の)損傷」

save = except. 「……を除いては」「……より外には」

【例】 There is nothing in Heaven and earth beneath save God and man.—Whittier.

「天地の間神と人との外一つもあるなし」

All save one. 「一つを除いて外皆」

Save は主として詩歌に用ひ散文には寧ろ稀なり。

the loss of— 「——をなくした」

次の諸例を比較せよ。

{ the conquest of Caesar. 「シーザーが征服したること」

{ the conquest of Britain. 「ブリテンを征服したること」

{ the discovery of Columbus. 「コロンバスが発見したること」

{ the discovery of America. 「アメリカを発見したること」

{ the command of a general. 「大將が指揮すること」

{ the command of an army. 「軍隊を指揮すること」

the man's loss { 1. 其人が何かをなくしたること。

{ 2. (死ぬるか又は外へ去つて) 吾々が其人をなくしたること。

(但此形を第二の意味に用ふることは稀にして、かかる場合は通例 'the loss of the man' と云ふ)。

the small purse of gold. 「黄金の(はいつて入る)小さい財布」。

【参考】 'a box of cake' 「菓子のはいつて居る箱」
'a basket of apples' 「林檎のはいつて入る籠」

.....that he had carried in his girdle.

「帯につけて携へて居た.....」。

4. (一旦)立てた誓は飽くまで守りたいたと云ふ考で、諸官を御前へ召されて、歸國の際、國庫にあつたものは残らず、早速貧乏者に分けてやれと命じた。

【註】

Desirous of keeping..... = Being *desirous of keeping*
..... = As he was *desirous of keeping*.....

「.....を守りたいと思つて」。

【参考】 He is *desirous of securing* the position.

「あの人が其職につきたいと望んで居ます」。

He is *desirous of going* abroad.

「彼は洋行をしたがつて居ます」。

keep..... 「.....を守る」。

此反對に「破る」には 'break' を用ふ。

【例】 'to keep a vow' 「誓を守る」即ち「祈願の由を實行する」。

'to keep one's promise (or word)' 「約束を守る」。

the vow he had made = the vow (which) he had made.

「さきに立てたる誓」。

summoned. 1. 呼出す、召す、召喚する。 2. 降服を命ず。

1. The court *summoned* two witnesses.

「裁判所は證人二名を召喚せり」。

He has been *summoned* to Tokyo.

「彼は上京を命ぜられた」。

2. The general of the attacking army *summoned* the fort to surrender.

「攻撃軍の將は其城に投降せよと云つた」。

officers. 「諸官」「有司」。

commanded——to..... 「——に.....せよと命じた」。

【例】 I *commanded* him to stop. 「彼に止まれと命じた」。

to make immediate distribution.....of——

=to distribute——immediately. 「直様分けてやる」。

【注意】 總じて英語の習慣として、日本語ならば副詞と動詞にて云ふべき所を形容詞と名詞にて云ふこと多し、よく々々注意すべきことにこそ。

I don't know his *exact* address.

「僕は彼の住所を精しくは知らぬ」。

(I don't know his address *exactly*. とは通常云はず)。

He has made a *special* study of English.

「あの人は英語を専門に研究して居る」。

I wish to bring the matter to a *speedy* conclusion.

「早く此事件を片附けたい」。

He wrote a few *hasty* lines.

「彼は二三行走り書きに書いた」。

He made a *ready* answer. 「彼はすぐに返答した」。

to the poor. 「貧乏者に」。(六十五頁参照)

of all that..... 「.....を残らず」。

此 of は始の to make immediate distribution に掛かり

り to make——distribution of all that.....となり、

「.....を残らず早速分配する」の意となる。

the treasury contained. 「國庫が保つて居る」即ち「國

庫に有る」。

【例】 This box contains 10 books. 「此箱には本が十冊はいつて居る」。
従て、contents (在中物)。

at the time of his return. 「彼が歸國の際に」。

【参考】 at the time of his departure. 「彼が出發の際に」。

5. けれ共諸官連は、(性來)王様とは違つて中々吝嗇ではあるし、それにかくては或は自分達の給料や年金に不足を生ずる様なことがあつては大變だと思つたので、かゝる咄嗟の間に立てた誓を守ることの愚にして、爲めに王様は勿論、延いては天下一般を財政困難に陥らしむるに至る様なことがないとも限らないと云ふことを王様に切に論じた。

【註】 , more miserly.....and, fearful that.....
= being more misery.....and (being) fearful that.....
= as they were more miserly.....

more miserly than himself (=the king)

形は「王様よりは吝嗇だ」となり居れど其實は「王様とは違つて中々吝嗇だ」との意。

fearful that—might..... 「——が.....しやしまいかと思つて」「——が.....するといけないから」「——が.....すると大變だから」。

【注意】 being fearful that—might.....

 = for fear—might.....

 = lest—should.....

以上の如く此形には通常助動詞は過去の事柄には should 又は might を用ひ現在の事柄には should 又は may を用ふ。

shall

He worked hard {lest for fear} he {should might} fail.

「落第すると可けないから精出して勉強しました」。

He works hard {lest for fear} he {should may} fail.

「落第すると可けないから精出して勉強します」。

Take an umbrella with you for fear it should (or may) rain.

「雨が降ると可けないから傘を持つて御出で」。

I feared lest he should die.

「彼は死にほしまいかと思つた」。

they—the officers.

to fall short in— (=to be deficient in—) 「——の點に於て不足する」即ち「——が足らなくなる」「——が缺乏する」。

【例】 Many people fall short in public virtue.

「公德心の缺乏して居る者が多い」。

You have talent and ability; perseverance is the only thing you fall short in.

「君は才もあり技術もある、君の足りないのは只忍耐のみだ」。

【参考】 to fall short of—「—(なる所要の點)に達せぬ」「——に足りぬ」

The shot fell short of the mark.

「彈丸は的に届かなかつた」(達せずして落ちた)。

The proceeds of the sale fell short of my expectation.

「賣上げ高は思つたより少なかつた」。

The number of the pages of that book falls short by ten of what was advertised.

「其本の頁數は廣告してあつたのよりは十頁だけ不足して居る」。

He falls short of a good teacher in experience.

「彼は真教師たるにはまだ経験が足らぬ」。

其他の類句:— 'to come short of' = 'to fall short of' 'to stop short

of—'「—を途中で止める」'to run short of'「(船が)——に
乏する」'to be short of'「……が不足だ」'to cut short'「簡単に
切り上げる」中言する」。

salaries and pensions. 「俸給や恩給金」。

began to……「……し始めた」「……し出した」。

to urge upon some one……「誰某に……だ(からせよ
又は止せ)と切々云ふ」「誰某に……である(から、せ
よ又は、すな)と大に論ずる」。

【例】 I urged upon him the necessity of perseverance.

「僕は彼れに幸抱が大事だ(からよく幸抱しろ)と呉々も云つた」。

He urged upon his son the folly of marrying such a girl.

「あれは其子にそんな娘を娶るは馬鹿な事だ(から止せ)と切々云つ
て聞かした」。

the folly of……「……するのは馬鹿げて居る」「…
……するのは王様の爲めに採らざる所だ」。

keeping this rash vow.

【備考】「目前の危難に迫られて前後熟慮の暇もなく立てたるものにし
て、若し靜に前後を考へしならばかゝる誓は立てざりしならむ、さら
ばかゝる誓は別に之を守るの要なくそれを正直に飽く迄も守るなどと
は愚の極なり」との意。

the danger of……「……すると云ふ危険」「若しや
……する様な事があるかもしれない」。

【注意】前の 'the folly of……' と同じく 'to urge upon the monarch'
に係り「……する様なことがあると大變だから(是非御止しなさい)
と勧めた」との意。

【参考】 We were in danger of an attack from the enemy.

「敵に攻めてこられさうになつて居た」。

thus 「かくして」即ち「其咄嗟の間に立てた誓を守り

(貧民に國庫の金を施與し)たるが爲めに」。

involving……in——.

「……を——に包みこむ」「……を——に巻きこ
む」「……を——に陥らしむ」「xxxxの爲めに……
が——に陥る」。

【例】 The whole city was involved (or wrapped) in darkness.

「全市は暗黒に包まれて居た」。

The failure of the bank involved him in debt.

「あの銀行が破産したので彼れは大變な債務を負つた」。

himself and his kingdom. 「王様御一身延いては國家
全體」。

difficulties. 「財政の困難」(主として複數)。

【例】 I am in difficulties. 「僕は金に困つて居る」。

【類例】 'to be immersed in pleasure' 「快樂に耽る」'to be plunged in
grief' 「愁に沈む」'to be sunk in thoughts' 「思ひに沈む」'to be
absorbed in study. 「勉強に耽る」。

6. 何と云つても王様頑として動かないので、諸官共は
今度は議論の立場を變へて、(若し王様には衣食に難
澁をして人に助けて貰はなければ事の足らぬものへ國
庫の金を御分ちになると仰有るなら) 軍隊や其餘の官
吏連だとして困窮して居る點に至つては別に貧乏者と變
りはありません; 殊に誓の御言葉によりますと、國
庫の有金をば荷も救助を求め得べきわけがらのあるも
のへは誰彼の差別なく御分配なされんけりやならな
いことゝなつて居ますから、(しますると云ふと)官吏
連も矢張り無論其中に入るのでは御坐りますとさも眞
しやかに論じた。

【註】 Finding..... = When they (= the of fcers) found that..... 「.....なることが分つたので」。

still 「.....しても矢張」「依然として」。

【例】 He is very rich, still he is not contented.

「彼は大層金持だ、けれども矢張満足はして居ない」。

remained..... 「依然として.....した」「矢張.....であつた」。

firm 「決心を動かさぬこと」。

【例】 The others have all yielded; he alone remained firm.

「外の人皆従つたが、彼のみは獨り頑として動かかつた」。

【参考】 'to remain loyal' 「飽く迄も(忠義の)心を變へぬ」 'to remain a bachelor' 「一生獨身で暮す」。

took other grounds. 「別の論據を採る」「議論の立場を變へた」。

【参考】 on the ground that..... 「.....と云ふに基いて」「.....と云ふ理由で」。

plausibly. 「尤らしく」「さも眞しやかに」。

troops. 「軍隊」(此意味では何時も複数)。

比較:— forces 「軍隊」 arms 「武器」 colours 「軍旗」。

other officials. 「爾餘の官吏」。

needed aid 「他人の救助を仰がんけりやならぬ」即ち「困窮して居る」。

—as well as..... 「.....と同じく——も」「.....は(無論)さうであるが——も」「何々なること——も亦.....と變りはない」。

【例】 He as well as you is guilty.

「君も罪があらうが彼もある」。

The fever will attack you as well as me.

「僕も熱病にかゝるだらうが君だつてかゝるぞ」。

Time cures sorrows as well as wounds.

「月日がたつと疵も癒るゝ悲もそれと同じだ」。

London is the largest city in England, as well as the capital.

「倫敦は首府でもあるが亦英吉利最大の都會でもある」。

以上の如きを以て 'as well as' は二者を擧げて前者を強むる語法なるを以て彼の世俗徒に漠然「並びに」と譯するが如きは因襲の久しきとは云へ今日の學生たる者の採るべき所には非ざるなり。

as..... 「.....であるから」 下の 'he had bound.....' に係る。

by..... = to judge from..... 「.....によつて考へて見ますれば」「.....によりますと」「.....によりて」。

即ち 'by' は判断の標準を示す。

【例】 How do you know that he is an American?—By his accent.

「あれが英吉利人だと云ふことが如何して知れるのか」「アクセントで(分る)」。

Mars is easily known by its red light.

「火星は其光の赤きによりて容易に知れる」。

A man is known by his company.

「人は其交友を見れば其人物が分る」。

the words of his vow. 「誓の(意味でなく單に)文句」。

bound

bind bound bound

he had bound himself to..... 「.....する約束をした」「.....せんけりやならぬ」。

【参考】 I am bound to do so in gratitude.

「余は恩義上しかせざるべからず」。

A man is bound in honour not to reveal a secret.

「人は徳義上秘密を洩らすべきものにあらす」。

He was bound hand and foot. 「彼は手足を縛られて居た」

I have bound myself to do so. 「そうする約束だ」

The ship is bound for Kobe. 「此船は神戸行きだ」

contents. 「在中物」即ち「有金」此意味の時は常に複數。

【注意】 content. 「満足」 contents 「在中物」

those who..... = the people who.....

had claim to..... = had a claim on..... 「.....を
得て然るべき筋がある」

【例】 I have a claim on his charity.

「彼に救済を仰ぐべき次第がある」

I have a claim on his favour.

「彼に恩を求めて然るべき事情がある」

The man laid claim to the purse found near the house.

「其男は家の傍に落ちて居た財布を之れはおれのだから呉れと云つ
た」

relief 「救助」「救済」

public servants——私人の傭へる下男下女 (private ser-
vants) に對し、國家の傭へる官公使 (officials) を指
す。

certainly 「慥に」「無論」

come within the required limits. 「所要の範囲内に來
る」「亦其中に入るべきものだ」即ち「當然救恤を
受くべきものだ」との意。

【備考】 かつる時の 'within' は一定の限界内を示し 'beyond' と相對す。

Within the limits of.....

Within the bounds of..... 「.....の範囲内に」

Within the confines of.....

Beyond the limits of.....

Beyond the bounds of..... 「.....の範囲外に」

Beyond the confines of.....

It is within the bounds of possibility (=possible).

「それは出来ることだ」(出来ないことではない)。

It is speaking within bounds (=not too much) to say the fate of
the Empire depended on the issue of this battle.

「皇國の興廢此一戦にありきと云ふも敢て誇張の言にあらず」

No candidate for a cadetship will be examined, whose age does
not fall within the prescribed limits.

「士官候補生志願者にして其年齢所定の範囲内にあらざる者は試験
を受くるを得ず」

7. (一つには) 諸官連の似而非論法に惑はされ、(又一
つには) 心から適當な處置をしようと望むで居たので
すから、王宮に近くさる物知りが住んで居たのを幸ひ
之に事情を談し是非を聞き、然る上其云ひ義に従はう
と決心した。

【註】

Bewildered by.....sincerely desirous of——

=Being bewildered by.....and sincerely desirous of

——=As he was bewildered by.....and sincerely
desirous of—— 「.....に惑はされ且——したいと思

つて居たから」 (六十八頁参照)

false logic 「偽論」「偽而非論法」

sincerely 「(唯外面のみではない)實際心から」「眞に」
desirous of doing right.

【例】 I hardly know whether I have done right or wrong, for he is such
a good-for-nothing fellow.

「私の處置は當を得て居たのか、居ないのかどうも分らぬ、何様相手があの通りのクツにもならぬ奴ですから」
なにさま

appealed to..... 「.....に訴へる」「.....に頼む」

即茲にては appealed to a certain sage (for advice).

「或る物知りに事情を談して其意見を訊いた」の意。

(五十頁末行参照)

【例】 He appealed to the supreme court. 「彼は上告した」

The girl appealed to me for pity.

「其娘遍に僕に憐愍を乞うた」

a certain sage 「或る物知人」 (五十九頁末行参照)

dwelt. dwelt (住む) dwelt dwelt.

near..... 「.....の近所に」

the royal palace (此王様の) 王宮。

determined to..... 「しようと決心した」

to abide by..... (a) 「.....を固守する」 (b) 「.....

に依て事を決する」「人の意見に従ふ」

即此處にては (b) の方の意味に用ひられたるなり。

【例】

(a) The fellow was obstinate enough to abide by what he had said first.

「そ奴強情にも初に云つた事は何處までも通さにやきかない」

He abided by his promise. 「約束を違へなかつた」

(b) I am determined to abide by your decision.

「君の御意見に従ふ決心で御座ります」

his decision = the sage's decision.

8. すると此先生先、づ事情を具に聞いて置いて、それから唯から訊いたばかりだ。「一體あなた様は其御誓

をなすつた時誰の御積りでした、貧乏者(の御積り)でしたか、但し又役人共(の御積り)でしたか」王様は「貧乏人(の積りだつた)」と答へました。すると「では、此金銭を御分配なされてやるべき者は貧乏者で御座ります；それと申しますのは、若しあなた様が當初御誓を立てられた節御思召し遊ばしたことをなさらなかつたら、それでは真に御誓言を果され(たとは申され)ませぬ」と物知り先生御返答申した。茲に於て王様も之こそ正しい分別だと納得召されて、遂に其意見通りになされた(と云ふ話があります)。

【註】 after hearing..... = after he heard..... 「.....を聞いてから」

the case 「辯護士の引き受ける訴訟事件」延いて一般「事の成行」「事情」

only..... 「.....したばかりだ」

asked the following simple question. 「次の様な分りきつた質問をした」

Of whom were you thinking. 「誰の事を考へて居たか」

「誰の事が胸に浮むで居たか」即ち「誰の積りであつたか」

to think of には色々の意味あり。

1. = 思ひ出す、思ひ付く。

Don't you sometimes think of home?

「折々故郷の事を思ひ出しほしませぬか」

Oh! I didn't think of that.

「あ！とんとそんなことは思ひ付かなかつた」

2. = 案ずる。

I suddenly *thought of* a good plan. 「ふと名案を案じた」

3. = 念を起す。

I sometimes *thought of* resigning.

「僕も時には辞職しようなどと云ふ念を起したこともあつた」

4. = 意見を懐く。

What do you *think of* the new teacher.

「今度の先生は如何思ふの(良いと思ふのか悪いと思ふのか)」

【参考】 to think about..... 「.....の判断をする」 'to think on.....

「.....を思ひ廻らす」 'to think over..... 「つく々考へる」

比較:— I did not *think of* that. 「そんなこと(があらうと)は一向氣が附きませなんだ」
I have not *thought about* that. 「その事は別に何とも考へて見ませなんだ」

when you made the vow. 「其誓をなされた時に」

of the poor = (I was thinking) of the poor.

Then (では) = If that is the case (果して然らば) =

「果して其誓を立てられた際貧乏人の御積りでしたら」

【参考】 You have eaten nothing? *Then* you must be hungry.

「御前何も食^たべて居ないのか、それぢや飢^ひいだらう」

The boy has walked all the way? *Then* he must be tired.

「あの子はすっかり歩^{ある}行いて来たつて、では定めし疲れて居るだらう」

it is to the poor you are.....

=it is to the poor (that) you are.....

(四十九頁末行参照)

「あなたが.....すべきは (役人にではない) 貧乏者にだ」

you are bound to..... 「あなた様が.....すべきは」

(七十五頁末行参照)

these funds = this money = the money in the treasury.

really 「(表面は兎も角) 實際は」

fulfil your vow 「誓を守る」「誓を履行する」

unless..... = if..... not.

【例】 *Unless* you work hard (=if you do not work hard) you will be plucked.

「うんと勉強せぬとペケになるぞ」

that which..... = what..... 「.....したる事」

intended to do. 「しようと思つた」「する積りであつた」

【例】 I *intend to go* (or *intend going*) to Tosa next year.

「明年は土佐へ参る積りです」

【類例】 I *purpose to do* (or *purpose doing*)..... 「.....する所存だ」

I *propose to do* (or *propose doing*)..... 「.....した方がよいと思ふ」

when it was made = (at the time) when you made it (=the vow).

was satisfied 「承知した」「得心した」

【例】 I am *satisfied* with your explanation.

「君の説明で充分だ(満足した)」

It is impossible to *satisfy* all his demands.

「彼の要求に皆迄應ずる譯にはゆかぬ」

the right decision. 「正當なる判断」

間違つた (wrong) ものは幾多でもあるべきも其場合に適切なる

(right) ものは唯一つしかなるべき筈なれば 'right' なる語は常に定冠詞に先立たる。

【例】 Always use the right word in the right place.

「(語を用ふるには)何時も此處には之でなくてはならぬと云ふ適切な語を用ふる様にせよ」

He is the right man in the right place. 「彼は最も適任者だ」

He came just at the right moment.

「彼は遅からず早からず丁度宜い時に来ました」

did as the sage advised. 「右の物知人の云ふ通りにした」

【参考】 Do as I tell you. 「おれの言ふ通りに爲る」

He did as he was bidden. 「彼は命ぜられた通りにした」

9. (ですからして) 青年諸君は (かう云ふことを深く心に留めて置いて戴き度い) 即ち神様は眞實の者であつて、(唯に外面のみならず) 内心の眞實を求められて居る; ですからして、若青年諸君にして神様の御嘉稱(に預り)、吾が良心の嘉稱を得たいと思ふなら、唯に外面上に顯れたる偽の様子のみならず、(外に出ない内心の)一寸した遁辭又は欺偽もない様にしなくてはならぬ; 従つて(一旦)約束をしたる以上は、唯に其しようと約束した事の文字通りの事のみならず、其精神までも果たす様にせぬといけな

【註】 Let the young(=(all) young men) bear in mind

that..... 此は其話の相手を第三者としたる時に用ふる語法にて、相手を第二者に引き直せば

Young men, bear (it) in mind that.....

青年諸君(は).....しなさい。

Boys, beware of the habit of idleness.

比較:— Let the student beware of the habit of idleness.

「生徒たる者は怠惰の習慣を作らぬ様に意を用ひないといけない」

If you see any boy looking off his book, come and tell me.

比較:— Let any one of you who sees another boy looking off his book come and tell me.

「御前達の中誰か他所目をして居るものを見附けた者があつたら、私の所へ云つて来て御呉れ」

bear in mind = remember 「心に掛ける」「記憶する」

【例】 This is my advice, my boy, and I wish you to bear it in mind.

「之れが御まへに云つて置く事だ、どうかよく心に掛けて居て御呉れ」

a being. 「(有形たると無形たるとを問はず一般に) もの」

a living being 「生物」 a supreme being 「神」

a human being 「人間」 a spiritual being 「生靈」

a being of truth = a truthful being. 「眞實な者」

かく of+抽象名詞は形容詞句を作るに最も多し、

a man of courage = a courageous man. 「剛氣な人」

a matter of importance = an important matter. 「重大事件」

a man of virtue = a virtuous man. 「有徳の人」

—, requiring truth.....

原文は「.....の眞實を求むる—」となり居れど、文勢上本文の如く文字の順序通り譯せり。

inward heart (内心) outward appearance (外形)に對す。

【備考】 「たとひ外形は眞實らしくても内心が、さうでなくてはいけない、例へば此王が其國庫の金を分配するに當つて之を官吏連にやつた

としようか、成程窮乏せる者に賑したとも云はれうし旁外見は其誓を全うした様なものゝそれでは肝案の當初の素願に違ふので内心の眞實とは云へまい」

if they (=the young = young men) would.....

「青年諸君が若し.....せんと欲せば」

【例】 If you would be happy, be virtuous,

「幸福ならむと欲せば有徳なれ」

would..... = wish to..... 「.....を欲す」 希望を表す。

Do (to others) as you would be done by.

「己の欲する所を人に施せ」(己の欲せざる所之を人に欲す勿れ)。

He who would search for pearls, must dive deep.

「真球を得んと欲する者は海底深く入らざるべからず」(虎穴に入らずんば虎兒を得ず)。

He who would catch fish, must not mind getting wet.

「魚を捕へんと欲する者は濡るゝを厭ふべきにあらず」

I would that I were a bird. 「鳥であるならよいけれど」

If I would try,.....「若し、やらうと思へば」

比較:— If I should fail,.....「若し萬一失敗する様な事があつたなら」(多分は失敗すまいと思ふが)。

If you would grant my request,.....

「若し私の願を聞いて下さるならば」

If you should meet him,.....

「若し萬一御會ひになる様な事があつたら」

If you will lend me the money, I shall be much obliged.

「金を貸して下さいますか、それは實に有難い」

If you would lend me the money, I should be much obliged.

「金を貸して下さいますなら、實に有難いことで御座りますか」

have..... 「.....を得」「.....を蒙る」

【例】 He had a scolding. 「御叱言を頂戴した」

His approval = God's approval.

「神の御稱め」即ち「神様に稱めらるゝ事」

(God の代名詞は通常 Capital にて始む)

that of their own consciences.

=the approval of their (= young men's) own consciences. 「己が良心の稱賛」即ち「己が良心に稱めらるゝ事」

【備考】 同名同種類の異物を指す時は通例 (the) one を用ふ。

If you need a dictionary, I'll lend you one (=a dictionary).

「辞書が要るなら貸さう」

This dictionary is better than the one (=the dictionary) I had before.

「此辞書は此前のより良い」

されど若し其次に 'of' 来る時は the one を用ひずして that (or these) を用ふ。

His dress was that of a gentleman, but his manners were those of a clown.

「彼の支度こそ紳士風だけれども舉動は下郎風だ」

Hideyoshi's face was like that of a monkey.

「秀吉の顔は猿の様であつた」

Compare:—

This room is larger than that of your house.

「此室は君の所のより広い」

This room is larger than the one I had before.

「此室は此前のより広い」

avoid..... 「.....を避ける」「.....をせぬ様にする」

【例】 Avoid giving offence. 「人の機嫌を損ぜぬ様にせよ」

not only the outward appearance of falsehood, but the

slightest evasion or deceit.

「外部に表はれたる偽は固よりのこと(よしや外部に表れぬにしろ)極一寸した遁辭又は詐欺でも」

(六十一頁参照)

the slightest 「極かすかな」「ほんの一寸した」最上級の形容詞の前には常に定冠詞来る。

evasion 「遁辭」 deceit 「人を欺くこと」「欺瞞」

when promises have been made

= when you have made promises.

「一旦約束をした上は」

fulfil 「履行する」

【例】 I demanded him to fulfil his promise. 「約束履行を追つた」

the letter the spirit 相對す。

the letter and the spirit of anything.

「文面の意義及び其真意」即ち「文字通りの意味及び其本來の意味」

【備考】 the letter and the spirit of law 「法律の文義及び精神」。例へば「此公園内の樹木折るべからず」との制札ありし時、人ありて然らば竹は樹木にあらざるが故に折りても差支なしと云ひたりとせんか、成程單に文字の上(letter)より云へば竹を折るは差支なきが如くなれど此の如きは所謂立法の主旨(spirit)に背き徒に文字の末に拘泥せる解釋にして其謬論たるや勿論なり、既に此ヘルシヤ王の語に於ても彼の諸官連の王の誓に對する解釋は即文字上(letter)の解釋にして固より其當を得ざるもの、彼の物知人何某の解釋こそ其真意(spirit)を穿てるものと云ふべけれ。

10. (物は何でも始め一寸した處が大事、後になつては何とも致方がないことがあるから、諸君は)眞實より

最初少しでも離るゝのを、少しでも他を欺かうするのを、(それ程まででなく共)實際さうでもないものを、さうだと人に信せささうなどと思ふことなどまでも氣を付けてせぬ様にせねばいけない。(要するに)諸君は「眞實、徹頭徹尾眞實、眞實から外には何にもない」と云ふことを以て諸君が日常座右の銘とするがよい。

【註】 Beware of..... 「を用心する」「氣を付けて... ..せぬ様にしろ」

【例】 Beware of pickpockets. 「掏摸御用心」
Beware of him who flatters to your face.

「面のあたり諂諛を云ふ様な人はよく用心して居れ」

【類句】 I'm careful of, take care of.

the first and slightest departure from truth.

「最初の極一寸眞理を離れる事をも」即ち「一寸した偽をも」

【参考】 He departed from Osaka..... 「大阪を立ち退いて.....」

We can not depart from our rules.

「規則を守らないわけにはゆかない」

The ship took her departure from Koba.

「此船は大阪より出帆したのだ」

of the least....., of the desire——共に始めの beware に係る。

least。 little の最上級

little less least
屑級 比較級 最上級

the least endeavor to deceive. 「他人を少しでも欺かうとすること」

even..... 「(前の二つの事は勿論).....をも」
the desire to..... 「.....したいと思ふ事」

【備考】 上の二つの不定法 (to deceive, to have.....) は共に其前なる名詞 (endeavor, desire) を制限し之と同意の干係 (.....せんと
の.....せんと云ふ) を有す。

I have no desire to be rich.

「別に金持になりたい(と云ふ)望もない」

I made a promise to do so. 「さうせうとの約束をした」

to have others believe.....

「他人に.....を信せさす」

此形も間々ある形故よく會得し置くべし、一般の形式を示せば

to have+(誰)+(何々する—infinitive の to なき形)

「誰に何々さす」「誰に何々せられる」「誰に何々して貰ふ」。

【例】 Do to others as you would have others do to you,

「他人にして貰ひたいと思ふ通り他人にせよ」(己の欲せざる所之
を人に施す勿れ)。

I would rather lose all my fine trees than have you tell one lie.

「おまへに虚言一つ言はれるよりは立派ながらもわしの木皆なく
した方がまし」(木を切るゝもつらいけれど、それよりもおま
へに虚言を言はれるのは尙つらい、あく迄も虚言は言はせたくな
い)。

What would you have me do? 「私に如何させたい御心ですか」

If you will have me stay, I will stay.

「私に居つて行けと仰有るなら居つて行きませう」

I will have him do so. 「彼にさうささう」

Please have some one carry my luggage to the station.

「誰かに停車場迄荷物を持たしてやつて下さい」

what is not so = that which is not so

「さうで無いものを」

かく 'what' は 'that which' に等しき場合多し、

That is what (=that which) I want. 「それが私の要るものだ」

Mind what your teacher tells you. 「先生の云ふ事をよく御従き」

Man can do what man has done.

「人間のした事なら人間に出来るさ」

Let your motto be.....

= Make.....your motto. 「.....を以て諸君座右
の銘とせよ」

the truth = the thing that is true.

the whole truth 「内外表裏共に眞實」「何處までも眞
實」

nothing but..... = only..... 「.....の外ない」「...
.....のみ」

【例】 He has nothing but his salary to live on.

「生計の資としては俸給の外別に何も無い」

She does nothing but cry all day.

「終日泣くより外のことぞなき」

He is nothing but a student. 「一書生に過ぎず」



My Mother's Last Kiss.

母が名残りの接吻

1. 御母さんが亡くなられた時私はたつた五才でしたけれどもその御姿は、二十年経つた今日でも御最後の時と同じくいんまの様に胸に残つて居ります。御母様は何でも色の青白い、ヤッとした笑顔よしの、そして私を御褒めになる時は温和な、元氣のよい御聲の方でした、私が失錯を致しまして（と云ふのは私は亂暴なやりっぱなしの子でしたから、私を御叱りになりますに、何だかシンミリした柔しい御真心の程がその中に表れまして、稚心にもそれは何時もしみ々々と胸に徹へました。

【註】 but = only 「たつた」「ほんの」。

【例】 A man can die *but* once.

「人はたつた一度しか死ねないものだ。」

It is *but* a shower. 「ほんの夕立です。」

her image 「(我記憶に存せる)其御姿」「その面影」
as fresh..... 下の as it was.....に係る即ち全文を補充すれば

her image is as fresh in my mind,.....as it was
(fresh in my mind) at the time of her death.

總じて此の A...as — as B (...) の形は A と B とが——の點に於て其度合の同じきことに用ふる形にて通常「A は B と同じ

様に——である」「A は B の如く——である」「A は B 程——である」「A は B だけ——である」などと譯す。

【例】 He is as diligent as his brother (is diligent).

「彼は兄弟程勉強だ。」

She is as beautiful as her younger sister.

「あの娘は其妹と同じ様に美しい。」

之と同じ語形に so—ns あり、唯 as—as の形は肯定(たまには否定)に用ふれど so—as の形は常に否定にのみ用ひらるゝのみ。

He is *not* so diligent as his brother (is diligent).

「彼は兄弟程勉強でない。」

She is *not* so beautiful as her younger sister.

「あの娘は其妹程美しくない。」

fresh in my mind 「あり々々と我胸に残つて居る。」

【例】 The memory of it is still fresh in our minds.

「其事はまだあり々々と記憶に残つて居る。」

【参考】 He is a man fresh from school.

「彼はまだ學校出のホヤホヤだ。」

now that..... 「.....したる今日も。」

【例】 As I have often amused you by relating stories and adventures while you had the use of your eyes, I can do the same *now* that you are unable to read.

「御まへがまだ目が役に立つ時分にも色々の物語や冒險談をして御前を慰めてやつて居たから御前が(目が見へなくなつて)最早讀書の出来なくなつた今日もやはりさうするに譯はないさ。」

【備考】 'now that.....' の形は上の如く單に時の關係を示すに止まらず「.....したる今となりては」「.....したるからには」と進んで理由を表すこと寧ろ多し。

Now that he is dead, we must find a successor.

「あれが死んだからには後繼者を見附けんけりやならぬ。」

I am very much obliged to you for coming thus far, and *now*

that I see the house, I can dispense with your further escort.

「ここまで御出で下さつたのは實に有難う存じます、もう家が見へますから此上は御同道を御願ひ申さなくとも宜しう御座ります」

twenty years have elapsed 「二十年(の星霜の)経つた」
as it was = as it was fresh in my mind.

「あり々と胸に残つて居た通り」

at the time of her death (御最後の時に) = when she died.

I member her as..... 「御母様を.....として覚えて居る」

a pale, gentle being 「色の悪い柔和な人」

(a being) with a sweet smile 「良い笑顔の人」即ち「笑顔の良い御方」

with..... 「.....を持つたる」など譯すべからず。

【参考】 A man with a flat nose. 「鼻の低い人」

A boy with a bad memory. 「記憶の悪い子」

A man with a frowning face. 「蹙顔の人」

A man with projecting teeth. 「反歯の男」

A man with a tall hat on. 「高帽子を冠つた人」

a voice soft and cheerful 「温和な張のよい聲」

a soft and cheerful voice と云ふべきなれど「.....

したる時は温和な張のよい聲」と。 soft and cheerful

を制限する 'when.....me の句が次に来るを以て之

と連絡を保たしめん爲め故意と後に廻したるなり。

when she praised me 「私が何か良い事をして私を褒

めなさる時は」

when I had erred 「私が失錯をした時」

【備考】 失錯をして叱らるゝには、其失錯は叱らるゝよりは無論前なるべきが故に大過去 (past perfect) を用ひたるなり。

(for I was a mild, thoughtless child)

「それは私は無茶な考のない子でしたから(失錯もしました)」の意。

there was..... 「.....があつた」

There is (or is not)..... 「.....がある(又はない)」(有形無形共に用ふ。

【例】 There is a tree by the gate.

「門の側に木がある」

There was a fire last night. 「昨夜火事があつた」

There is something charming in his manner.

「あの人の様子には何だか惚々するところがある」

a mild and tender earnestness 「温厚な柔和な真心こめた處」

in her reproofs 「御叱りの中にも」

【備考】 憎くて叱るには非ずして心から我子の爲を思ひし故叱る中にも其やさしい心根は見へけるなり。

that = which 上の a (mild and tender) earnestness を受けたる關係代名詞にして下の went の主語なり。

always 「何時でも」「必ず」「(叱られる度毎に)屹度」

went to.....heart. 「心にひしびしとこたへた」「しみ々々と感じた」

【参考】 He spoke with an earnestness that went to the hearts of his audience.

「彼の演説の熱誠には聴衆も感動した」

my little heart 「我が小さき心」「稚心」

2. 考へて見ると何だか今も猶御母様のパツチリした冷
 しい御目が、私の子供心の片意地をば悲まれて涙ぐん
 で居らつしやるのが見へたり、「ぼうや、御前、如何
 してそんなに私につらい思ひをさせるのかえ」と繰り返
 返し々々々々仰有つて居られるのが聞へる様です。御
 母様は、永らく、御顔の色が悪くて身體が弱つて御出
 でした、でも折々は頬の處にポツとした處が出来て、
 御顔付きが大層宜く見へますので、これでは屹度御加
 減が宜いんだと思つたことも御座りました。けれども
 御母様は死ぬることなど仰有つて、私をギツと抱きし
 めて、御母様が亡くなつた後はおとなしくして、御父
 様を大事に叮嚀にしくちやいけないよ；御父様は御
 前より外には誰も可愛がる者が無いからねと仰有いま
 した。

【註】 Methinks = it thinks me = I think 「……の
 様に思はれる」。

Me seems = it seems to me = I think.

Me lists = it seems to me, or it pleases me.

(以上の語は現今にては詩歌以外には餘り用ひず)。

now 「二十年を経た)今(でも)」。

I can see her large, blue eyes moist with sorrow.

= I can see her.....eyes (to be) moist with sorrow.

「そのパツチリした黒目勝の目が悲に霑んで居る
 (=涙ぐんで居る)のが見へます」。

【備考】 large, blue は意譯して「パツチリした、黒目勝」と譯せるなり、
 日本にて「は大きな青い眼」など云へば何だか滑稽じみればなり。

(to be) moist with sorrow. 「悲しさに涙ぐむで居る」。

【参考】 with moistened eyes. 「涙ぐむで」。

‘with’ 原因を示す。

【例】 Our hands were benumbed with cold. 「手は寒さに凍えて居た」。

Our clothes were drenched with rain.

「着物は雨に^ぬシヨ濡れに成つた」。

His lips quivered with rage.

「彼は立腹して唇がブルブル震へて居た」。

The boy cried with pain. 「子供は痛がつて泣いた」。

His eyes sparkled with joy. 「嬉しくて眼はギカギカして居た」。

because of = on account of 「……故」「……の爲
 めに」。

【例】 He could not start because of a storm.

「暴風雨の爲め出發が出来なかつた」。

childish waywardness. 「子供にあり勝ちのかうと一旦

云つたら邪が非でもきかぬこと」「強情」「我慢」。

hear her repeat = (I can) hear her repeat.

「御母様の……と呉々も云ふのを聞く」。

【注意】 總て see, hear, feel 等知覺を表す動詞を授動態 (Active Voice)

に用ひたる時は其次に来る補足語たる infinitive に「通常 ‘to’
 を省く。

即ち see, hear, feel + (some one) + {(to) なき infinitive}

「——が……するのを見る、聞く、感ずる」。

I saw him run (彼が走るのを見た)。

I heard her sing. (彼女が歌ふを聞いた)。

I felt the house shake. (家が揺るれ様な気がした)。

比較:— { We saw him enter the house. (授動態)
 { He was seen to enter the house. (被動態)

{ I heard him say so. (授動態)
He was heard to say so. (被動態)

My child 「ボ-や」「御前ね」など譯せばよし。
how can you grieve me so? (=you can not grieve me so)
(よくもまあ、御まへはそんなに、わしにつらい思
ひをさせるんだね)(御母様が御前のことを如何様に
心配して居るか少し思つて見たら、そんなことは出
來ぬ譯だが)。

She had been.....「之れまで既に.....であつた」
for a long time 「長い間」「久しく」
pale and feeble 「顔色が悪くて衰弱して居る」
and 「でも」 Sometimes 「折々は」「たまには.....
することもある」
would 「.....することがあつた」(過去の習慣を表
す)。(二十頁中程参照)

通常 often, sometimes に伴ふ。
there would come.....「.....が來ることもあつた」
「.....の顯れることもあつた」「.....の出來るこ
ともあつた」

【備考】 'there' は上の如く文の劈頭に來りて自動詞の先驅となること
あり、かかる場合には主格は常に其動詞の後に來り 'there' は單に
之を起すの働あるのみにて別に自己に場所等を表す意味あるに非
ず。

A man came. There came a man. (人がやつて來た)。
An event happened. There happened an event.
(或る事件が起つた)。
A voice came from Heaven. There came a voice from Heaven.

(天より聲あり)。

a bright spot 「ほんのりとした血色のよい (pale の反
對)所」
, which.....

此 (, which) なる關係代名詞の先行詞 (Antecedent) は spot に
もあらず、cheek では尙更なし、何れの語にや。こは which の獨
得の作用にして其先行詞となれるは 'there would come...cheek'
までの句全體なり。譯解に當り此 which の作用を忘れ屢其先行
詞發見に苦しむことあるを以てよくよく會得し置くべし。

【例】 The man danced and sang, which amused the children very
much.

「其男が踊つたり歌つたりしたので子供等は大層面白かつた」

Caesar crossed the Rubicon, which was in effect a declaration of
war.

「シーザはルビカン河を渡つた、此事が即ち事實に於て宣戰をした
こととなつたのだ」

You have paid your debts, which is a clear proof of your
honesty.

「御まへは借金を返した、それが(=その借金を返したことが)即ち
御前の正直なことの明かな證據だ」

.....made her look——「.....が——の様に見えさし
た」「.....の爲めに——の様に見えた」

make, have, let 等「.....せしむる」意味の動詞は常に 'to' なき
infinitive に伴はること尙知覺の動詞の如し。(九十五頁参照)
即ち此場合などの如きも look なる infinitive の前にあるべき
'to' は省かれたるなり、

一般の形は make, let, have, bid, + some one + (to なき infinitive).

{ They made him drink 「彼に(無理に)酒を飲ました」
= He was made to drink.

He made me pay the money. 「僕に其金を拂はした」

He let us use his library.

「彼は僕等に其圖書室を(随意に)使用さした」

I will have some one do it.

「誰かにそれをして貰はふ」(ささう)

Did the man wait. 「其男を待たして置け」

【注意】 which made her look.....などの如く邦語にては他動詞に無生物を主語とすることは稀なり、然るに英語にては生物たり無生物たるに關係なく主語として用ふるを得るを以て翻譯に當りてよく注意せずんば甚滑稽なる珍譯とならむ。

What makes you think so? 「如何して君はさう考へるのか」

Industry has made him rich.

「精出して働いたから金持ちになつた」

The wind shook the house. 「風で家が揺れた」

An hour's walk will take you there. 「一時間歩けば行ける」

The rain prevented me from coming.

「雨が降つて來られなかつた」

従つて本文の 'which made her look.....' も宜しく「——したので.....みた様な風に見へた」など譯すべし。

look..... 「.....の様だ」

so lovely, I thought..... = so lovely that I thought.....

I の前に so に相對する that が省かれたるなり。

此 so——(that) の形は (that) 以下は結果を表す文章故決して舊慣に拘泥するなく「——したので.....

した」と譯すべし。

した」と譯すべし。

The rabbit ran so fast (that) you could not catch it.

「其家兎は大變速く走つたので掴まへようたつてとても掴まへられなかつた」

He was so tired when night came, (that) he was glad to lie down by the side of Meek-eye and go to sleep.

「夜になつて彼は大層疲れていたので喜んでミークアイの側に臥して眠つた」

I thought she must be well.

「屹度御具合が良いに違ひないと思つた」

must (1) 「せねばならぬ」 (2) 「.....に相違ない」

(1) We must save him. 「あの子を救つてやらんけりやならぬ」

He can not be saved; he must die.

「到底助からぬ、死なねばならぬ」

I must have your answer. 「是非共御返事承らんけりやならぬ」

(2) That can not be true; it must be false.

「そんなことがある筈がない、偽に違ひない」

He must have done so. 「あいつさうしたに相違ない」

【備考】 must は過去の形も未來の形もなき故過去及未來には 'have to' の形を以て代用す、されど間接話法の時は must を 'have to' に變ずるの要なし。

(a) He said, "you must go."

= He said (that) I must go.

「彼は私に行かんけりやならぬと云つた」 (必要)

(b) He told me, "You must pay the money."

= He said (that) I must pay the money.

「彼は私に是非共金を拂へと云つた」 (強制)

(c) He said, "I must positively see her."

= He said (that) he must positively see her.

「彼は是非其女に會ひたいと云つた」 (切望)

(d) He said "It must be so."

= He said (that) it must be so.

「彼はそれはそうに違ひないと云つた」 (断定)

本文の如きは (d) に屬す従て去文の動詞は thought と過去の形なれど話法文中の must は依然原形を保つて居るなり。

But then 「私はそんなに思つて居ると、すると」の意。

she spoke of dying. 「(わしは)とてももう癒らぬ)死ぬるなど云つた」。

pressed me to her bosom. 「私を(胸に)グツと抱きしめた」。

told me to be good = ordered me to be good.

「温良して御出で」と申しました。

when she was gone = when she was dead.

「わしが死んだあとは」。

(to be gone には、(a)「居ない」(b)「(此世に)居ない」即ち「死んだ」の意味あり。)

Where is he?—He has gone home.

比較: 「彼は何處に居るの、宅へ歸つた」 (動作)

Is he still here—No, he is gone.

「彼は未だ此處に居るのか、イヤ居ない」 (状態)

かく動詞によりては Perfect Tense 二様あれど其意同じからず、'have' の形は動作の完了に重きを置き 'be' の形は現在の状態に重きを置く、従て 'be' に伴ふ過去分詞は分詞的形容詞と見て可ならん。

Seventeen years have passed since I left home.

「國を出でて十七年(経つた)」。

The time for sowing is passed. 「植附の時期は過ぎた」。

He has drunk too much wine. 「あの男は飲み過ぎた」。

He is drunk. 「あの男は酔つて居る」。

to love..... 「.....を愛せよと(言つた)」上の told に係る。

to be kind to him = told.....to be kind to him.

he would..... 直接話法に直せば he will.....

.....た。

have no one—to love 「可愛がる人がない」。

no one else. 外には誰も.....ない。

'No one' 'something' 'somebody' 等不定代名詞又は 'who?'

'what' 等疑問詞には「外に」の意に 'other' を用ひずして 'else' を用ふ。

Who else has come? No one else has come.

「外に誰か来て居るか、外には誰も来て居ない」。

He needs something else.. What else does he need?

「あれは外に何か要るものがある。「外に何か要るのか」」。

3. あさうだつた、御母様は終日御加減がよくないので、(側で色々騒がしくするといけないから)私が(玩弄品の)小さい木馬や鞭などは外の方へ片付けてしまつたし、従て私も成る丈け静にして居ました。(こんな具合で到頭)御母様に全一日御目にかかりませなんだが、それが何だか大層長い様な氣持がしました。夜になりまして、皆の話には御母様は大層御わるいから之迄寐る前には何時もして下さつた様に、接吻することは出来ないから(今夜は)此儘寐なくちやはいけないつて云ふことでありました。けれど私はどうもさらは出来ませぬ、(それですから)私は御母様の御部屋へそつと参りまして、私の唇をグツと御母様のへあてまして、『御母様、もし御母様、接吻はして下されませぬか』と低聲で申しました。

【註】 I recollect..... 「.....を思ひ出す」「思ひ出せば.....であつた」。

all day (=all day long). 「終日」「一日」。

【例】 Are you tired with studying *all day*?

「君は終日勉強しては疲れはしないのか。」

【類句】 'all the day long' (其日一日) 'as the day is long' 'the whole day' 「まる一日」等。

'all night (long)' 'all night through' 「終夜」 'all the night long (or through)' 「其夜一夜」 'all the year round' 「年中」

hobby horse 「棒の先に馬の首様のものを附けたる小兒の玩弄品」 「木馬」。

lay aside 「片附ける」「使はずに置く」「罷める」。

【注意】 lay (他動) laid laid.

lie (自動) lay lain.

【例】 Lay aside your book; it is bedtime.

「本を片附け給へ、もう寝る時刻だよ。」

He has laid aside spectacles, since his eyes became stronger.

「眼が強くなつて以來は眼鏡はかけなくなつた。」

If he laid aside the habit of drinking wine, his health would improve.

「酒を飲むことをやめたらあれは丈夫になるんだけど。」

I did not see her 「御母様に會はなかつた」(小供が側に居るとやかましき故わざと離隔して其病室に來らしめざりしなり)。

for the whole day = all day. 「全一日(間)」。

【参考】 in the whole school 「全校で」 'in the whole of Tokyo' 「東京中で」。

It seemed very long 「たつた一日會はなかつたのが幾日も會はなかつた様な心持がした」(母に會ひたしとの念切なるを察すべし)。

At night 「夜」「夜になつて」。

Day, morning, evening 等を一般の意味に用ふるには通常 'in' を用ふるも 'night' のみは現今にては 'at' を用ふる方普通なり。是古き用法の残存せるものにして昔は at morning と at evening と云ひ得たるなり、但し時間を示す語のある時は 'at night' にあらずして 'in the night' の形を用ふ。

He arrived there at night. 「夜着いた。」

比較:— He arrived there at 10 o'clock in the night.

「夜の十時に着いた。」

【参考】 'by night' 「夜は」 ('by day' (晝は)に對して用ふ)。

The sun shines by day, the moon by night.

「晝は大陽が輝き夜は月が輝く。」

they told me..... = I was told..... 「.....と云つた。」

they は一定の範圍内の人を漠然と指す、即ち此處にては一家の人などをそれとなく指せるものにて邦語ならば主語なき處を英語にて passive を用ひずして譯さんとする時に主語として用ひらる言葉なり。

They teach English in that school.

比較:— English is taught in that school.

「あの學校では英語を教へた。」

其他此 they の如く不定の主語として用ひらるるものは

'People' 「廣く一般の人」 'somebody' 「人は定まれど知れぬ時」

'one,' 'we,' 'you' 「其働きは之を話す人乃至話し掛けらるゝ人のなすものと見做す時」

What must one (we or you) do on such occasions.

「かう云ふ場合には如何すればよいのか。」

People say that he is mad. 「あれは狂だそうなの。」

Somebody has taken my knife. 「誰か僕のナイフを持つて行つた。」

my mother was too sick to kiss me.....it.

【注意】 間接話法故 tense 又は代名詞などは直接話法に引き直し考ふる方便ならむ。

—was too sick to kiss me

=—was so sick that she could not kiss me.

「餘り加減が悪くて接吻することが出来ない」

かくの如く 'too—to……' の形は通常「餘り—すぎて……が
出来ぬ」など譯すべきものにして世俗の「……すべく餘りに——」
など譯するは因襲の久しきとは云へ全然邦語の常法を無視せる愚
譯と云はざるべからず。

【例】 She is too young to marry

(=She is so young that she can not marry.)

「彼女はまだ年が若くてとても嫁入りは出来ぬ」(幼女に就て云ふ)。

比較:— She is young enough to marry

(=She is so young that she can marry.)

「彼女はまだ年が若いから嫁入りが出来る」(年長けたる女に
云ふ)。

I was too angry to speak. 「餘り腹が立つて物が言へなかつた」

It is blowing too hard to put out in such a small boat.

「かく風が吹いてはとてもこんな小さい船では出られない」

as she always had done = as she always had kissed me.

「従來何時もして(=接吻して)下さつた様に」

かくの如く 'do' には動詞の反覆を防ぐ爲め之れが代りに用ひら
るゝこと猶代名詞の名詞に於ける如き用法あり、注意すべし。

【例】 You love him more than I do (=love him).

「君は僕が彼を愛する)よりも彼を愛する」

Use a book as a bee does (=uses) a flower.

「書物を用ふる事蜂の花に於けるが如くせよ」

Did you go? Yes, I did (=went).

「君は行つたのか、うゝむ、行つた」

before…… 「……する前に」「……せぬ中に」

【例】 He (had) started before I arrived. 「彼は僕の着かぬ中に立つた」

went to bed. 「床に就いた」「寝た」

bed を「寝る」「起きる」の意味を含ませて用ふる時は常に冠詞
を略す。 (十四—十五頁参照)

'in bed' 「床で(寝て)」「get out of bed」 「起床る」

'put to bed' 「寝かす」

I must go = I must go to bed. 「寝なけりやならぬ」
(と云つた)。

亦上の they told me に係る間接語法なり。 (九十九頁参照)

without it = without her kiss. 「御母様に接吻して貰は
ないで」

without…… 「……なしで」 (四十二頁参照)

【例】 He went without his dinner.

「食ふものもなしでやつて居た」

I can not do without a dictionary.

「辭書がなくては事がたならぬ」

I can not get along without you.

「君がなくてはとてもやつて行けぬ」

But I could not = But I could not go without it.

I stole into the room. 「御母様の部屋へこつそりは入
つて行つた」

【例】 He stole out of sight behind the black-board.

「彼は黒板の陰へそつと隠れた」

The fox steals out at night. 「狐は夜になるとこつそり出て来る」

placing my lips close to hers

=when I placed my lips close to her lips.

「私の唇を御母様の口にグツとあてて」「私の唇を御母
様の口にすり附けて」

【参考】 He kept close to his wife all the time.

「彼は始終妻君にク、ツカツテ居た」(すぐ傍に居た)。

The station is *close to* (or *by*) the landing-place.

「停車場は埠頭の直傍にある」。

He is *close on* thirty years of age. 「彼ももう三十に近い」。

It must be *close on* ten o'clock now.

「もう彼は十時近くに違ひない」。

whispered 「私語た」 「低聲で云つた」。

won't you.....

總て邦語にては依頼の時も「.....して下さいませぬか」と否定を用ひ誘引の時も「.....しませぬか」と否定を用ふ、されど英語に於ては依頼の時には通達否定を用ひず、即ち

Will you kindly show me the way?

「どうか道を教へて下さいませぬか」。(依頼)

Won't you (or will you) take a walk with me?

「私と一所に散歩致しませぬか」。(誘引)

従て本文に於ても「私に接吻して下さいませぬか」と依頼の意なるべきを以て 'won't you' と云ふよりも寧ろ 'will you' とある方可ならむ。

4. その唇は非常に冷くなつて居ました、で御母様が手を私の頬へ置き、胸の處へ私の頭を當てなされた時、何だか身體中がズツと致しました。御父様は私をその部屋から連れて行きましたが、何とも言語をよう申しませんでした。寐かされましてからも、私は暫くは床の中で色々と考へて居ました；御母様はもしや本當に死にはしないかしら；頬の處がどうも大變冷かつたが、妹が亡くなつて、其死骸を何處だか二度と見ぬ處へ持つて行つた時も丁度あつた、(などと暫は考へて居ましたが、やがて眠つてしまひました。

put her hand upon..... 「.....へ其手を當てる」。

laid my head on her bosom. 「頭の處を抱きしめたるなり」。

I felt.....pass all through me.

「私は身體中を冷い身慄いが通る心地がしました」即ち「身體中ズンとしました」。

【注意】 pass の前には infinitive の目標なる 'to' が省かれたるなり、こは其前に 'feel' なる知覚を表す動詞あればなり。

(九十五頁参照)

【例】 I felt some one pull me by the sleeve.

「誰か袖を引くものがある様な心地がした」。

I felt the house shake. 「家が揺れる様な氣持がした」。

all through me = throughout me. 「私の(身體)中」。

【例】 His voice rings through the house.

「彼の聲は家中に響き渡る」。

The poison passed through his system. 「毒が全身にまわつた」。

carried me from the room 「部屋から私を連れ出した」。

he could not speak. 「何とも物が言へなかつた」。

母の死が目前に迫れるを以て悲痛の念禁せざりしなり。

they put me in bed = I was put in bed.

「私を寐かした」。(百〇三頁参照)

lay. lie の過去。(百〇二頁参照)

I lay.....thinking. 「考へながら寐て居た」即ち「寐て考へて居た」。

かく Present Participle (此所にては thinking) が自動詞 (此所にては lay) の Complement (補足語) として用ひらるる事はよくあ

る事なり。

【例】 We sat telling stories in the dark.

「暗黒に座つて話しをして居た」
くらがり

He stood gazing at the woman.

「其女をつくづく見て立つて居た」

The boy came running. 「其子は走つて来た」

The carriage went sweeping past me.

「車は私の側をすつて通つた」
そば

She lay crying. 「其娘は寝て泣いて居た」

a long while = for a long while 「暫くは」

I feared my mother would, indeed, die.

「これでは御母様本當に死にはしないかしらと思つた」

I fear I shall fail.

比較: 「僕は落第しやしないかと思ふ」(然あらざるを望む)。

I hope you will pass.

「君は落第するだらうと思ふ」(然あらんを望む)。

indeed 「本當に」「全く」(常々に御母様はわしが死んだらなんとよく仰有つたが之れでは本當に死にはしないか知らと思ひしなり)。

【例】 She is, indeed, beautiful. 「全く別嬪だ」

【参考】 Indeed.....but—「成程.....だが(しかし)——」.....; and indeed—「.....、で亦實際——」

felt cold. (觸つて見ると)冷たかつた」

【類例】 Sugar tastes sweet. 「砂糖は(嘗めて見ると)甘い」

The rose smells sweet. 「薔薇は(嗅いで見ると)香が良い」

as my little sister's did.

= as my little sister's cheek felt cold.

(百〇四頁参照)

they carried her little body away

=her little body was carried away. (百〇七頁参照)

where.....=to the place where

「.....した處へ」

【参考】 Place the book where you found it.

「元あつた處へ置いて下さい」

This is where (=the place where) I was born.

「此れが私の生れた處です」

That is why (=the reason why) I can not go.

「さ—それだから僕は行けない」

it = her little body.

where I never saw it again. (暗に墓場を指せるなり)。

fell asleep. 「寐こむた」「眠つた」

【参考】 'to go to bed' 「寝る」 'to fall asleep' 'go to sleep' 「眠る」
'to be sleeping' 「眠つて居る」 'to fall fast asleep' 「熟睡する」

5. 翌朝、何だか災が身にふりかかる様な、いやな氣持しながら、早速御母様の病室へ参りました。(處が)私の思つた通りでした。御母様の身體は最早堅く、冷くなつて、白い布を蔽うてありました。で私は、まづ、御顔の處をまくつて見ました、が眼は閉ぢて頬は堅く冷くなつて居ました、けれど其御顔には矢張例のやさしい、やさしい微笑をたゝえて居られました、が實際もし、さもなかつたら私の胸はつぶれたんでせう。

【註】 In the morning. 「朝に」「(翌)朝に(なつて)」
rushed to..... 「取るものも取りあへず.....へ行つた」「やにはに.....行つた」

with a strange dread of evil to come upon me.

=fearing lest some evil should befall me.

「何だか災が身に降りかゝつてでも來相な變な恐れを懷きながら」

to come upon 「襲ふ」の意味より轉じて「何か良からぬ事の起り來る」に用ふ。

【参考】 Some disaster or other came upon (or befell) the country every few years.

「數年毎に何かカニカ災難が其國に降つて來た」

It was just as I feared.

「丁度私が思つた通りでありました」「事によつたら御母様は死んで居られはせぬかと思つたが果してそうだつた」との意なり。

【注意】 かゝる場合の it は漠然と其事柄を指す。

It was as I had feared; we were in danger of an attack from the Indians.

「こりや真いか知らと思つたが果せるかな私共は今にも印度人に襲つて來られそうになつて居ました」

just. 「丁度」

【例】 I was just in time.

「丁度間にあつた」

Just like it.

「正しく其通りだ」

He failed just as I (had) expected. 「果してしくぢつた」

straight, cold form. 「死してかたく、冷くなつて居る身體」

【備考】 straight. 死後強直の結果屈折なくなれるなり。

I removed it (=the white linen) from her face.

「私はそれをば其顔の處からのけた」「顔の所をまくつて見た」

【参考】 He was removed from his office. 「彼は免職せられた」

He has removed from there to this place.

「彼は彼處から此處へ引越して來ました」

to close.

'to close the eyes' 「目をつぶる」 'to close the gate' 「門をしめる」 'to shut (or close) the door' 「戸を閉ぢる」

But my mother's dear, dear smile was there (=on her face).

「けれど御母様のいとしい、いとしい笑顔はやはり残つて居ました」

微笑を含むる死顔を云ひしもの、dear, dear と二つ重ねたのは意味を強めたるなり。

or = or else. 「然らずんば」「さなくば」

【参考】 Study hard, or (=if you do not study hard) you will fail.

「精出して勉強せよ、そでないと落第するぞ」

You must obey his orders, or (=if you do not obey his orders) he will be angry.

「御前は彼の人の云ふことをきかぬといけない、そでないと彼の人は怒るよ」

.....my hearts would have broken.

「.....だつたら私の胸ははり裂けたんでしたらうが.....」

【参考】 I thought my heart was broken then.

「其當座は胸も潰れたかと思つた」

She died of a broken heart.

「其女は失望落膽の餘り死んだ」

The conduct of the vicious son broke his father's heart.

「放蕩息子の行爲には父は實に斷腸の思ひがした」

.....would have broken かく條件法を用ひたるは上に
or=*if my mother's dear, dear smile had not been there*
なる過去の事實に反する假定の文含まれ居るを以て
なり、

由て全文の意は

「若し御母様の.....が残つて居なかつたら私の胸は
張り裂けたんだらうが、御母様の.....が残つて居
たから私の胸は張り裂けなんだ、(But as my mother's
dear, dear smile was there, my heart did not break).

猶下の諸文を参考せよ。

- If I were rich, I would go abroad.
「金があるなら洋行するんだけれど」(現在の事實に反する假定)。
- If I had been rich, I would have gone abroad.
「金があつたら洋行したのだけれど」(過去の事實に反する假定)。
- We were delayed on the road, or else we should have arrived sooner.
「吾々は途中で隙取つたんだ、さもなきやもつと早く着くんだったけれど」
- He must have been drunk; otherwise he would not have been killed in that way.
「あの男酔つぱらつて居たに違ひない、さもなくばあゝむざむざ殺されはしなかつたのだらうけれど」

6. (かうなつて見ると)忽にして、御母様が之迄あれ程度
々御意見なされた、色々の一寸した過失共が皆むらむ
らとして胸に浮び出ました。(あゝ實に悪い事をした)
御母様が生きて御出で下さるなら、以後は決して悪
いことは致ませぬと申さうもの、今より後は始終御

言葉をばよく守りませうと申さうもの。御母様が仰
有つたことは何なりと致ませうもの、(さりとて今は
既に亡き人の數に入り給うたからには、いくら悔むで
も詮ないことと悔悟の念、禁せませなんだ)。

【註】 In an instant = soon 「忽ちに」「直ちに」

He will be here in an instant. 「直参ります」

The pain was gone in an instant. 「痛はすぐになつた」

【類句】 'in a moment' 'in a second' 'in a minute' 'in no time'
'in less than no time' 'in a jiffy' 'in a trice.'

all the little faults..... 「.....したる色々の些細な
過失が皆」

【備考】 little 「一寸した」と云へるにて其悔恨の殊に切なるを覚えしむ。
which = the little faults.

so often 「あれ程も度々」即「非常に度々」の意。

reproved— for..... 「.....したとて—を非難す
る」 「.....みたいな事をしてはいけぬと—に意見
する」

'For' は總て賞罰褒貶の意に用ふ。

五十三頁参照)

I reproved him for his carelessness

「僕は彼の不注意を責めた」

The boy was often chidden for his faults.

「此子は悪い事をして度々叱られた」

The teacher praised him for his diligence.

「先生はあれは勉強だと云つて褒めた」

rushed upon my mind. 「むらむらと胸に湧いて來た」

I longed to..... 「.....したいと思つた」 「.....しようもの」

to tell her how good I would always be

=to tell her that I would always be very good.

「今後は何時も行儀よく致しますと御母様に云ふ」

Would は間接語法にして直接語法にすれば 'will' となり一人稱

(I) の意志即茲にては約束を表す。(二十八頁参照)

if she would but stay with me.

「御母様が生きて御出でて下されさへすれば」

but = only 「さへ」

【参考】 If I *only* see him, my mind will be easy.

「會ひさへすれば気がすむ」

I will go if *only* it does not rain.

「雨が降りさへせれば参ります」

If you will *only* lend me the money, it will be well.

「金を貸してさへ下さればそれでよいのです」

how = that

【例】 He told me *how* he was reduced to poverty.

「彼れは貧乏になつたことを僕に話した」

in all time to come. 「今後は何時も」

time to come = future. 「今より後」

.....would be a law to me.

「私に取つては.....は法律である」即ち「私は法律

の如く.....を守る」「私は.....をよく守ります」

【参考】 Your words shall be a *law* to me.

「あなたの御言葉は屹守ります」

I would be all that she had wishd me to be.

「御母様のかくあつてほしいと仰居つたことは皆そ

の通りにしようと思つた」

7. 私は(元來)疝癪な、剛情な子でた; (で、やつともずると疝癪を起して仕方ありませんでしたが此度は)

例の氣質が出ると何時でも何だか、御母様が御存命中によくなすつたとそつくり、^{おたやか}柔和な涙ぐんだ御眼でなつと、私を見つめていらつしやる様な氣持が致しました; それから、そのはやる情を制しよう致しますと、何だか御母様が微笑^{にっこり}なされて私に元氣をつけて下さる様で、嬉しう思ひました。

【註】 *passionate* 「短氣な」「腹を立て易い」 *headstrong*

「片意地な」「剛腹な」

never did this frame of temper come upon me,

= *the frame of temper never came upon me.*

かく副詞が意味を強める爲めに文の劈頭に來りし時は其次に 'do' を用ひ主語は其次に來る事に注意すべし。

【例】 *Never do we feel* (=we never feel) the want of love so keenly as when we leave home for the first time.

「始めて故郷を出た時位愛のないのを切に感ずることはない」

I never learned Sanscrit, *nor do I wish to learn it.*

「僕はサンスクリットは學んだこともないが、又學んで見たいとも思ぬ」

No sooner did he see me than he took to his heels.

「私を見ると彼は逃げ出した」

this frame of temper 「此心組み」「かゝる氣性」疝癪剛情を指す。

come upon me. 「身に起り來る」「起る」(百十頁参照)

never did this frame—, but I seemed to see her.....

= *this frame of temper never came upon me that I did not seem to see her.....*

= this frame of temper *never* came upon me *without* my seeming to see her.....

= *whenever* this frame of temper came upon me, I *was* sure to seem to see her.....

「御母様の.....を見る様な氣持がせずにかゝる心組が生じた事はない」即ち「かゝる氣持になると何時でも屹度御母様の.....を見る様な氣持がした」

【注意】 かく「Bなることをせぜに Aなることをすることはない」即ち「Aなることをすれば屹度 Bなることをする」と云ふ文體は英語にてはよくあることなれば細に咀嚼玩味してよく記憶すべきなり。

次の四文は語氣に多少の強弱こそあれ皆同一の事柄を述べたるものなり。

I *never* see him *but* I think of my brother.

= I *never* see him *that* I *do not* think of my brother.

= I *never* see him *without* thinking of my brother.

= *whenever* I see him, I *am* sure to think of my brother.

「私はあの人に會ふ度毎に屹度死んだ弟の事を思ひ出す」

He can *not* speak English *but* he makes mistakes.

「あの人は英語で話をすると屹度間違をする」

The two boys have *never* met *without* quarreling.

「此子供は喧嘩をせずに出會つたためしがない(まへば屹度喧嘩をする)」

I seemed to see..... = It seemed to me that I saw..... 「.....を見る様に思はれた」

to see her mild, tearful eyes full upon me.

= to see her mild, tearful eyes (to be) full upon me,

「御母様の柔和な涙ぐんだ眼が私を見つめて居るのを見る」^{おだやか}「御母様が柔和な涙ぐんだ眼で私を見つめて

居らつしやるのを見る」

just as..... 「.....と丁度同じ様な風に」「.....とそつくり」

she used to..... 「何時もよく.....なされた」

【例】 I *used* to swim in that river.

「僕は何時もよく其河で水をあびたものだ」

to look = to look at me 「私を御覽になる」

in life 「御存命中に」「生きていらしやる中に」「生前」

strove for..... 「.....せんと努める」

strive strove striven

For 努力の目的物を示し「...を得んとて(for)——する」の意なり。

【例】 We should strive for the truth.

「吾々は真理を得んことを努むべし」

Some toil for money, others for fame.

「金を得むとて勵むもあれば名を得んとて勵むもあり」

Such a glory is worth dying for.

「かゝる光榮を得るなら死んでも死に甲斐がある」

The struggle for existence. 「生存競争」

the mastery over my passions. 「我情に勝つ」ここに
ては「例の痼癢、片意地をじつと押へつける」意なり。

Over 制御の意なり。

I have gained the *mastery over* him.

「私は彼に勝つた」

One should be victorious *over* temptation.

「人は誘惑に打勝たざるべからず」

Our army triumphed *over* the enemy. 「我軍敵に勝ちぬ」

Superiority *over* others 「人に勝る」 control *over* any one 「人を制する」

seemed to..... 「.....する様に思はれる」「.....す

る様な氣持がした」。

to cheer my heart. 「私の氣を勵ます」「私に元氣をつ
けてくれる」。

I was happy. 「嬉しく思つた」。

8. 私の性質は御母様の御最後の刹那よりして既に、ま
るつきり變つてしまつた。その御靈は始終私に付き添
ひ給うて、善は之を助け悪は之を除き給ふ様に思はれ
ました。私の悪い事をするのを御見せ申しては何だか、
その溫和い御靈へ歎きをかける様な氣が致しまして、
そんな事は出来もしないし、(また)したくも御座りま
せんでした。

【註】 My whole character 「私の性質は全然」
underwent a change = changed 「變化を受けた」「變
つた」。

even from the moment of her death.

「後とも云はず御最後の時よりして既に」。

spirit 「靈魂」。

to be always with me. 「何時も私の身に添うて居る」。

to aid the good. 「善は之を助けて益々發達せしむる」。

【注意】 The + 形容詞 = 抽象名詞なることあり。

The true = truth 「眞」 the good = goodness 「善」 the beautiful
= beauty 「美」 the evil = evilness 「惡」。

root out 「根絶する」。

【例】 The farmer has great difficulty in *rooting out* the thistles from
his fields.

「百姓は其畑から薊をひいて除けるに中々骨が折れる」。

Root out such a bad habit. 「そんな悪い習慣は止め給へ」。

that was in me = that was in the nature of. 「私(の性
質中)にある」。

【参考】 He has in him the making of a great man.

「彼は將來偉人となるべき性質を備へて居る」。

He has something of the clown in him.

「彼には何となく田舎漢じみに處がある」。

I felt..... 「.....と云ふ様な心持がした」

it would grieve her gentle spirit to.....

「.....するのはその御やさしい靈魂に悲しい思ひ
をさせるだらう」「.....してはその溫和い御靈魂が
御歎きなさるだらう」。

It grieves me to hear of your failure.

【参考】 *I grieve to hear of your failure.*

「君の失敗したのを聞いて僕は悲しく思ふ」。

It rejoices me to hear of your success.

I rejoice to hear of your success.

「君の成功したのを聞いて僕は嬉しく思ふ」。

to see me err = to see me do wrong 「私の過失をする
のを御覽になる」。

【参考】 I saw him run. 「僕は彼の走るのを見た」。

(百七頁七行目参照)

I could not, would not, do so

= I could not (do so), would not do so

= I was neither able to do so nor wished to do so.

「私はさうすることは出来もしないし、また、した
くもなかつた」。

【参考】 You could do so, if you would.

「君はさうしようと思へば出来るのに」。

I would do so, if I could.

「僕は出来るならさうすのだけれど」

do so = err 「あやまちをする」「悪い事をする」

9. 私は御母様の秘藏子でした。私のことをば實に涙を流して神様に頼みなされたものです、ですから今はの際に臨まれても矢張、私の行末の事が氣に掛り、ならうことなら今一度、この子の幸を祈つてやりたいとて、その爲めに暫しは安堵にもようつかれませんでした。私は御母様の名残の接吻は忘るゝ隙とては御座りませぬ。悲しい時にも思ひ出しますし；不幸な時にも思ひ出しますし；身につき添うて永久に幸福を與ふるもの様であります。

【註】 the child of her affection = her favorite son.

「母の秘藏子」

she had..... 「之迄.....した」

prayed and wept over me. 「私の身の上を神様に祈つて泣いた」「涙を流して私の爲めに神様に頼むだ」

【参考】 He is past praying for.

「彼は神様に頼むでももうとても癒らぬ」

I shall pray for your speedy restoration to health.

「僕は君の一日も早く全快せんことを祈る」

【参考】 Samurai's wife as she was, she did not weep much at the news of her husband.

「流石は武士の妻、夫の討死の報に接しても餘り泣かなんだ」

She did not weep much over his death.

=She did not weep much for him.

「その女は彼の死をも餘り歎かなかつた」

He wept over the dissipation of his eldest son.

「其の總領の放蕩を歎いた」

It is no use crying over spilt milk.

「返らぬことは悔まぬもの」

and that..... = and (I knew) that.....

on the threshold of..... 「.....の入口で」「.....の際に至つて」

【例】 Russia suffered a defeat at the very threshold of the war.

「露西亞は戦争のそもそもの始まりに於て既に敗けた」

the grave = death 「死」

The + 普通名詞 = 抽象名詞なることあり、

The pen = literary power. 「文學の力」

The sword = military power. 「武力」

The cradle = infancy. 「幼時」

The plough = agriculture 「農業」 the head = intellectual power

「習力」 the heart = the affections 「情緒」

The father = one's fatherly feelings 「父たるの情」

The mother = one's motherly feelings. 「母たるの情」

【参考】 She was desirous of seeing her father at the threshold of the grave.

「今の際に至るまで唯父様に會ひたいと」

her anxiety for my welfare. 「私の身の上を氣遣ふ事」

【参考】 He expressed his anxiety for her safety.

「彼は娘の安危を氣遣はしう思つて居ると云つた」

You know how anxious I am for your welfare.

「僕はどの位君の身の上を案じて居るか君は知つて居るだらう」

.....caused —— to ——

「.....が —— をしで —— せしめた」

「.....したので —— が —— した」

由て本文は「私の身の上を氣遣つたので其靈魂が暫し此世をよう去らなかつた」の意。

【参考】 The sun's heat caused water to evaporate.

「太陽の熱の爲め水は蒸發する」。

The rain caused the river to rise.

「雨が降つたので河の水が増した」。

(caused) her spirit to linger. 「靈魂を暫躊躇せしめた」

「宙宇に迷ふ様にする」即ち「暫く安堵によう就かぬ」。

that she might pray..... = in order that she might

pray..... 「.....を祈らん爲めに」。

凡て (in order) that—^{may} might.....の形は目的を表し「——が.....せん爲めに」の意なり。

【参考】 Man does not live that he may eat, but eats that he may live.

「人は食ふ爲めに生きるんぢやない、生きる爲めに食ふんだ」。

He works hard in order to maintain his family.

比較:

「彼は其家族を養ふ爲めに精出して働くのだ」。

He works hard that his family may live in comfort.

「彼は其家族が安氣に暮せる爲めに精出して働くのだ」。

once more 「も一度」。

【注意】 邦語と言葉の順序を異にするに注意せよ。

one more 「も一つ」 two more 「も二つ」。

{ a few more (數) 「も少し」 { many more (數) 「また澤山」
a little more (量) { much more (量)

I should like to see him *once more*.

「も一度御目にわかりたり御座ります」。

pray.....for me 「私に祈つて下さる」。

it (=her spirit) was with me 「私の身に添ふ」 「何時

も思ひ出す」。

in sorrow 「悲しい時も」 in joy 「楽しい時も」。

【参考】 He was my companion in joy and in sorrow.

「彼は僕と苦樂を共にした男だ」。

Be temperate in prosperity and cheerful in adversity.

「順境にあつては用を節し逆境にあつては氣を強くせよ」。

in moments of evil 「不幸の際にも」。

【参考】 'at odd moments' 「ぼつりぼつり」 'in an unguarded moments'

「思はず」 'for a moment' 「一寸の間」 'in a moment' 「直に」

'at that very moment.' 「折しも」。

like—— 「——の様に」 「まるで——の様だ」。

a perpetual good 「何時までも變らぬ良き物」 「常に幸福を與ふるもの」。



Faithfulness in Little Things.

小事に忠なること

1. 『ハリス様は御在宅ですか』と年は十二か十三か位の、素樸なが、しかし小奇麗な服装の男子が、さる本屋の品臺の傍に立つて、手代に問うた。手代はその男子をば高慢な顔付をして見て居たが、から答へた：『ハリス様は御在宅だ；だが今は御用事中だよ』。

【註】 Is Mr. Harris in? 「ハリス様は御在宅ですか」。

比較：— { in = in the house = at home 「在宅」
out = out of the house = not at home 「不在」

Is Mr. A. in? He is out. 「A 様御在宅ですか？ 不在です」

inquired 最後の of a clerk に係り「手代に訊いた」の意。

【参考】 I inquired of him about the matter.

「僕は其事に就いて彼に訊いた」

A stranger inquired for the way to Ueno.

「見知らぬ人が上野へ行く道を探れた」

Some one came here inquiring for you to-day.

「誰か君を訪れて来た」

No one inquired into the cause of the sudden death of the old woman.

「誰も老婆の變死の原因を詮議する者がなかつた」

I inquired after his health. 「僕は其男の安否を聞いた」

I thought it strange and inquired the reason.

「私は變だと思つて其理由を訊いた」

plainly 「質素にして飾なきこと」「ザミナ」 neatly

「こさつぱりとした」「垢のぬけた」

dressed 「……なる服装の」

a plainly, but neatly dressed boy = a boy (who was) dressed plainly, but neatly.

【例】 How shabbily dressed he is!

「何といふムサクロしい服装だ」

twelve or thirteen years of age = twelve or thirteen years old. 「十二三才」

as…… 「……しながら」「……した(と同)時に」

【例】 Just as I left the room, he came in.

「丁度私が室を出る時にその人がはいつて来た」

he = the boy.

stood by = stood by the side of…… 「……の傍に立つ」

【参考】 He came and sat by me. 「彼は来て私の傍へ座つた」

The cottage stands by (the side of) the river.

「其小屋は河の傍にある」

clerk. 亞米利加にては通常「商店の手代」の意。

counter (1) 「店頭にありて商品を顧客に示し又は金錢受渡に用ふる臺」即ち「品臺」(2) 「帳場」

regarded the boy with a haughty look. 横柄な顔つきをして其子供をザット見て居た

【参考】 He regarded me with an unfavorable eye.

「いやな目つきをして私を視て居た」

He regarded me angrily. 「その男は怒つて私を視た」

is engaged 「用事をして居る」「忙しい」

【例】 Are you engaged now? No, I am not particularly engaged?

「あなたは何か御用事中ですか？ イエ、格別用事をして居りは致し

ませぬ」。

【参考】 He is engaged in commerce. 「彼は商賣を始めた」。

2. 男子は(手代の餘りの權幕に辟易して)しばし言葉も出ず、ちつと手代を視て居たが、やゝあつて『格役の御用事をなすつて居らつしやらないなら、お目にかかりたいものですが』と云つた。

(すると)『何か取引する用向があるなら、(何もハリス様を煩すまでもない)私がませぬ。ハリス様は御前さんみたいな子供に累つて居られませぬよ』と手代の返答。

【註】 looked at..... 「.....を見て居た」。

hesitatingly 「躊躇して」手代の權幕の烈しかりしより云はんと欲せしこと暫は口に出ず躊躇せしなり。

and then 「暫く躊躇してからやつと」。

If he is not particularly engaged. 「格別の御用事をし居らつしやらなければ」。

I would like to..... 「.....したいものですが」。

【備考】 かゝる時は would を用ふるよりも寧ろ should を用ふる方宜し。 I should like to..... (if I might) は「(御構ひなくば).....したいものですが、それとも御都合如何で御座りませう」との意にて單に I want, I wish など云ふよりは叮嚀にして通常自己の希望を述べるときに用ふる形なり。

【参考】 Will you take a glass of wine?—I should like beer better.

「酒は一盃如何ですが、ビールの方が宜しう御座ります」。

I should like to go there once more (if I could).

「(ならば)も一度行き度いものだ」。

比較:— { I should like some tea. 「茶が欲しい」
I like tea. 「茶が好きだ」

have any business to transact. 「何か取引する用事がある」。

【参考】 Have you anything to do. No, I have nothing to do. 「何かする事があるか? 何もする事はない」。

I can attend to it. 「何にもハリスさんを煩はさずとも私が致します」。

【参考】 Attend to what I say. 「私の言ふことよく御聞き」。

I'll attend to the matter at once.

「早速其事に取掛りませう」。

I'll attend to it in a minute. 「直に致します」。

can not be..... 「.....して居る譯にはゆかぬ」「.....しては居られない」。

troubled with..... 「.....に面倒をかけられる」「.....に累ふ」。

【例】 He is troubled with a toothache. 「彼は齒が痛んで困つて居る」。

I cannot be troubled with such a trifle thing.

「僕はそんなつまらぬ事には累つて居られぬ」。

Don't trouble yourself about it. 「御心配なさらぬ」「構ひませぬ」。

boys like you 「御前さんみたいな子供」。

3. モーリさん、如何したんです、あの子は何用があるつて云ふんです』と、さも機嫌のよい顔付きの人が、手代の所へ来て云ふ。

『(實は)汝は御用事中だと申しましたけれど、是非汝に御目にかゝりたいと申してききませぬ』と、主人の態度にちときまり悪く思つて、手代は答へた。

【註】 “What is this?” 「一體如何したのです」。

pleasant-looking. 「顔付きのよい」「人の善さ相な」。

stepping up to..... 「.....の傍へ近寄つて来て」 Up
は近づく意を含む。

“What does the boy want?” 「此子は何の用事がある
のですか」

【参考】 I asked what he wanted. 「僕は彼に何用があるかと訊いた」
insists on..... 「.....したいと云つてきかぬ」「是非
.....したいと云ふ」

【例】 I insist upon hearing (=I must hear) your reason.

「是非共理由を承りたい」

He insisted upon my accompanying him

「あれは僕に是非一所に行けと云つてきかなかつた」

I insisted upon knowing the reason.

「是非理由を言へと云つた」

比較:

But he persisted in denying his knowledge.

「けれども彼はあくまでも知らぬと言つて云はなかつた」

I told him you were engaged 「あなたは御用事をして
いらつしやると云つた」

【参考】 I said that I did not know him.

「僕は其男をば知らぬと云つた」

I thought it would rain. 「雨が降るだらうと思つた」

returned = answered.

a little 「少し」

【例】 He was a little perplexed. 「彼は少しく當惑の體であつた」

abashed 「きまりが悪い」

【参考】 He was abashed by the look of his teacher.

「彼はその教師の顔を見るときまりが悪かつた」

We are apt to be abashed in the presence of our teachers.

「先生の前へ出ると兎角きまりの悪いものだ」

I am heartily abashed at my lack of learning.

「僕は實に身の淺學を恥ぢて居る」

Your kindness quite abashes me.

「御深切の段誠に恐れ入りすます」

manner 「仕方」「態度」

employer 「庸主」「主人」「旦那」

【参考】 employ(e) 「雇はれた人」「雇入」

4. 『では、御前さん、何の用で私に會ひたいと言ふので
す』とハリス氏は親切に尋ねた。

子供は見上げた、(處が)手代がさも輕蔑した様な風で
チラッと自分を見たので、こはぢはながら云つた:「私
は三ヶ月許り前に、此處で買つた本の勘定書を調べて
戴きたい。(實は)其中に間違がありまするんで、それ
を直したいのであります」

【註】 And 「して」「では」

What.....about? 「何事に就て」「何用で」

【参考】 I will go and see him about the matter.

「其事に就いてあの人に會ひに行つて來う」

my lad 「御前さん」など譯せばよし。

raised his eyes. 今迄伏目勝なりしが此親切の言葉を聞

き「目をあげた」るなり。

meeting..... = as he met..... 「.....に立會つたので」

「.....したので」

scornful glance of the clerk 手代がさも侮るが如く一

寸と其子を見たるなり。

timidly 「おづおづと」「こはぢはながら」

I wish you to..... 「.....して貰ひたい」

I wish you to begin at once. 「早速始めて戴きたい」

比較:— { I wish you to come. 「来て戴き度い」
I beg you will come. 「御出でなごふ」
I wish you would come. 「御出でなされて下されませ」

to look at 「見る」

【参考】 look on 「見做す」 look for 「探す」 look after 「氣を附ける」

the bill 「勘定書」 here = at your store.

about 「約」「……計り」

three months since = three months ago. 「三ヶ月前」

(三十五頁照參)

【例】 He died a few days ago (or since).

「彼は二三日前に死んだ」

There is a mistake in it (=the will) 「その中に間違

があります」

which, the mistake に係る。

I wish to correct. 「直したら御座ります」

【参考】 Correct the mistakes in the sentence, if you please.

「此文中の間違を直して下さい」

5. 「あー、これ、わかつた、御前さん大方拂ひ過ぎを

したんでせう』とハリス氏が答へると、

『いへ、どうして、買った本の中に勘定書に戴つて
ないのがあります、ですからそれを御拂ひに出まし
た』との子供の言葉。

【註】 I see 「わかつた」

【参考】 Do you see. 「わかりましたか」 Yes, I see. 「分りました」

You see? Just as I told you.

「そーら！私の言つた通りだろ」

overpaid. 「拂ひ過ぎる」

over— 「——し過ぎる」

【参考】 overeat 「働き過ぎる」 overeat, oversleep, overwork oneself 「食ひ
過ぎる、寝過ぎる、勉強し過ぎる」 overgrow 「成長し過ぎる」

I suppose 「……でせう」「……だらう」

(二十三頁照參)

On the contrary 「それとは反對に」「……し處では
ない」

【例】 I do not admire that man; on the contrary (=far from admiring
him) I have a great contempt for him.

「僕はあの男を賞める處ではない大いに輕蔑して居る」

I am not older than him, but on the contrary he is older than I.

「私が彼より年上ではなくて却つて彼が私より年上だ」

比較:— { on the contrary 「それに反して」
to the contrary 「そでないと言ふ事」

I thought you were satisfied, as you said nothing to the contrary.

「僕は君は満足したものだと思つた、君は別にさうでないとは云は
なかつたのだから」

Is he honest? or do you happen to know anything to the contrary?

「あの男は正直なのか、それとも君は何かそでないと言ふことを聞
いて居るか」

I purchased some books which are not……

「……してない本を買つた」即ち「私の買つた本
の中に……してないのがある」

charge 「代を請求する」「拂はす」「(勘定書に)載せる」

【例】 How much did the kuruma charge you? He charged me 15
sen.

「車屋は何程呉れと云ひましたか、十五錢呉れと云ひました」

Charge the amount to my account.

「其の勘定は僕のに附けて呉れ」

I bought a knife which is *not charged* in this bill.

「ナイフを一つ附け落してあるよ」

You have *overcharged* me in the bill.

「附け掛けをしてある」

called = called upon you 「御訪ね申した」「來ました」

pay for..... = 「.....の代價を拂ふ」

‘For’ は代價を表す。

【参考】 I sold the horse *for* 100 *yen*.

「僕はその馬を百圓に賣つた」

What did you buy your new bicycle *for*?

「君は今度の自轉車は何程に買つたか」

I gave 150 *yen* *for* it.

「百五十圓出した」

6. ハリス氏は此子供をばしばし、つくづくと見ていたが、やゝあつて『(では)御前さん何時此間違が見付かつたんです』と訊いた。

(すると)『宅へ歸り着いてから始めて気がついたんです、その書物の代を拂ひました時は、若しや船に乗り遅れはしまいかと思つて、大層周章あはてて居りましたので、勘定書もつい調べて見なかつたのです』と少年は答へた。

【註】 earnestly 「熱心に」「つくづくと」

for a moment. 「しばしは」

and then 「(暫らくして)それから」

Not until I reached home

= (it was) not until I reached home (that I discovered that mistake.)

「その間違に気が付いたのは宅へ歸り着いた迄でない」
即ち「宅へ歸り着いて始めてその間違に気が付いた」

【注意】 凡て not till (or until) は「.....したまででない」等譯さんは拙の極にて宜しく「.....して始めて」と翻すべし。

【参考】 It was *not till* I saw him that I learned the truth.

「彼に會つて始めて事の真相が分つた」

People do *not* know the blessing of health *till* they lose it.

「人は健康を失つて始めて健康の貴きを知る」

It is *not until* you have a child of your own that you can fully appreciate the love of your parents.

「子を持つて知る親の恩」

reached home 「自宅に歸り着く」

in a hurry 「周章あはてて」

比較:— in haste 「急いで」

【参考】 He is *not in a hurry to* pay the money.

「彼は中々金を返し相にもない」

fearing..... 「.....しやしまいかと思つて」

the boat would.....reach it.

「私がそれ(船)に着くよりうちに船が出はしまいかと」即ち「若しや船に乗り遅れはしまいかと」

examine 「調べる」故に人の學力を調べることを examination (試験) と云ふなり。

7. 『(それでは)何故もつと早く來て、間違を直さなかつたんです』と(ハリス)氏は、稍改まつた調子で訊いた。『それはかうした理由わけであります、私は此町から少し

隔つた所に住んで居まするんで、今迄來る事が出来なかつたんです。』

【註】 before 「前に」「もつと早く」

rectify 「誤謬を直す」

the gentleman = Mr. Harris.

in a tone slightly altered. 「少しく變つた調子で」「少

しく口調を變へて(鋭く)」

【備考】 果して此子が云ふが如くればよし其時は歸り來り得ざりしにせよ、今迄と延び々々置くわけはなからむにかく長き月日のたちし今始めて來て事情を告ぐるとはちと訝しきことに思ひなればかく少しく語調を變へて鋭く切り込むなり。

Because 上の why.....と理由を尋ねられたるに對し其理由を述べたるなり。即 I did not return before, and rectify the mistake, because.....の意。

some distance = at some distance. 「少し隔つた處に」 (三十八頁参照)

【参考】 The boat was some distance from the boys.

「船は子供の所から少し距つた所に有つた」

There is a temple at some distance from here.

「此所から少し許り行つた所に寺がある」

have not been able to..... 「(今迄).....することが出来なかつた」

現在 { I can do = I am able to do.

{ I can not do = I am not able to do.

過去 { I could do = I was able to do.

{ I could not do = I was not able to do.

未來 { I shall be able to do.

{ I shall not be able to do.

現在完了 { He has not been able to do so.
「彼は(今迄)そうすることが出来なかつた」
He can not have done so.
彼はそうした筈がない」

8. そこでハリス氏の云はれるには、「ア一坊ちやん(唯今の)御前さんの御咄しで、私は大變に愉快に感じます。私もかうやつて長い間商賣をやつて居りますけれど、未だ嘗てこんな場合に出くはしたことはありません。御前さん天晴な行爲をなすつたものだ。コリヤ御褒美を上げなきやなりませぬ」

「私は別に御褒美を戴く考ぢやありません。私は單に自分の義務を盡したたげのことで——唯自分の爲すべきことを爲したと申すだけのことで、さう思ふ心持のみで澤山で、何も(別に)御褒美を頂戴する譯は御座りませぬ」と少年の返答。

【註】 My dear boy. 親しむで云へる言葉にてゆめ「私の親愛なる子供よ」などの珍譯を附すべからず。6に於てはハリス氏も多少、此少年の心情を忪りしも今や其疑の雲も晴れしを以てかへは親しげに云ひしなり。

You have given me great pleasure.

「御前さんは私に非常なる愉快を與へた」即ち「今の御前さんの咄しで私は非常に愉快に感じます」

In a long life of mercantile business. 「商業の長い生涯に於て」即ち「(私も)長らく商賣をして居るが」

總じて In—life の形は打消の文中にありて「—の間に.....したことがない」の意となること多し、尙下例を参照せよ。

I never saw such a man in my life.

「私は生れてからまだ斯んな人を見たことがない」

I never saw his like in all my born days.

「僕はまだ臍緒切つて以來あ—云ふ人物を見たことがない」

I have never.....「.....したことがない」

met with——「——に出くはした」

met は meet の過去分詞、meet met met.

比較:— { I met him in the street. (町で會つた)
I met with him there. (思ひかけなく其處で會つた)。

an instance of this kind = such an instance.

「かかる事例」「かかる場合」

before. 「これまで」

【参考】 Have you ever seen him before? No, I have never seen him before.

「君はこれまでに彼の人に會つたことがあつたのが、いやこれまで會つたことはなかつた」

acted nobly 「實に立派な行爲をした」と力を入れて云ひたる故かく Italics にて書けるなり。

deserve —— 「——を受ける價值がある」「——を受けて然るべきだ」

【参考】 You deserve a reward. 「あなたは褒美を貰うて然るべきだ」
You deserve punishment. 「彼は罰を受けて然るべきだ」

I do not deserve it. 「それは私には過分に存じます」

I have done nothing but my duty.

= I have done only my duty.

「私は單に自分の義務を盡したと云ふに過ぎませぬ」

【参考】 He is nothing but (=only) a student.

「彼は一書生に過ぎず」

She does nothing but cry all day.

「終日泣くより外の事ぞなき」

I have no friend but you.

「僕は君より外には朋友はないんだ」

a simple act of justice 「單に自分の爲すべきことを爲した」

that 上の a simple act of justice の代名詞。

deserves no reward, but itself.

「それ自身〔即ち爲すべきことを爲した(と云ふ心持)]の外別に褒美を貰ふ譯はない」

一體人は己の爲すべきことを爲したる時には心中に愉快を感じ然らざる時には不愉快を感じ、この快感こそ云はば其行爲に對する一種無形の褒美とも云ふことを得べけれ。されば英語の諺にも Virtue is its own reward. 「徳行は徳行そのものが既に褒美である」と云ふことがある。

9. 「失禮ですが、(一體)誰方がお前さんにそんな立派な主義を教へて呉れましたか」とハリス氏が訊いた。

「阿母さんが」と少年はワツと泣き出して、答へた。

May I ask 「失禮ですが」「甚失禮な御尋ねですが」

What part of the country do you come from, may I ask?

「失禮ですが御國は何處でいらしゃいますか」

【参考】 Excuse me, Sir, but what is your name?

「失禮ながら御名前は誰方様で居らつしゃいますか」

My mother = my mother has taught it to me.

bursting into..... 「急に.....し始める」こと。

【参考】 burst into flame 「ホツと燃え立つ」 burst into laughter 「ドツと笑ふ」 burst into tears 「ワツと計りに泣き出だす」

tears 複数の形にて用ふること多し。

shed tears 「涙を流す」 in tears 「涙にひちて」

tear 「涙」 tear 「裂く」 (働詞)。

10. 『嗚呼さてさて幸福な^{しあはせ}ことだ、かかる(立派な)母親を持つて居る子は、そして又幸福な^{しあはせ}ことだ、かかる(立派な)子の母親は。アーコレ坊ちやんや、御前さんよく、阿母さんの御教訓を御守り、さすれば御前さんは(屹度)阿母さんが老後の杖となりませうよ』とハリス氏が云つた。

すると右の少年の云ひますに『アー、申し、その阿母様は亡くなりました。私のこれ迄に疾くに来ることを得なかつたも全く(それ故で)阿母様の御病氣引き續いて亡くなられたからであります』。

【註】 Blessed (Blēs'ēt) 「神に恵まれたる」「幸福なる」^{さいはひ}

Blessed is the child who has.....

= The child is blessed who has.....

邦語にても「奇麗なこと、あの花の」と云へば單に「あの花の奇麗なこと」云ふよりは「奇麗なこと」と云ふ言葉に力入るなり、英語にても之と同じく殊更に或る特別の語を文の冒頭に出せば自ら其語に力加はるなり、されば此處にては Blessed is.....とBlessedを先にして「幸福なる哉.....は」とBlessedに力を入れたるなり、尙新約聖書馬太傳第五章 (Lt. Matthew V: 3-1) に此用例數多あり。

Blessed are the poor in spirit: for theirs is the kingdom of heaven.

Blessed are they that mourn: for they shall be comforted.

(Matthew. V. 3-4)

Be faithful to..... 「.....に忠實なれ」「.....をよ

く守れ」。

One should be faithful to one's promise.

「約束はよく守るべきものだ」。

teachings 「教えた事」「教訓」。

and = and then 凡て命令文の後の and は and then

「さすれば」の意なり。

比較: — Work hard, and you will pass (=If you work hard.....)
「精出して勉強なさい、さすれば屹度及第します」。
Work hard, or you will fail. (=If you do not work hard,....)
「精出して勉強なさい、そでないと落第します」。

the staff of her declining years. 丁度邦語の「老後の杖」

に當る。

【参考】 She was the prop and staff of her parent's declining years.

「娘はその両親が老後の杖柱とも頼むて居たものであつた」。

【注意】 staff=複數二種あり。staves (杖) staffs (參謀)。「decline」は傾く義にて「declining years」は邦語の所謂「頹傾く」「頹齡」に當る。

Alas. 悲哀の情を表す間投詞。

It was her sickness and death which prevented.....

凡て It was—that (又は which)..... の形は「.....したものは——だ」と——部の言葉を強むる語法なり。猶下の諸例を參考して其用法を會得せられよ。

比較: — He broke the window yesterday. 「彼は昨日窓を毀した」。
It was he that broke the window yesterday.
「昨日窓を毀したものは彼だ」。
It was the window that he broke yesterday.
「彼が昨日毀したのは窓だ」。
It was yesterday that he broke the window.
「彼が窓を毀したのは昨日だ」。

—prevented Δ from.....「—の爲めΔが.....
することが出来なかつた」「—したのでΔすること
が出来なかつた」。

【参考】 *The rain prevented me from starting.*

「雨が降つたので立てなかつた」。

Business kept me from coming.

「要事があつて来られなかつた」。

11. 「して御前さんの名前は何と云ひます」とハリス氏
が尋ねる。

「エドワード、ディロン」。

「御父さんは御存命かね」。

「イーエ、御父様は私が幼い時に亡くなりました」。

【註】 *Have you a father living? = Is your father living?*
'Living' なる Present Participle は 'have' と云ふ
語の Complement なり、ゆゑ「生きて居る父を持つ
か」など譯すべからず。

Is there any girl student lodging in the house?

【参考】 *Have you any girl student lodging in the house?*

「御宅には女學生が下宿して居ますか」。

died 「死にました」。

【注意】 生死を訊かれし時には動詞 'die' を用ひず、'dead' を用ふ、之
に反して死したる時、場所、原因等を述ぶに時には 'die' を用ふ。

Is he living? No, he is dead.

(“He died” とか “He has died” と云ふべからず)。

He died of consumption—in Tokyo—last year.

12. 「何處に御住ひかね」。

「リンウッド町です、此市から五十哩計りの」。

「ハハア、—では勘定書に漏れてた書籍は何ですか」。

「タシタスとラティン語の辭書とです」。

【註】 *Where do you reside? = Where do you live?*

Well. 「ハハア」「フウ—成程」。

*the books which were forgotten. 「勘定書に脱してあ
つた本」。*

*Tacitus. 希臘の Herodotus と併び稱せらるる羅馬の
大歴史家なり。*

13. 「ドレ、勘定書を御見せ。ハハア! エイ、シハ、モー
レイと署名してありますね。ひとつ調べて見ませう。
アー、コレ、コレ、モーレイさん」とハリス氏が呼びま
した; ところが番頭さん店の向ふの方で、お叩頭をす
るやら愛嬌笑ひするやら、大變叮嚀に御客の接待方を
やつて居ました。

【註】 *Let me see.*

此句には二つ用法がある、

第一は此處に用ひてある如く「見せて御呉れ」の意。

Let me see your knife. 「ドレドレ君のナイフを見せ給へ」。

第二は「まよ—」「はてナ」「え—ツと」「こ—ツと」等と暫し言葉
を躊躇する時に用ふ。

Let me see—what did he say then?

「え—ツと、それから何とか云つたんだつたかな」。

*signed by..... = It is signed by..... 「.....が署
名してある」。*

*I will see to that = I will examine that 「調べて見ま
せう」。*

凡そ see, hear, learn 等の働詞は皆見る、聞く、知ると本来知覚を表すもの即ち自己の意志にて自由に左右し能はざる作用を表すものなれば其助働詞は一人稱にありては shall なるべき筈なり、故を以て若し之等の働詞が一人稱にありてしかも will と共に用ひられ居らば最早知覚の働詞にあらずして何等の意識的働作を表すものとなりたるものと知るべし。尙以下の諸例を参考せよ。

I shall never see him again.

(僕は彼には最早二度とあはれない)。

I will never see him again.

(僕は彼には最早二度とあはない)。

I will see to (=attend to) it. 「詮議致しませう」。

I will see that he does it. 「彼にさうさすように致しませう」。

I will see you avenged. 「屹度貴君の仇を御打たせ申します」。

I shall hear from him before long.

「いつれ其中何とか音信が有らせう」。

I will not hear such excuses.

「そんな新解は聞く耳持たぬ」。

We shall learn the truth in a few days.

「兩三日すれば實否が分かる」。

We will learn the truth at once,

「早速行て實否を聞かう」。

Here. 「オイ」「コレコレ」「モシ」。

was engaged in..... 「.....をやつて居た」。

(百二十五—百二十六頁参照)

waiting on——「——を接待する」。

She was waited on by many maids.

「侍女數多に册かれ」。

The landlady herself waited upon me.

「御主婦さんは自身の御給仕」。

比較 — to wait for 「待つ」。

customer 「花客」「御客」。

at the opposite side of the store. 「店の(ハリス氏の居る)向ふ側の處で」。

in the most attentive manner = most attentively.

14. (そこで)ハリス氏は語を續けて、「エドワードさん、では私は別に御前さんのしたことに對して褒美をさしあげると云ふ積りではありませぬが; 御前さんの行爲に就て私が深く感服致して居りますその心をば、ひとつ、御前さんの亡き阿母さんの、かの賢い立派なる教訓を御前さんに何時までも、記憶えて置かせる様な具合にして、表はしたいと思ひます。つきましては私の店より何なりと御前さんの好きな本を十冊御撰んなさい、それをば、此前に持つて御出でになつた二冊の書物と共に、御前さんへの御進物と致します。で、坊ちゃん、どうか、今後も、今のやうに、よく心に止めて、所謂「小さき事の時を輕んじ」ない様にしなさいよ。若し又誰か相談對手が欲しいやうなことがあつたら、私の處へ御出で、(さすれば)私が力になつあげませうから」。

【註】 I am not going to..... 「.....する積りではない」「.....しようとして居る」。

【参考】 It is going to rain. 「雨が降り相だ」。

What are you going to do with him?

「あの男をば君は如何する積りだ」。

to reward you for..... 「.....に對して御前に褒美をやる」。

(百十三頁参照)

【参考】 He was rewarded for saving a drowning child.

「彼は將に溺れんとする子供を助けたので褒美を貰つた。」

He was punished for disobeying his teacher.

「彼は先生の云ふことをきかなかつたので罰せられた。」

what you have done = that which you have done
= your conduct. 「御前のしたこと」即ち「御前の

行爲」。

manifest = show 「表す」。

my approbation of your conduct 「御前の行爲に對し

て私が感心して居るその心」。

in such a manner, as to..... 「.....する様な風に
して」。

make you remember 「御前に記憶えておかす」。

Remember なる語はこゝにて Infinitive の "To" を省けるもの
なり。

- I will make him go. 「無理に行かす」。
- Let him go. 「行くことを許す」。
- I can't have him go. 「行て貰ふことが出来ない」。
- Bid him wait. 「待つて居れと云へ」(命ずる)。

總じて「何々せしむる」と云ふ語の中上に示せる四つの語は皆其
後に來る Infinitive の "To" を省くが常なり。

precepts. teachings と同意。

departed = dead 「亡き」。「a departed soul」 「亡魂」。

Select 「選つて採れ」。

any ten books you choose 「どれでも御前さんの良いと
思ふ本を十冊」。

in addition to..... 「.....に加へて」「.....と共に」。

【参考】 I gave him 10 yen in addition to his wages.

「給料の外に十圓遣つた」。

.....shall be a present to you. 「御前さんへの進物
と致します」。

二人稱、三人稱に於ける "shall" は言ふ人 (Speaker) の意志を
表はし普通善意ならば約束、惡意ならば脅迫を表す。

You shall have this book. (= I will give you this book).

「御前さんに此本を上げます」。

You shall not have any money in future.

「今後は一文も金ばつらぬ」。

He shall not die. 「あの男は死なしほせぬ」。

He shall not live. 「あの男生かしては置かぬ」。

- 比較:—
- He will not die. 「死なない」 (想像)。
 - He shall not die. 「死なしほせぬ」 (決心)。
 - He must not die. 「死なしてはならぬ」 (必要)。

henceforth = in future 「將來も」「向後も」。

as now 「今の様に」。

not despise == do not despise 「輕んじなさんな」。

'despise the day of small things' 此句は舊約聖書
ゼカリヤ書第四章第十節 (Zechariah IV. 10) 中に
あり。

For who hath despised the day of small things?

for they shall rejoice,.....

If ever..... 「.....することがあつたら」。

(二十七頁末行參照)

called on me. 「私を訪ねて御出で」。

- 比較:—
- to call on a man. (人を訪れる)。
 - to call at his house. (家を訪れる)。

and = and then.

(百三十九頁参照)

I will assist you. 「お力になりませう」(約束)。

15. 其少年は深く有難く感じて、その恩人(たるハリス氏)に御禮を申し、眼に涙を浮べて、御叩頭をして其店を去りました。

(さて)エドワード、デロンは日頃より非常に知識を得んことを求めて居りました、で、固より母の残して置いて死んだ僅ばかりの身代では、中々自分の希望通りの學問は出来なかつたけれども、勉強と節儉とによつて、自分と同年配の大概の子供よりは、ズツと學問が進んで居りました。日夜近處の人の仕事をして、自分の考へでは、大金と思ふ程の金を貯めまして、そして之をば皆書物を買ふに費ひました。

【註】 The grateful boy. 「感謝せる子供」にては拙なり「子供はいたく其恩に感じて」とでも譯せば可ならんか。

his benefactor = Mr. Harris.

tears in his eyes = (with) tears in his eyes. 「目に涙をうかべて」かゝる時の 'with' は往々省かる。

【参考】 He was standing at the door, *pips in mouth*.

「煙管を啣へて入口に立つて居た」

Gun on shoulder 「鐵砲擔いで」 book in hand 「手に本を持つて」 sword in hand 「劍を手にして」

wished for knowledge. 「知識を得むことを望むで居た」

'For' は「……を得む」との義にて希望の目的となるものを表すこと多し。

I do not wish for weath or fame.

「僕は金もさまで欲しくもなければ名譽も欲しくない」

How I longed for a sight of my native land.

「家郷の空を慕ひしことそも幾何ぞや」

scanty means. 「僅かな財産」

此意味に用ふる時は常に複數。

left him by—— 「——が残して死んだ」

He has left some money to me.

比較: 「彼は私に金を残して死んだ」

He has left some money for me.

「彼は私に金を置いて行て呉れた」

hardly 「……し兼ねる」「殆出来ぬ」

【参考】 He is hardly able to do so. 「そうし兼ねる」

by 下の by working……の by も同じく手段を表す。

He gained his purpose by threats or by entreats.

「彼は嚇しつ、^{おど} 賺しつ^{すか}して到頭目的を遂げた」

far 「ズツと」

That is far better than this. 「それは之よりはズツとよい」

beyond…… 「……より先きへ」 (六十二頁参照)

Is the house this side the river. No, it is beyond it.

「その家は川の此方側にあるのか、イヤ向ふ(側)にある」

She is beautiful beyond the race of woman.

「普通の女よりはよほど美しい」

He lives beyond his means and runs into debt.

「あいつは身分不相應な暮らしをするから借金をする」

most boys. 「大抵の子供」

“Most” を此意味に用ふる時は通例複數普通名詞と共に用ひ冠詞を有せず。

Most ships are built of iron now.

「大抵の船は今は鐵で造る」

比較:— *Most learned men.* 「大概の學者」「學者は大抵」
The most learned men. 「一番の學者」

of his age = of his own age. 「自分と同年配の」

night and morning = day and night 「日夜」

冠詞なきに注意せよ。

‘Mother and child’ 「母子」 ‘Husband and wife’ 「夫婦」

‘Master and servant’ 「主従」 ‘Young and old’ 「老幼」

‘Principal and interest’ 「元利」等。

for..... 「.....の爲めに」「.....にしてやる」

I would do anything for you.

「お前さんになら何なりとしてあげませう」

Open the door for me. 「僕に戸を開けて呉れ給へ」

what seemed to him..... 「彼に.....と思はれた

もの」此句は挿句にして之なきも意味は通ず。

He is what you call hai-kara.

「あれが(所謂)ハイカラ(と云ふもの)だ」

a large sum of money 「大金」

this = the money.

expended in..... = spent in..... 「.....に費され

た」「.....を買ふに費つた」

16. エドワードが今居る所は、金銭は人生の最大目的であつて、激しく絶えず勞働するのがその目的を達する唯一の手段と考へて居る人の家でありました。それでエドワードは二年間、その見込みのない境遇と戦ひ、朝は早うから夜は晩く迄、自分の生活の道を得るために稼ぎました。

【註】 Edward's home was with a man.....

= Edward lived with a man.....

= Edward lived in the house of a man.....

‘With’ は上の如く「.....の家に」の意となる事あり。

I live with my uncle. 「僕は叔父の所に厄介になつて居る」

My aunt from the country is staying with us on a visit.

「田舎の伯母が訪れて来て私共の所に滞在して居ます」

regarded—as..... 「——を.....だと思つて居る」

(二——三頁参照)

【参考】 I regard him as my benefactor.

「私はあの方を恩人だと思つて居ます」

They speak of him as a great scholar.

「世間ではあの人を偉い學者だと云ひます」

the chief = of the first rank = the most important.

end and aim. 二つ語を重ねたれど別に意味の差ある

にあらず、多少語氣を強めたるまでなり、かゝる例

は珍しからず。

‘Ways and means’ 「手段方法」 ‘house and home’ 「家倉」

‘fair and square’ 「公平無私」

What's your end and aim. (Sketch-Book)

「汝の目的は何なるぞ」

severe and.....as——「激しい.....を——と思つて

居る」と前の regard へかゝる。

the only..... 「唯一の.....=それのみで他に.....

はない」

means 「手段」此意味にては形は常に複數なるも意味

は單複兩様に用ふ故に、By this means; By these

means.

(百四十七頁参照)

of obtaining that end 「其目的を到達する」。

struggled with..... 「.....(を脱せんとして)戦ふ」。

【類例】 It is a grand sight to see a great man struggling with adversity.

「大人物の逆境と奮闘せるを見ると立派なものだ」。

【参考】 'to fight with' 'to battle with' 'to contend with' 'to compete with' 等。

hopeless condition 「前途の望みなき境遇」。

early and late = from early (in the morning) till late (at night).

to obtain his livelihood = to get his living 「生計を立てる」。

17. (しかし何時まで、こんな所から居ても仕方がないから) エドワードも今や都へ出て、何か自分の學問するに、もつと都合のよい口を探さうと決心しました。で、先達て書物を買つたその店へ這入りまして、ハリスさんは御在宅になりますかと訊きました。「今、御用中で御座りますが、一寸御待ち下さるなら、直御暇になります」と番頭の丁寧な返答。

【註】 seek some employment,..... 「何か.....な口を探す」。

adapted 「適せる」「都合のよい」。

adopted 「採用した」「貰つた」と誤ること勿れ。

promote his education. 「教育を進める」即ち「知識を磨く」「學問をする」の意。

inquired for..... 「.....は居るか」と訊く」。

比較:— { He inquired for you. 「君は居るか」と訊いた」。
He inquired after you. 「君は無事か」と訊いた」。

【参考】 to inquire of some one about something.

「誰某に何それに就いて訊く」。

to inquire into (=investigate) a matter 「事件を調べる」。

the polite clerk 「番頭は丁寧に」と 'polite' を副詞的に譯する方宜し。

【参考】 Over he went with the dish of water and poor Joeko got very wet.

「水の入つた鉢を持つたまゝ、ひつくりかへつて、可愛相にザヨツヨは大變濡れた」。

If you will..... 「.....して下さるなら」。

(四十四頁参照)

If you will do so, I shall be much obliged.

「そをして下さるなら實に有難い」。

a moment 「一寸」「暫時」。

be at liberty = be free. 「手ずきになる」。

I shall be at liberty after three o'clock this afternoon.

「今日の午後三時から後なら閑暇だ」。

'at liberty' は今一つの用法あり。

I am at liberty to do so or not.

「そうしようがしまいが僕の勝手だ」。

【参考】 'at work' 「工作中」「at play」 「遊ぶで居る」「at war」 「戦争中」「at peace」 「平和である」「at leisure」 「閑散な」。

18. 『あなたが私に會ひたいと仰有つたでしたか』とハリス氏は其少年に訊いた、(所が)當人は色々以前的事など思ひ出て、ついハリス氏の傍へ來た事に氣がつかせませんでした。

『アッ、ハリスさん』と云つたきり後の言葉は出なかつた。と云ふのは此親切な恩人(ハリスさん)がいつぞや自分に盡して呉れた御恩の程を思ひ出しては、有難さが唯もう胸一杯になつて其上には何も言ひ得ませなんだ。

『オヤ、おまへさん、エドワードさん、それぢや、相談相手が御要りでしたね、宜しい、なつて上げませう』と老紳士は云ひました。

【註】 asked.....of the boy 「.....が此少年に訊いた」。

本章 17 の inquired の註参照。(百五十一—百五十一頁参照)

thoughts were.....intense 「思ひが深い」即「深き思ひに沈む」。

were so—that..... 「非常に——したんだから.....した」。

かゝる文を「.....した事程左様に——した」など譯すは拙の極なり、須く‘that’以下は結果に譯し、「大變——したから....した」と云ふ風に譯すべし。

He worked so hard that he made himself sick.

「餘り勉強をしたものだから病氣になつた」。

He ran so fast that I could not keep up with him.

「非常に早く走つたものだから僕はとてくつついて行けなかつた」。

noticed 「氣が注ぐ」。

比較:— { He did not notice me. (私に氣が注がなかつた)。(無意識)
He took no notice of me. (私を見ぬ振をした)。(故意)

the approach of— 「——が側へ來た」。

It was all he could say. 「彼が云ひ得たことはそれだ」。

けであつた」それつきりでもう口が利けなかつた」。

【参考】 This is all the money I have.

「私の持つて居る金はこれだけ」。

All you have to do is to hold your tongue.

「御前さんは黙つてさへ居ればそれでよいのだ」。

the remembrance of..... 「.....を思ひ出して」
past favors bestowed on him by.....

「.....が施して呉れた日外の御恩」「いつぞや.....
かかくかくの御恩を施して呉れた」。

his kind benefactor = Mr. Harris.

so filled his heart with gratitude, that.....

「深く感謝の念を以て胸を充たしたので.....」。

「有難さが胸一杯で.....」。(百五十二頁中程参照)

further utterance 「此の上物言ふ事」。

Further は上の如く「此の上」「此の外」の意なるが之と似て非なる farther 「それより遠い」(距離)と誤るなけれ。

Kyoto is farther from Sendai than Tokyo.

「京都は仙臺を距ること東京より遠い」。

I have nothing further to say.

「私は此の上別に申すことは御座りませぬ」。

但兩者共比較級の形容詞なり。

{ far farther farthest
forth further furthest

was denied 「出来なかつた」。

Admittance was denied to us. 「入場を拒絶せられた」。

結局 further utterance was denied (to him)

= he could not speak any more.

My noble Edward. 文字通りに「私の氣高いエドワードさん」など譯さば滑稽ならむ。

And so 「ハハア、では」

You shall have one = I will let you have one

= I will be a friend. 「私とその相談相手になつてあげませう」 (百四十五頁参照)

If you need a dictionary, I'll lend you one (=a dictionary).

比較: 「辭書が要るなら貸してやらう」
If you need the dictionary, I'll lend it (=the dictionary) to you.
「其辭書が要るなら貸してやらう」

19. 其後五年経つと、エドワード、デロンは、ハリス氏の信任せる番頭となり、それから、また三年経つとその商會の組合員の一人となつた。最初恩人の目にとまつた、その正直なる心は矢張後年に於てもその主義となつて居た。かくて榮達は其勞を飾り、幸福は其心を樂しからしめた——(かくの如きは實に)小事に忠なることの必然の結果なんです。

【註】 confidential clerk 「信用を措ける番頭」

in three more = in three years more.

未來の時を表すに用ひたる “in” は「立てば」と譯すべし。

He said he would come again in a few days. Then we parted, and met again two days after.

「二三日立てばまた來ると云つて、それから別れて、二日立つてまた會つた」

a partner in the firm. 「此商會の組合員の一人」

西洋の商店は少しく大きいものとなれば、皆組合組

織に成り居る故かく云ひしなり。

The integrity of purpose 「其心の正しき事」即ち「正直」
won the regard of..... 「.....の注意をひいた」
.....の目にとまつた」

【参考】 The book won him a reputation.

「彼は其本を書いて名を擧げた」

His slowness lost him the chance.

「グズグズして居てムザムザ好機會を逸した」

was his guide 「彼を示導するものであつた」即ち「そ
を主義として世に處した」

Prosperity crowned his efforts. 「繁榮がその勞力を飾つ
た」即ち「其勤勉に對しては繁榮と云ふ好果を生じ
た」

happiness blessed his heart. 「幸福が其心を恵むた」即
ち「其心には幸福が宿つて居た」

—the never failing result of.....

「かくの如きは.....に對して屹度生すべき結果で
ある」之は上の句全體と同格なり。

faithfulness in little things. 聖書にある句にて之を採
つて以て本章の表題とせるなり。(百四十五頁参照)



The Young Captives.

幼き捕虜

1. 今は昔、ニュー、イングランド殖民地が出来てより、まだ間のなき頃、子供達はよく木の實拾ひに出掛けては、澤山の木の實を拾つて來、來したものでした、それはその小さい部落の周圍にある、森の中に非常に澤山生たのです。

【註】 during..... 「.....中」「.....の頃」の義にて其間何事かの繼續することを意味す。

下例を比較参照すべし。

I was ill *for* a month.

「僕は一ヶ月間病氣であつた。」

Mr. Kubo took my place *during* my illness.

「僕の病氣中久保君が代理をやつて呉れた。」

I intend to go to Hakone *during* the holidays and stay there *through* the summer.

「僕は休暇中に箱根へ行つて夏中は其處に在滞する積りだ。」

early settlements. 「始めの殖民地」。

New England. かの清教徒が本國に於て迫害せられ遂に信教の自由を得んとて遙に海を渡つて到着したる土地にて本國 England に對してつけたる名稱なり」。

rather. 花艸、果實を採集するを云ふ。

nut. 胡桃、栗、榛實等總て堅果を云ふ。但譯文にては便宜上單に「木の實」となせり、猶吾國の椎拾ひ乃至栗拾ひの如きものなるべし。

which..... 以下上の nuts の説明をなす。

grew 「結實つた」。

in great abundance 「非常に澤山」。

surround..... 「.....を取り巻く」「.....の周圍にある」。

The pond is *surrounded* with trees.

「池の周圍に木がある」。

were accustomed to..... = used to..... 「.....するのが常であつた」「よく.....したものだつた」。

large quantities of..... 「.....を澤山」。

Large quantities of fish are caught here.

「此地では魚が澤山捕れる」。

plantations 「小さい殖民地の部落」。

【備考】 'colony' 「廣き意味の殖民地」「settlement」 「新に移住したる計りの colony」「plantation」 「colony 中の小なる部落」。

2. (所が)或る木の實拾ひの時に、幼い男の兒と女の兒と、一人は八歳一人は四つで、母の亡い兒が連れにはぐれました。で(唯二人)歸る途中、丁度野葡萄の生えて居る所へ來かかりましたんで、(流石は小供日の暮るゝのも忘れて)一生懸命その採り方をやつて居ます中、遂に(日もいつしか山に影を隠し)入り日の光り今を限りと薄れ行く頃となりました。

【註】 In one of these nut-gatherings. 「上に述べた木の實採りの中で或時」。

the one.....and the other = the former.....and the latter = the boy.....and the girl.

次の二例を比較せよ、

Both Taro and Jiro are abroad, ^{former} the one (=Taro) in England, ^{latter} the other (=Jiro) in America.

「太郎も次郎も共に洋行して居ます、太郎の方は英國に次郎の方は米國に」。

Both my brothers are abroad, one in England, the other in America.

「私の兄弟は二人共洋行して居ます、一人は英國に、今一人は米國に」。(何方が英國に居るか、米國に居るか之丈けにては明ならず)。

four years of age = four years old 「四歳」。

whose. boy と girl と兩方を受く。

was dead. (百四十頁末行参照)

became separated 「ハぐれた」。

- 【参考】
- { to become acquainted (知り合ひになる)。
 - { to be acquainted (知り合つて居る)。
 - { to become mixed (混じる)。
 - { to be mixed (混じつて居る)。
 - { to become known (知れる)。
 - { to be known (知れて居る)。

separated from..... 「.....と分れる」「.....と離れる」。

‘From’ は分辭を示す。

In 1776, the American colonies separated from the main country.

「一千七百七十六年に亞米利加殖民地は本國と分離し(て獨立國となつた)。

I parted from him at Osaka.

「僕は彼と大阪で別れた」。

companions. 「一所に行て居た者」「連れ」。

on their way home 「歸る途中で」。(七頁参照)

came across..... = happened to come to..... = met

with..... 「(偶然).....に來かかる」。

【参考】 I came across this expression in my reading yesterday.

「昨日讀書の際偶然此句が見つかりました」。

were busily engaged in..... 「セツセ、セツセと.....

をやつて居た」。(百二十五、六頁参照)

—, till.....

comma の次の till (又は until) は「.....した迄——した」と下より逆に譯すよりも寧ろ「——して遂に.....した」と上より順に譯する方便なり。

The fire went on burning, till it went out of itself.

「火はブンブンと燃えて、遂に自然に消えた」。

the last rays of the setting sun.

「之を限りと云ふ入り日の光線」即ち之がなくなれば日は全く暮るるなり。

fading away 「薄れ行く」。

【参考】 The colour has faded. 「色が褪めた」。

Her beauty has faded. 「色衰ふ」。

3. (所へ)突然二人印度人が出てきて、兩人を捕まへました。男の兒は烈しく抵抗し、其妹は助けて呉れと大聲上げて、兄に頼みましたが、何の甲斐もありません。印度人はやがて兩人をばズッと殖民地の境界より、向ふの方へ連れて行きました。(で)彼等が停つた頃は夜もはや、いたく更けて居ました。それより彼等は火を焚いて、子供等に食物をすゝめました。

【註】 were seized by..... 「.....に捕まつた」。

が捕まへた」。

Indians. 無論「アメリカ、インヂェン」の事なり。

struggled 「捕まへられまいとモがいた」。

little sister = younger sister 「妹」。

cried to him for protection 「助けて呉れと大きな聲して頼むだ」。

【参考】 I never went to my teacher for explanation.

「僕はいまだ先生に説明をして貰ひに行つたことはない」。

He always comes to me for pecuniary help.

「あいつは何時もおれの所へ金の無心にくる」。

I applied to him for employment.

「僕のあの人に口を頼むだ」。

, but in vain 「が、無効であつた」。

I tried to persuade him, but in vain.

「僕は何とかして彼を説き伏せようとしたが無効であつた」。

【類句】 'to no purpose' 'of no avail' 'without success.'

bore = carried.

比較:— {bear (運ぶ、忍ぶ) bore borne.
 {bear (生む) bore bern.

beyond the bounds of..... 「.....の境を越へて」「.....の範圍を越へて」。

比較:— {Within the bounds of... .. }
 {Within the limits of..... } 「.....の範圍内」
 {Within the confines of..... } 範圍を表す語は普通複数形な
 {Beyond the bounds of... .. } るに注意せよ。
 {Beyond the limits of..... } 「.....の範圍外」
 {Beyond the confines of..... }

Night was.....before—— 「——した前に夜は.....であつた」「——した時は夜は既に.....して居て」「夜

が.....してから——した」。

The sun was up before I got up this morning.

「今朝起きた時には既に日は出て居た」。

was advanced. 「進んで居た(時刻や季節や年齢等が)」

「更けて居た」。

They are far advanced in life.

「彼等は遙程の高齡だ」。

kindled a fire 「火を焚く」。

【参考】 'to make a fire' 「火をおこす」 offered 「(食べる)すすめた」。

此語は頼まれもせぬに自ら進むで爲すの意を有す。

He offered me assistance. 「助力をしてやろうか」と云つた」。

4. 男の兒の胸は悲しさと腹立たしさとが一杯で、いやだと云つて食はない。けれども妹の方は(何を云うてもまだ頑是ない) いぢらし相に抱かれて居た印度人の手より王蜀黍の炒つたのを貰ひました。で其印度人は娘が其實を食べて、訝しそふな、しかも恨めしそふな目付きをして、自分の顔を見上ぐるのを見てにつこと笑つた。それから右の二人の土人は、この暗き森の中に眠らうと、銘々幼き捕虜をかかへて寝ました。

【註】 swelled 「脹る」の義にて「胸に一杯になつた」との意なり。

His heart swelled with pity.

「不愍と思ふ心が胸一杯になつた」。

refused to..... = said "I will not to....."

.....するのはいやだと云つた」。

I can not refuse to do as my lord says.

「君の仰せのいなみ難く」。

比較:— deny..... 「.....でない」と云ふ」。

He denied that he had seen it.

「その男それを見たのではないと云つた」

parched corn 「炒つた玉蜀黍」米國にては Corn と云へば玉蜀黍の事。

held her on his knee 「膝にのせて居た」「抱いて居た」

He.....he.....his. 皆此抱ける印度人を指す。

look up in his face. 「見上げて顔を見る」

To look の次へは通例 'at' を用ふれど ザツと顔を見るときと、鏡を見るとき等は通例は 'in' 又は 'into' を用ふ。

He looked at me. 「彼は私を見た」

He looked me in the face. 「彼は私の顔を見た」

He looked into my eyes, 「彼は私の眼を見た」

He looked in the glass. 「彼は鏡を見た」

【類例】 He stared me in the face. 「彼は私の顔をジロ々々見た」

The old man gazed the girl in the face long and earnestly.

「其老人は娘の顔を熱々見て居りました」

yet 「しかも」

'a.....eye' 「.....な目付き」, Eye を此意味に用ふる時は單數にて不定冠詞を有す。

lay. lie の過去。

比較:— lie (横たはる)。 lay lain (自動不規則)。
lay (横たへる)。 laid laid (他動規則)。

each with an arm over his little captive.

「銘々幼き捕虜をかかへて」

かく with—(前置詞).....の形は其前置詞の意味を考へそれと前
の with とにて恰も動詞の如く譯す可し。

【例】 with a pipe in his mouth. 「煙管を口(に)啣いて」

with a child on her back. 「子供を脊負つて」

with a gun on his shoulder. 「鐵砲を擔いで」

with a book under his arm. 「本を小脇に挟んで」

with his hands in his pockets. 「手を懐にして」

5. 大變でしたよ、殖民地の騒ぎ方と云つたら、二人の子供の歸らなかつた時の。或は此處等で道に迷つたかも知れぬと思はるゝ所は、何處もかしても、悉く探しました。(が一向見えない)諸處詮議の上、終に其子供の(持つて居た)小さい籠が、もつれからまつた、しげみの中に、ひつくりかへつて居たのが見付かつたので、さては二人の子供は印度人に捕まへられたに違ひないと云ふことになりました。

【註】 Great. 此語の意を強めんためかくは劈頭に出せるなり、譯文を熟讀して此措字法を會得せられよ。
alarm. サ—大變だと云つて騒ぎ出すこと。

Every spot was searched, where.....

「.....な處は悉く探した」

where it was thought possible they might have lost their way.

此文の構造を説くには便宜上遂に説明せむ。

{ They may lose their way. 「道に迷ふかも知れぬ」

{ It is possible (that) they may lose their way.

「道に迷ふことないとも限らぬ」「或は道に迷ふかも知れぬ」

They think it is possible { (that) they may lose their way.
= It is thought possible }

「道に迷ふかも知れぬと思はる」

They may have lost their way.

「道に迷つたかも知れぬ」

It is possible (that) they may have lost their way.

「或は道に迷つたのかも知れぬ」

They think it is possible } (that) they may have lost their way.
= It is thought possible }

「或は道に迷うたかも知れぬと思はれる」

They thought it was possible that they might have.....

= It was thought possible they might have lost their way.

「或は道に迷うたかも知れぬと思はれた」

- 比較:—
- 'They may lose their way. (道に迷ふかも知れぬ)。
 - 'They can not lose their way. (道に迷ふ筈がない)。
 - 'They must lose their way. (道に迷ふに違いない)。
 - 'They may have lost their way. (道に迷うたかも知れぬ)。
 - 'They can not have lost their way. (道に迷つた筈がない)。
 - 'They must have lost their way. (道に迷うたに違いない)。

at length. 「(長い時間の後)終に」

'at last' 「(困難の後)遂に」

a tangled thicket. 「枝のからみあつたしげみ」

came to the conclusion = concluded 「.....と云ふ結論

に達した」 「.....と云ふことになつた」

At last we came to the conclusion that he must have done it.

「到頭その男がしたに違いないと云ふことに決つた」

【類例】 to come to a decision, an understanding, an agreement.

they must have been captured by.....

「.....に捕まへられたに違いない」 (上の註解参照)

6. そこで(色々相談の結果)まづ兵力に訴へると云ふ様な手段を探るに先だつて、兎も角もその父親が穩に印度人の王の所へ行つて、子供を返して戴きたいと請求すると云ふことに衆議一致した。就ては夜のひき明けに父親は伴侶の者と共々に出かけました。(途中で)一人の印度人が獵をして居るのに出くはしました

んで、(其男に相談しましたところが)親切にも其男(早速)道案内になつてやろうとのことでありました。

【註】 It. 下の that 以下を受く。

was decided that..... 「.....と決つた」

before any warlike measures were adopted.

「干戈に訴へると云ふ様なそんな手段を探るに先だつて」

to take measures. 「手段を取る」「處置をする」 should.

{It is decided that the father shall go.....

{It was decided that the father should go.....

總て決定、企圖、命令、建議等を表す動詞の後には shall (過去ならば) should を用ふ。

It has been decided that you shall go.

「君が行くと云ふことに決つた」

My father intends that I shall be a physician.

「父は私を醫者にする積りだ」

He has given orders that no one shall leave the room.

「誰も此室を出て行つてはならぬと命じた」

It has been agreed that the matter shall be done so.

「本件はさうすると云ふことに衆議一致した」

It is proposed that a school shall be built here.

「此地へ學校を設けるとの建議が出て居る」

demand. 「呉れと云ふ」

At the earliest dawn of morning. 「夜が明けると直ぐ」

「夜明」を 'at dawn of morning' 'at day-break' と云ひ「日の暮れ」を 'at night-fall' と云ふ。

a friendly Indian. 「親切なる印土人」と譯するは宜し

からず。

, who..... の事あればこそ親切と云ふべけれ。凡て英語にては結果より見たることを恰も其性質の如く云ふ慣習あり。よく々々注意すべし。従て此處の如きも「親切にも.....して呉れた」と譯すべし。

(百五十一頁 Polite の註参照)

purchasing the chase. 「狩獵をする」

consented. 「相談に應ずること」

比較:— {offer (こちらより頼みもせぬに)
consent (こちらより頼むでそれに應じて)} してやらうと云ふ。
{refused to.....=said "I will not....."
consented to.....=said "I will....."}

7. 彼等はでこぼこのある小徑を旅して、とう々々日も暮あひ近くなりました。かくてやうやう土人の住家が輪狀に並んで其中に、天幕を張つてある所の近くへ来て見ました、ところが頭に羽冠を戴き數多の武士に取り巻かれた一人の身丈け高い人が居ました。(はて誰だらうと見て居ますと) 例の案内して來た土人は自分の王様として、其人に挨拶をしましたので(さては此人が王様かと) 子供を勾引されし父親は低頭をして、かく申しました。

【註】 traveled.

此字には二様の綴方あり。

(米國式)	(英國式)
travel'ed	travelled
traveling	travelling
traveler	traveller

【参考】 worshiped (崇拜した) worshipped

rude path. 「凹凸甚しき小徑」

until. till の稍意味強きもの。

the day drew near a close. 「日暮近くになつた」

【参考】 We drew near the end of our journey.

「吾々は旅行の終りに近づいた」

【注意】 close には發音極めて多種あり。

名詞として「終り」の意味の時は Klöz なれど「境内」の時は Klös 又は Klöz 働詞の時 Klöz 形容詞、副詞の時は共に Klös なり。

approaching = when they approached

a circle of..... 「.....が輪狀に並んで居る處」

【参考】 We sat in a circle. 「吾々は車坐をなして坐つた」

He reasoned in a circle. 「彼は遠廻しに論じた」

in the midst of = amidst. 「の中に」

【参考】 She is, as it were, a rose amidst nettles.

「あの女は云はば泥中の蓮だ」

of lofty form. 「身丈け高い」

with a coronet of feathers upon his brow 「頭に羽でこしらへた冠を戴いた」(百六十二、百六十三頁参照)

surrounded by..... 「.....に取り巻かれる」

比較:— {The old man was sitting surrounded by his children.
「老人は孫共に取り巻かれてすはつて居た」
The city was surrounded with walls.
「町には城壁をめぐらしてあつた」

saluted him as..... 「.....として挨拶をした」

bereaved. 「女、小兒などを奪ひ去られたる」即ち「勾引されたる」

此語の過去分詞には bereaved と bere't との二種あり。

【用例】 He has his child bereaved 又は Some one has bereaved him of his child.

「彼は子供を勾引された」

thus = as follows. 「次の如く」

addressed him. 「王に申しました」

【参考】 He addressed to the girl.

「彼は其娘に結婚を申し込む」

I addressed him on this subject.

「僕は此問題について彼に手紙をやつた」

The letter is addressed to you

「此手紙は君へ来たのだ」

He addressed himself to the proper authority.

「彼はそれに對し然るべき先例を引いた」

They addressed themselves to the task.

「人々は其仕事に取りかかった」

8. 『赤色人種の王様、あなた様は(今)失くした子供を尋ねて参つて居ります父を御覽になつて居らつしやいます。彼はあなた様の人民は不幸に惱める異國の者に危害を加へはせぬと云ふことを兼て承つて居ります。それですから彼は一點の危惧の念を挾まずしてあなた様方の所に身を任して居ります。私共の本國の王様は(本來なら)私共を保護すべき筈のものが、(却つて)私共の敵となりました。(その爲め遂に)私共は懐しい故郷を——祖先の墳墓(の地)をば——出奔仕りました。

【註】 King of..... 「.....王様よ」と呼び掛けるに用ゐたるを以て冠詞なし、下の The king of our own native land と比較せよ。

the red men. 殖民地の人々は白色人種 (whitemen) なるより赤色人種なる印度人をばかく云ふなり。

【参考】 Young men, ahoy! The rapids are below you!

「オーイ、若い衆、下に早瀬があるぞ」

thou seest. 「あなたは今御覽になつて居る」

‘Thou’ は二人稱單數の代名詞なれど現今にては祈禱の時か或はかの Quakers (クエイカー教徒)の外は用ゐず、二人稱にありては單複共に You を兼用す、此で名詞の特徴は其動詞の語尾に ‘est’ ‘st’ 又は ‘t’ を附するにあり。今動詞 see を用ゐて直説法 (Indicative Mood) に於ける形式を示さむ。

	現在	過去	未來
	Thou seest	Thou sawest.	Thou wilt see.
	Thou hast seen.	Thou hadst seen.	Thou wilt have seen.

	主格	所有格	目的
格の變化比較	You.	your	you.
	Thou.	thy	thou.

in pursuit of = pursuing. 「跡を逐ふ」「尋ねる」

【類例】 He has come in quest of employment.

「彼は口を探しに来た」

They went in search of the missing child.

「人々は其迷子を探しに行つた」

He has heard. 「聞いて(承知して)居ます」

will not harm. 「害を加へはせぬ」

【参考】 I have offered him money, but he will not take it.

「僕のあの男に金をやらうと云つたが、中々取らぬ」

in distress. 「惱める」. ‘In’ は境遇を表す。

【参考】 She was my companion both in adversity and in prosperity.

「彼女とおれとは苦樂を共にした」

If he were a little more economical, he might live in comfort.

「も少し儉約にすれば安樂に暮せようものを」

A friend in need is a friend indeed.

「貧の友こそ眞の友」

【参考】 'in misfortune' 「不幸な」 'in luck' 「幸な」 'in poverty' 「貧乏な」 'in luxury' 「贅澤な」 'in danger' 「危険な」 'in safety' 「安全な」等。

trusts himself. 「身を任かす」「来る」

fearlessly. 「もしや害を加へられはせぬかなどと少しも心配せず」

among you. 「あなたの方の處に」

【参考】 He has lived much among foreigners.

「彼はこれまで多く外人の間にあつて世を送つた」

比較:— { I knew that I was among friends. (同種)。
I knew that I was amils' enemies. (異種)。

should have..... 「.....すべき筈のものが實はしなかつた」

You should do so. 「そうすべき筈のものだ(未來の事)。

You should have done so.

比較:— 「そうすべき筈のものだつたのに(しなくてわるかつた)」
(過去の事)。

You should not have done so.

「そうすべき筈のものでなかつたのに(してわるかつた)。

You did not ask your father? You should have consulted him before taking the step.

「お前は父さんに訊かなかつたつて、そりやいけない、豫め御父さんに相談しておいて然る後にすべき筈だつた」

became our foe 「敵となつた」 清教徒 (Puritans) は信教上の事より本國にあつて非常に迫害せられし故かく云へるなり。

fled. 「遁れた」

flee fled fled

the graves of our fathers 上の our dear homes と同格なり。

9. 『太西洋の浪に送られ遙々と此新世界に参りました。私共は人の血に汚れぬ平和な種族で御座ります。私共は赤色なる同胞の握手を求めて居ります。私の血縁の者としては折れて埋れし幹より分れ出でたる、二つの若芽の外、此荒野に住むで居る者は御坐りませぬ。

【註】 The ocean wave brought us. 例の擬人法なり。The ocean とは勿論 The Atlantic Ocean の事なり。This New world 即ち America. Columbus が發見して茲に新一世界が殖えたる譯なればかく云ふなり。

pure from 「.....に汚れぬ」

【参考】 The water of this bottle is clear from impurities.

「此瓶の水には不潔なものはいつてない」

No man is entirely free from blame.

「人として全く批難のない者はない」

pure from the blood of all men. 結局「人を殺した事などなき」の意。

to take the hand of..... 「.....と握手せんことを」

'hand' なる語は握手、ひいては交際、結婚等の意に用ゐることあり。

'to ask the hand' 「結婚を申込む」 'to give the hand' 「結婚を承諾する」 'to get the hand' 「結婚の承諾を受く」

(五十五—五十六頁参照)

red brethren = Indians.

brother (兄弟) {brothers. (數多の兄弟)。
 {brethren. (同胞)。

of..... 「.....の中で」と下の none にかかる。

none..... 「誰も.....する者はない」。

此語は其意味單數として用ふることなきにあらざれど複數として用ふる場合多し。

None know the fact. 「誰も此事を知つて居る者はない」。

inhabit. 「.....に住む」(他動詞)。

save = except. 「を除いては」「の外に」。

There is nothing in Heaven or earth beneath save God and man.
「天地間神と人との外あるなし」。

two little buds, from a broken, buried stem.

こは比喩的に云ひしものにて 'a broken, buried stem' とは比人の亡妻を指し 'two little buds' とはその忘形見の二人の子供の事なり。

10. 『(然るに圖らずも)昨夜悲しいことが起りました。(その血縁の者は之ればかりと頼む)二人の子供が見えなくなりました。モーシ王様、あなた様はもしやあなたの人民が私の子供を連れていつて居りますか、御存じで御坐りますか。何處へ子供を隠してあるか御存じで御坐りますか。ドーカ願はくば子供が私の手にかへる様にして下されませ。左様致して下さりますならば陀度大神はあなた様の民草を恵まれて、胸に苦しみのあられる時、あなたの御心を引き立てて下されるので御坐ります』。

【註】 Sorrow entered into my soul. Sorrow と云ふものを復擬人せるなり。

entered. 此語は現今の英語にては有形の物に入る時は前置詞を要せず、無形の物に入る時のみ前置詞 'into' を附す。

比較:— {to enter a room. 「室に入る」。
 {to enter into conversation. 「談を始める」。

I found them not = I did not find them
(=the children).

通常ならば大概の動詞は打消又は疑問の時には 'Do' を用ふれど古體の文にありては往々之を用ひざることあり、以下本章中此用例極めて多し、一々解説せず。

Knowest thou = Do you know.

if = whether. 「.....かを」。

thy people = your people.

I don't know if he will go.

「彼は行くんだかどうだか僕は知らない」。

I will ask him if he will go.

「行くんだかどうだか聞いて見よう」。

【注意】 'If' を此意味に用ふるは 'know,' 'ask,' 'inquire' 等の動詞の後にある時なり。

have taken. 「連れて行つて居る」。

where..... 「何處に.....かを」。

have concealed. 「隠してある」。

cause them to be restored = cause your people to restore them (=my children)

= order your people to restore my children.

(あなたの人民に)子供を返す様に命じて下さい。

比較:— {I ordered him to sweep the room.
 {I caused the room to be swept.
 「僕は彼に部屋を掃いておけと云ひ付けた」。

So = If you will do so.

shall the great spirit bless..... = the great spirit shall
bless..... So なる副詞が先きに来りし故かく主語
と動詞と顛倒せしなり。

shall..... 「屹度..... する」と豫言的に云ひたるなり。

【参考】 Blessed are the merciful; for they shall obtain mercy.
「幸福なる哉、慈愛深き者は、そは彼等は慈愛を受くべければ
なり」

Read the book and you shall not find a single mistake.

「此本を読むで御覽なさい、誤は唯の一つもありはしませぬ」

the great spirit = God.

thy own tender plant = your own people.

人民を草木に例へたるなり、邦語にも民草、蒼生、
などあり東西軌を一にすと云ふべきか。

lift up thy heart. 「沈める氣を引き立てる」。

when it..... = when the heart.....

it weighteth = it weights. 古體なり。

when it weighteth heavily on thy bosom. 「心がかかりの
ある時」。

邦語にも「氣分がおもい」「氣が沈む」など云ふことあり。

【比較】 His financial troubles weighed heavily on his mind.

「財政困難が痛く彼の心を悩ました」。

11. 印土人の王様は、彼を見つめ、かく申しました。「御前めしを知つて居るのか、わしの眼を見る、コレ、よく見る。どうだ、見知らぬ人の眼か、」子を勾引されし父親は、之迄一向御顔を拜した覺えは御坐りませぬ

と答へた。

【註】 fixing on him a piercing glance, 「眼光さながら
人を射る如き眼つきをして彼を見つめて」。

【参考】 Fix your eyes on this spot. 「此處を見詰めて御出下」。
「見詰める」ことなば 'to fasten one's eyes on' とも云ふ。

【類例】 'to fix one's attention on' 「専心意を用ふる」。
'to fix one's mind on' 「心を留める」。

Knowest thou me? = Do you know me?

Look in my eyes! 「おれの眼を見よ」。(百六十二頁参照)

they = my eyes.

a stranger. 「見知らぬ人」。

replied that he had no recollection of.....

= said "I have no recollection of....."

「.....した覺えは御坐りませぬ」と云つた。

He replied that he did not know me.

= He said "I do not know you."

「彼は御前さんなば存じませぬと云つた」。

ever before 「之迄何時か.....した」「之迄に.....し
た事がある」。

he had..... 此 he は無論 the father を指し。

his countenance の his は無論 the monarch を指す。

countenance = face.

12. 「一體からぞ白人は。眼がボンヤリして居るんだ。徒に(外部の)着物のみを見て。(深く)その精神を觀ないのだ。御前が鋤を以て地を耕せる時、わしは御前の稼ぐのを立つて視て居たことが度々ある、尤其時は頭に冠は戴いていなかつた、けれども矢張王たるに變り

はなかつた。然るに(何だ)御前はそれを知らないつて』。

【註】 Thus it is with the white men. 「白人は得てかうだて』。

with = in the case of 「の場合には」に於ては』。

【類例】 That is generally the way with you boys.

「それが一般に御前達子供の常だて』。

Many great men have raised themselves to their present positions by their own merits. Such is the case with Mr. M.

「大人物中には自己の伎倆で現在の位置に陞つた人間も随分多い、現に M 氏の如きがそうだ』。

The Japanese went from right to left. This is also the case with the Chinese.

「日本人は右から左へ書く、が、支那人もそうだ』。

looketh on = looks on 「古文體』。

通例物を見ると云ふ時は 'look' と 'at' とを用ふれど(百六十二頁参照)物を観るに、「善く思うて観る」「悪く思うて観る」と云ふ様に善悪の感情が加はりし時は 'at' は變じて 'on' (or upon) となる。下例を比較せよ。

{ Everybody looked at him with curiosity. (珍らしむつて)。
{ Everybody looked on him with compassion. (哀れと思つて)。

さればこそ "to look upon.....as" は "to regard.....as" の意味となるなれ。

I look upon (=regard) him as a great scholar.

「僕はあの人を學者だと思つて居る』。

more than = rather than.

He has more learning than experience.

= He has learning rather than experience.

= He has learning, but not experience.

「彼は學問はあるが經驗はない』。

He is more brave than wise,

= He is brave, but not wise.

「剛巧なと云ふよりは寧ろ剛氣だ」即ち「剛氣ではあるが、剛巧ではない』。

garments. 着物(外面) soul. 精神(内面)。

turn up the earth. 「土を掘りかへす』。

【参考】 Digging still deeper, he turned up a house-tile.

「尙一層深く掘つた處が屋根瓦を掘り起した』。

oft = often.

have I stood. oft なる副詞の力を強めんとて文の冒頭に出せしよりかくは語の顛倒を生せしなり。

【参考】 { I will never do so.
{ Never will I do so.

stood watching. 「立つて視て居た』。

比較: { I was thinking. (考へて居た)
{ I sat thinking. (坐つて考へて居た)

{ I was gazing at the scene. (其光景に見とれて居た)。

{ I stood gazing at the scene. (其光景に立つて見とれて居た)。

watching you toil. toil は不定法 'to toil' の 'to' を省きしものなり。

總て見る (see) 聞く (hear) 等知覺を表す動詞又は之に準ずる動詞の後に來る不定法は Active Voice にありては通常 'to' を省く。

(九十五頁参照)

{ I saw him run. { I heard her sing.
{ He was seen to run. { She was heard to sing.

I was king. 'King' の前に冠詞なきに注意せよ。

總て、To be, become, make, appoint の類の動詞の後に來る官職、稱號を表す名詞の前には冠詞を省略す。

They have made him *king*.

He was made *king*.

He has become *king* of England.

He is *king* of England.

Mr. Taft has been elected *president* of the U. S. A.

「タフト氏は合衆國の大統領に選舉せられた。」

And you knew it not = And you did not know it.

「然るに御前はそれを知らなかつた。」

And はかく文の冒頭に來りて往々「それなのに」「しかも」(in spite of all) 等驚愕、非難等の意を含むことあり。

And do you mean to tell you went there?

「それなのに貴様は其處へ行つたと云ふのか。」

And you come to tell me this.

「それで之を告げに來たつて。」

And you believe that?

「それなのに君はそれを信するんだつて。」

13. 「わしはお前方の人民を觀た。傲慢なところもなければ、粗暴なところも見受けない。敵として行つた自分は友となつて歸る様になつた。それでわしは部下の者共にも云つてきかした。『此人達には害を加へるな。彼等はおれ達を嫌つては居ないんだ(から)』と。するとわし共の所の白髮の豫言者はわしを非難をした。青白い顔の人と同盟をするな、亡き先王の靈魂が(草葉の蔭で)互にわしに立腹をなされるといけないからしてと云つて。」

【註】 neither.....nor——「.....もなければ——もない。」

I went an enemy, but returned a friend

= When I went I was an enemy, but when I returned I was a friend.

「行く時は敵として行つたが歸るときは友として歸つた。」

enemy 及 friend は共にそれ々々 went 及 returned の complement なり。

【類例】 He lived a *saint* and died a *martyr*.

= He was a saint while he lived and he was a martyr when he died.

「生きては聖賢の人たり死しては殉教の士たり。」

She lived and died a *virgin*.

「その女は一生處女で通した。」

He died *young*. 「彼は夭死した。」

bade (發音は bād, bid の過去) me make no league with.....

= ordered me to make.....

「.....と同盟を結ぶなと云つた。」

Bid の後に來る不定法は “to” を省くを常とす。

(九十七—九十八頁参照)

{ He bade me go. } 「彼は私に行けと云つた。」
{ = He ordered me to go. }

the pale faces = the white men.

lest.....should = that.....might not.

「.....しない爲めに」「.....するといけないから。」

I work hard lest I should fail.

= I work hard that I may not fail.

「落第するといけないから勉強するのだ。」

比較: I worked hard lest I should fail.

I worked hard that I might not fail.

「落第するといけないから勉強したのだ。」

be spoken of..... 「.....の事を(善く又は悪しく)云ふ」

Don't speak ill of others; always speak well of them.

「人の事を悪く云ふな、何時も善く云へ」

They speak angry words of me

= Angry words are spoken of me among them.

「あの人は私に立腹して居る」

shades = departed spirits.

靈魂 (spirit) は見ることを得るも之に觸知することを得ざるは猶、物の影 (shade) の如しとの考よりかくは shade を spirit の意に用ふるに至れりと云ふ。

buried (發音は bair'rid) 「死んで葬られたる」即ち「亡き」の意。

14. 『されどわしは、またもや、御前の同胞が住家^{うち}を建てて居る處へ行つた。ア、そうだつた、御前の家へ這入つたつて、然るに御前は(わしの)此顔を見知らぬつて。わしには、たつた一つの星でも雲間を漏れて輝いて居たらたとひ眞夜中でも御前の(顔)は分るんだが、わしの耳はよしや外には暴風雨がありとあらゆる雷と共に、たけり狂うて居ようとも、お前の聲は聞き分けることが出来るんだが』

【註】 yet. 「(豫言者はかく云つた)けれども」

went where = went to the place where.

I will go anywhere you may go.

= I will go to any place where you may go.

「御前さんの行く所なら何處へでも」

This is where (=the place where) he lived.

「之があの人^のの住むで居た處です」

Place it where you found it.

「もとあつた處へ置いておきな」

And. 「それなのに」

(百七十八頁参照)

this brow = this face of mine.

I could tell. 「分るんだが」

can tell = know.

Can you tell who did it = Do you know who did it.

No, I can't tell it = I don't know it.

I could.....if—— 「——だつたら.....することが出来るんだが」と或る(事實と反對の)事を假定して「云々すれば云々することが出来る」と云ふ意味に用ふ。

I could do it, if I tried

(=I can do it, but I do not try)

「やれば出来るんだけれど」

I would if I could.

「出来ればするんだけれど」

而してかかる場合には上例に於て見らるゝ如く if 以下の句、即條件の句にも過去の形を用ひ (Subjunctive Past)。結果の句にも過去の形を用ふ。(Conditional Past)。本文の trembled, 次の文の was (通例は were) は即 Subjunctive Past にして上の could 及下の would は即 Conditional Past なり。(文典の Mood の部参照)。

but = only.

a single. one の意味強きもの「タツタ一つ」

trembled through the clouds. 「微光雲間を漏る」

with all its thunders. 「あらゆる雷と諸共に」

With all (は notwithstanding (かゝばらず)の意を表すことあれど茲にては然らず。

15. 『わしは(其時は頭に冠を戴いてこそ居らぬ矢張)

王であつたと云つた、が、しかし(王であつたのにもかかはらず其時は全く)ひもじい有様でお前の處へやつて來たら、お前はわしに麩麩を呉れた。わしの頭は暴風雨の爲めに濡れて居た。お前はわしに御前の床の上へ寐よつて云つた、すると、お前の息子それが居ないので今おまへの歎いて居るその息子が、わしに夜具を着せて呉れた。』

【註】 I have said. 「わしは今云つたから御前は承知だらうが」。

I was king. (百七十七—百七十八頁参照)

yet. 「王であつたには違ひないがしかし其時は」。

I came to thee hungry = I was hungry when I came to you. (百七十八—百七十九頁参照)

Came とあるは此父の家を標準とせるを以てなり。

thou gavest = you gave.

with 原因 (Cause) を表はす。

He was drenched with rain and benumbed with cold.

「雨にしよぼ濡れになつて、寒くてガタガタふるえて居た」。

the tempest. 「其時の暴風雨」。

Thou badest me lie down

= You told me to lie down. (百七十九頁参照)

couch = bed.

mourn. 上の for whom の for と合して mourn for.

「人のなくなりしを悲しむ」の意。

She is mourning for her husband.

比較:— She is mourning over his death.

「その女は夫に死なれて悲しむで居る」。

covered me. 「夜具を被せてくれた」の意。

16. 『(其時)おれは氣が沈んで居たが、お前の娘、それをば今お前が涙ながらに尋ねて居る娘が、わしの膝にだかれた。わしが海狸は森の中でどういふ風にして、その家を作るものだから話してやつたら、=ツと笑うた。さては此娘は印度人を嫌つて居ないんだなと思つては、わしの沈める心も慰められた。』

【註】 in spirit. 「心の中では」「氣が」。

with tears. 「涙を流して」「涙ながらに」「泣く々々」。

sat on my knee. 「だかれた」。

how = in what way. 「どう云ふ具合に」。

the beaver = a beaver = beavers (in general).

比較:— $\left. \begin{array}{l} \text{The dog is a useful animal.} \\ = A \text{ dog is a useful animal.} \\ = \text{Dogs are useful animals.} \end{array} \right\}$ 「犬は有用なる動物なり」。

即此 'The' は單數普通名詞に附し其一を擧げて其類全體を代表するなり、こは殊に動物、植物の特性を云ふ時に多し。

My heart was comforted. 「氣が慰められた」。

I saw that she did not hate Indians.

'Did not' とあれど邦語に譯する時は 'does not' の如く現在に譯せ。英語にては主なる文の動詞が過去の形となれば之に附屬する文中の動詞は通例皆過去となるものなり。此場合にも上の動詞が 'saw' となり居る故從て 'does not' が 'did not' と成りしまでなり。

I asked what he wanted.

「何の用事があるか」と尋ねた」。

I said that I did not know it.

「僕はそれは知らぬと云うた」。

He ran away as soon as he saw me.

「僕を見るや否や逃げ出した。」

17. 『そんな恐い目付をしてわしを視ないでをいで。わしはお前の子供の泥棒でも何でもない。わしはお前の子供を盗んで来た奴等を叱つておいた。二人の子供をばお前に保護しておいてやつた。髪の毛一本だつてどうともなつて居りはしないのだ。赤人は他人より受けた親切を忘れられるとお前は思ふのか。二人はわしの天幕の中で寝て居る。たつた一枚でも毛布があつたら、それをば着せて寐かして置くんだつたけれど。サー、子供を連れて、お前方の所へ歸りな。』

【註】 Turn not on me such a terrible eye
= Do not turn.....

「(こち向いて) そんな恐ろしい目付きをしてわしを視るな。」 (百七十三頁参照)

I am no stealer 單に I am not a stealer と云ふより意味強し。

比較:— He is *no* a scholar; he is a politician.
「學者ではない、政治家だ。」
He is *no* scholar.
「學者でも何でもない。」

Not a hair = Not a single hair. 「髪の毛一本だつて。」

前の例と對照して諸君は定めし覺られつらんが本來ならば *no* a と云ふべき所に殊更に *no* を用ふれば上に示す如く意味強くなると同様の理にて本來ならば *no* を用ふべき所に殊更に *not a* (=not a single) を用ふれば亦其意味強くなるなり。

{ No star is visible. (見える星はない)。
{ Not a star is visible. (見える星は一つもない)。

There was *no* a breath of wind. (そよとの風もなかりき)。

There is *no* a moment to be lost. (一刻も猶豫は出来ぬ)。

a hair of their head.

‘Head’ と單數になれるは二人故頭も二つありなど理窟張れば ‘a hair’ も何だか都合悪くなるゆゑかく單數にせるなり。まさか二人共有の頭と云ふ人もなからむ。

Thinks thou = Do you think.

are sleeping. 「眠つて居る。」

【参考】 「寝る」 ‘to go to bed’

「眠る」 ‘to go to sleep’ ‘to fall asleep’ ‘to fall fast asleep’ (グツスラと)

「眠つて居る」 ‘to be sleeping’ ‘to fall asleep,’ ‘to be fast asleep’ (グツスラと)

Had I but a single blanket, it should have been their bed = If I had only a single blanket, I would have made it their bed.

「たつた一枚でも毛布があつたら、それをば子供達の寢床にしてやるんだつたけれど。」

Subjunctive の助動詞 had, did, were, should 等を往々文の冒頭に持ち來り順序を顛倒して接續詞 ‘if’ を略することあり。

Had we not been interrupted, (if we had not been interrupted), we should have finished it.

「邪魔さへせられなかつたら終へつちまつたらうに。」

Were it not for his idleness, (=if it were not for his idleness), he would be a good student.

「怠惰と云ふことさへなかつたら良生徒だけれど。」

it should have been their bed が何故に I would have made

it (to be) their bed と同じきかと云ふに。

{ It shall be their bed
= I will make it their bed. (百四十五頁参照)

故に { It should have been their bed.
= I would have made it their bed. となる。

唯前者は現在の事實に關して云ひ後者は過去の事實に關し、しかも其反對を假定して云へるまでなり。

比較: { If I worked hard, I should pass.
「精出して勉強すれば及第するだらうに」(現在の事實の反對)
If I had worked hard, I should have passed.
「精出して勉強したら及第したらうに」(過去の事實に反對)

unto. to の古き形なり。

thy people = your people.

18. 王様は手を振つて從者に指圖をした、やがて二人の子供は父の手に抱かれて居たのであります。かくて親子三人の者共は其夜は厚く手當てを受け、其翌日子供は自宅に送られ、村人共は彼等が無事に歸つたを見て喜びました。

【註】 waved his hand to..... 「.....に手を振りて知らする」。

(十三—十四頁参照)

in a moment. 「やがて」「間もなく」「すぐ」。

for that night. 「其夜は」。

【参考】 That will do for the present. 「目下の所は之で宜しい」。

I will be more careful for the future.

「以後はもつと氣を注げます」。

the next day. 「其次の日」「(其)翌日」。

比較: { I went there on Thursday and returned the next Friday.
「僕は土曜に行て其次の金曜に歸つた」。
I shall go there again next Sunday.
「此次の日曜に復行くんだ」。

bore. bear の過去。

the people = the people of their colony.

rejoiced at.

‘At’ は原因を表し「見て」「聞いて」の意。

She wept at the news of his death.

「その婦人は彼の死んだ報知を聞いて泣いた」。

They rejoiced at the news of victory.

「勝利の報知を聞いて喜んだ」。

They started at the sight.

「見て吃驚した」。

I shudder at the bare idea.

「思つたばかりでゾツとする」。



Chase of the Pet Fawn.

愛鹿追ひ

1. 私共の村が出来ましてから、まだ二十年たぬ中に鹿はもう少くなりまして、其後暫く立ちますと、殆ど全く此地方から逃げて行つて仕舞ひました。此美しい動物の一番後へ残つたのの中に一匹の可愛らしい、仔鹿がありまして、まだ極めて幼い時に森から連れて参りまして、此村のある御嬢さんが育てて可愛がつて居りましたが、しまいには全く人に馴れて仕舞ひました。

【註】 Within..... 「.....以内に」。

比較:— { I shall be back *in* a week. (一週間経てば)。
I shall be back *within* a week. (一週間以内に)。

foundation. 學校、村落等總て永久的のものを設立することを云ふ。

had already become..... 「.....それ迄に既に.....した」。

When I got to the station, the train *had* started already.

「停車場へ着いた時電車は既に立つて居ました」。

scarce 「少く」。

Fish are quite plentiful, but poultry are rather scarce.

「魚は澤山ありますが家禽はちと切れ口です」。

in a brief period 「暫く立つと」。

later 「其後」。late の比較級。

late (晚い) { later (尙ほ晚い)(其後) latest. (最も晚い、最近の)(時間)。
latter (二ツの中後の方の) last. (最後の)(此前の)(順序)。

He came *later* than I—three days *later*.

「彼は僕より後に来た——(僕の来た)後三日して」。

the country. 「此地方」。

the last. 「一番後に残りしもの」即ち之が居なくなれば全くなくなりしなり。

these beautiful creatures = deer.

a pretty little fawn. 前の one (of the last.....) と同格。

brought in. 森より持ち來りし故 in を用ゐたるなり。

nursed. 「育てる」故に乳母を a nurse と云ふ。

petted. 「pet (秘藏物)とする」即ち「可愛がる」。

, until. 「遂に」「.....して居たがやがて」。

(百五十九頁参照)

became domesticated = became tamed 「馴れた」。

(百五十八頁参照)

2. それは立派でした、いや(これに限らず)總て此類は皆さうですが、そして又大層おとなしくて、ギヤレるが好きで皆の人に大変可愛がられるようになりました。家内の者の誰や彼やにつきまわつて到る處、可愛がられ歓迎されて居りました。或朝のこと、例の通り跳ねまわつておしまひに、到頭疲勞れてしまつて、日向の、平素可愛がつて下さる人の脚下に、さる店の入口の段の所へゴロリと轉がりました。

【註】 It =: The fawn.

graceful. 「上品な」

those creatures = deer.

always are = are always graceful.

so.....that——「非常に.....だから——した」

a great favorite. 「非常な秘藏者」

Following.....about 「つきまわる」

The dog follows me everywhere.

「此犬は何處へでもついてくる」

caressed 「可愛がつた」

gambling about. 「跳ねまわる」

, until weary = until it became weary. 「到頭疲れて」

(百五十九頁参照)

threw itself down = lay down. 「所在なさそうに寝る」

「コロガル」

【用例】 He threw himself down on the grass.

「コロリと草の上へ寝た」

【類例】 He sat'd him elf by the fire = He sat down by the fire.

He laid himself down = He lay down.

in the sunshine. 「日向に」

【類例】 'in the shade' 「日陰に」 'in the dark' 「暗黒に」 'in the wet」

「雨降りに」

at the feet of..... 「.....の足元へ」

friends. 「日頃可愛がつて呉れる人」

door-step. 「入り口の上り段」

a store = a certain store. 「或る店」

3. 折柄其處へ來かかつたは、ある田舎の人、既に多年

獵人が職業で今も猶は、獵犬をば大分飼つて居たが、

かりうど とせい

中一匹は此際矢張此村へついて参りました。その犬は仔鹿の寝て居る所へ近づきますと、不意に立ち止まりました。すると例の可愛らしい動物は、それを見てツイと飛び起きました。

【註】 There came along a countryman.

働作そのものに重きを置きてその働詞(自動詞)を前に出さむとするときにはかく 'there' を劈頭に置くなり。(九十六—九十七頁参照)

{ A Sumurai came along. (御武士が一人丁度其所へやつて来た)

{ There came along a Samurai. (折しも來かかる一個の武士)。

{ A revellion broke out. (内亂が始まつた)。

{ There broke out a revellion. (時しも内亂起りぬ)。

several years. 「大分長年」

Several は無論一つよりは多けれどさまで多からず。

had been..... 「之迄.....であつた」

by pursuit. 「職業は」

【参考】 He is a teacher by profession.

「あれは職業は教師だ」

He is an American by birth, but has been naturalized in Japan.

「あの人は生れは亞米利加人だが日本へ歸化した」

still. 「今も猶」「今でも矢張」

kept. 「飼つて置いた」

【参考】 to keep a dog (or a horse). 「犬を(又は馬を)飼つて置く」

to keep a servant. 「下男(下女)を雇うて置く」

to keep a kuruma. 「車をかかへて置く」

came.....with him. 「ついて來た」

【参考】 The next time I go there I will take you with me.

「今度其處へ行く時は連れて行てやらう」

I have brought my dog with me to-day.

「今日は犬を連れて来ました」

Have you any money with you?

「金の御持ち合せが御座りますか」

on this occasion. 「此際」○ 'Occasion' の前に 'on' は附き物○

【参考】 'on occasion' 「時によると」 'on one occasion' 「或る時」 'on some occasions' 「場合によると」

the little animal = the fawn.

darted to its feet. 「急に立ち上がった」

The servant sprang to his feet when his master entered.

「旦那が這入つて来ると下男は跳び上がった」

4. 一體、此仔鹿は村人の間にありて、既に其半生以上を送つて、一寸見た所では、人々を恐れる心は、もうすつかりなくなつて居た様でした。しかるに今度に限つて、誰云ふとなく自然に敵の近づいたのを覺つたやうに思はれました。で、忽にしてその性質容貌悉皆變つてしまつたやうでした、その今迄の習性をば全く忘れ果て、生れながらの性質勃然としてあらはれ、頭はグツと擡げ鼻孔は大きくなり、眼はギラ々々と輝いて居ました。

【註】 It had lived. 「之迄既に住むで居た」

more than half its life 「その半世以上」

'Half' のその屬せる代名詞、冠詞の先きに来ることを注意せよ。

'half an hour' 「半時間」 'half the money' 「其金の半分」

among. 「.....の間にあつて」「.....の所に」

【類例】 He has lived much among foreigners.

「彼は從來多く外人の間に世を送つた」

apparently. 「見た所では」

It was apparently three feet long.

「(實際は兎も角)見た所では長さ三尺ばかりあつた」

A man may be apparently friendly, yet malicious at heart.

「人は外面は親切そうでも内心は極悪いこともある」

「外面如菩薩、内心如夜叉」

now. 「此時に限りては」

instinctively. 「本能的に」「自然に」

【参考】 He instinctively held out his hand.

「彼は思はず識らず手を出した」

at hand. 「近くにある」「近づいた」場所、時間共に用ふ。

The examination is at hand. 「試験が近づいた」

In an instant. 「忽にして」 (百十三頁参照)

seemed changed = seemed (to have) changed.

wild impulse. 「野獸本來の性情」

was awake. 「勃發した」

its head erect = its head (was) erect.

its nostrils dilated = its nostrils (were) dilated.

鼻息荒きを指せるなり。

its eyes flashing = its eyes (were) flashing.

5. するとまた、見て居た人々がハテ危険と思ふ間もなく、平素その鹿を最負にして呉れた人達がまだ捕り抑へる間もなき中に(既に)、仔鹿は勢烈しく往來を跳んで行く、あとから獵犬が全速力で、おつかけて居りました。あたりに立つて居た人達は、何とかしてこれを助けてやりたいと；中には其後をおつかけて行つた者